

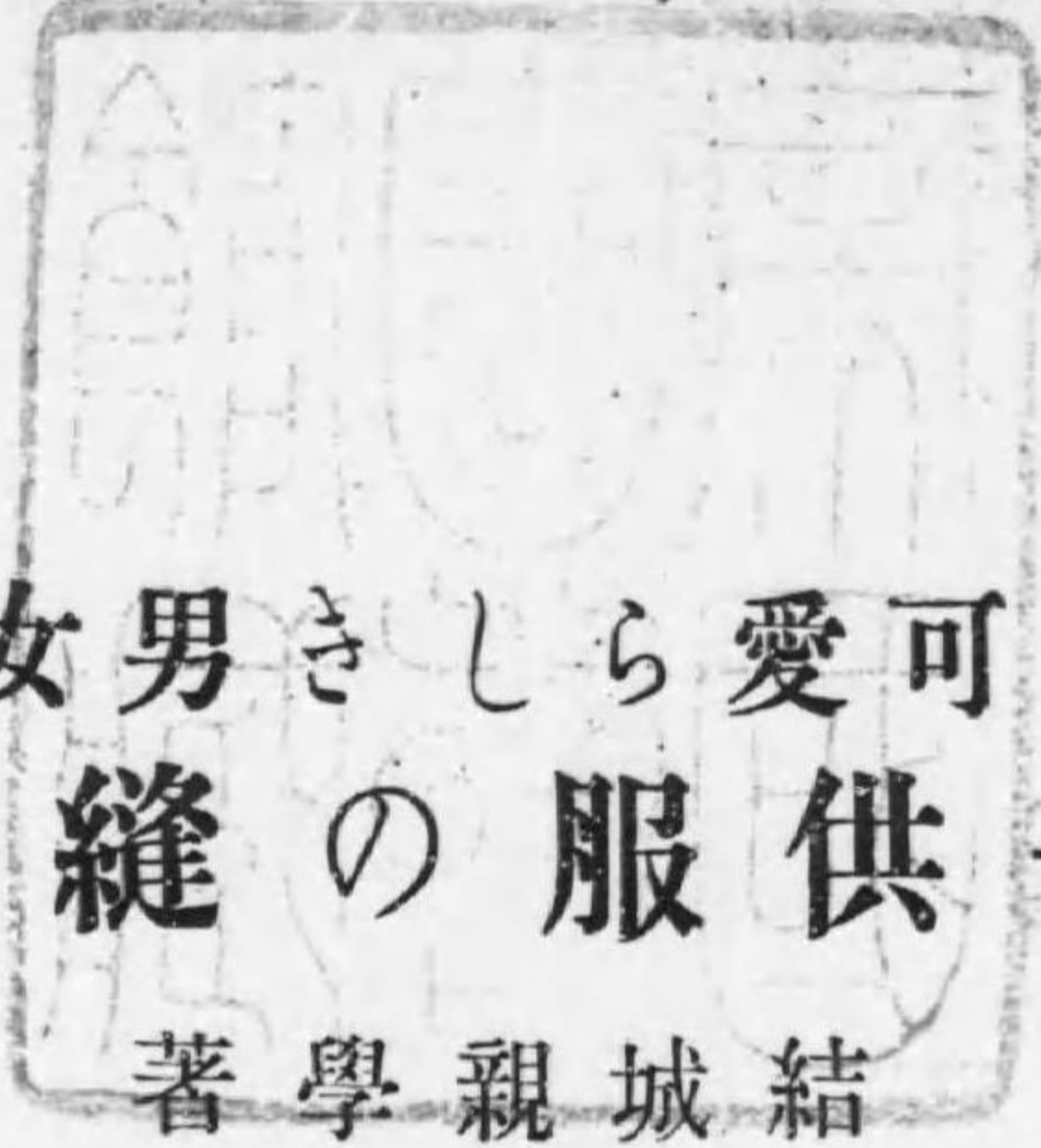
528

33



始





可愛らしき男女
子供服の縫方

結城親學著



東京・大阪

東洋圖書株式會社

發 兌



序

一、洋服裁縫がむづかしいと言ふのは、製圖法だの型紙の置き方だのといふ、特に困難な所から學び初めるからであります。歐米諸國では洋服の型紙が普及してゐて、これに依つて裁縫しますから、相當複雑な形の服でも和服の單衣を縫ふ位の手軽さで裁縫が出来ます。本書はアメリカの例に倣ひ不肖私の考案になる「新型紙」に依つて親切丁寧に縫方の説明がしてありますから、子供服の縫方としては他に類例のないわかり易いものだと思ひます。

二、本書は男女兒童生活のあらゆる場合に應ずべき各種類を悉く網羅してゐますから徹底的洋服生活を希望される方のよい道しるべとなり、又よい伴侶となりませう。

三、スタイルはアメリカ式で可愛らしくて而かも流行、廢のない型です。平素着や幼稚園、學校等の制服は此の中にお求めになるのが便利であります。

四、本書は基本的なスタイルに基本的な縫方が配置してありますから、本書に依れば洋服裁縫に必要なあらゆる技術を學ぶ事が出来ます。ですから洋服裁縫を獨習なさる方にも亦學校の参考書にも適當でありませう。

五、終の篇に種々の流行型を自由自在に作り得る「ドレス原型」の説明と、各種寸法表、製圖法等を添へて置きました。型紙による實習の出来た方はこれによつて洋服裁縫に關する基本的の知識をも體得される事が出来ませう。

大正十三年五月

著 者 識

目 次

—(1)—

| | | |
|-------|--|----|
| 第 一 篇 | 子供本位の子供服…………… | 一 |
| 第 二 篇 | 子供服の着せ方…………… | 六 |
| 第 三 篇 | アメリカの裁縫…………… | 三 |
| 第 四 篇 | 新型紙 <small>(結城ニュー)</small> の使用法…………… | 九 |
| 第 五 篇 | ウエストゴツロース <small>(新型紙第一號)</small> …………… | 三 |
| 第 六 篇 | コンビネーション <small>(新型紙第四號)</small> …………… | 三 |
| 第 七 篇 | シミ…………… — <small>(新型紙第五號)</small> …………… | 三七 |

528-33

| | | |
|------|-----------------------|----|
| 第八篇 | ベチコート(新型紙第五號)..... | 四一 |
| 第九篇 | ブルーマードレス(新型紙第二號)..... | 四五 |
| 第十篇 | パンツドレス(新型紙第六號)..... | 五三 |
| 第十一篇 | ドレス(新型紙第七號)..... | 六一 |
| 第十二篇 | ドレス(新型紙第八號)..... | 六七 |
| 第十三篇 | ドレス(新型紙第九號)..... | 七三 |
| 第十四篇 | ミツデイドレス(新型紙第十號)..... | 八一 |
| 第十五篇 | ロンパース(新型紙第十一號)..... | 八九 |
| 第十六篇 | ロンパース(新型紙第十二號)..... | 九五 |

| | | |
|-------|-------------------------|-----|
| 第十七篇 | ミツデীবブラウス(新型紙第十三號)..... | 九九 |
| 第十八篇 | ユニオンズーツ(新型紙第十四號)..... | 一〇五 |
| 第十九篇 | ボーイパンツ(新型紙第三及十五號)..... | 一一三 |
| 第二十篇 | ボーイウエスト(新型紙第十五號)..... | 一二七 |
| 第二十一篇 | ブラウスパンツ(新型紙第十六號)..... | 一三三 |
| 第二十二篇 | ボーイコート(新型紙第三號)..... | 一三一 |
| 第二十三篇 | シャツブラウス(新型紙第十九號)..... | 一三九 |
| 第二十四篇 | パンツ(新型紙第十七及十八號)..... | 一五一 |
| 第二十五篇 | 詰 袷 服(新型紙第十八號)..... | 一五九 |

| | | | |
|-------|---------------------|-------|-----|
| 第二十六篇 | 脊 廣 服(新型紙第十七號) | | 二七一 |
| 第二十七篇 | 幼兒オーバーコート(新型紙第二十號) | | 二八七 |
| 第二十八篇 | 男兒オーバーコート(新型紙第二十一號) | | 二九五 |
| 第二十九篇 | 女兒オーバーコート(新型紙第二十二號) | | 二〇三 |
| 第三十篇 | ケ ー プ(新型紙第二十三號) | | 二二一 |
| 第三十一篇 | ドレス原型(新型紙第二十四號) | | 二二七 |
| 第三十二篇 | 製 圖 法 | | 二三二 |

目 次

終

第一篇 子供本位の子供服

一、子供洋服の時代

大人の日々の生活までが子供本位に出来ないまでも、子供の生活こそは「子供本位」にしたい。とは私の切なる希望であります。和服と洋服とどちらが子供の生活に適するかといへば、どなたも洋服が子供の生活に適することはお認めなされるだらうと思ひます。やがて子供洋服の全盛時代が来てこれが永遠に子供の平素着となり洋服の洋の字がとれて單に服と稱ばれるやうになるのも近い事でありませう。

しかるに近頃子供の洋服が「子供本位」から遠ざかつて「母親本位」にならうとする著しい傾向を認めて、これは折角服装の改善されやうとする時代の良い趨勢をはずむ事になりはせぬかと思はれて恐ろしい心地がしますので次に心付いた二三の點を申し述べます。

二、服の種類とスタイルの選定

第一は服の種類及びスタイルの選定であります。子供は子供、大人は大人で大人の小型なのが子供ではありません。しかるに子供に大人の服を着せて得意がられる方が多いやうです。男児服として最も子供の生活に適する服はオーバershirtに半ズボンであります。シャツの上にコート即ち大人のやうな上衣を着せる事は何か特別の場合であります。もとよりコートを着たまゝで活動する事は大人にもありません。然るに暖い日に公園に行つて見るとスベリ臺やブランコのあたりにコートを着た儘の男児

が窮屈さうに遊んで居るのをよく見受けます。私は何故親達はあのコートを脱がせて子供らしく遊ばせて呉れないのだらうと思ひます。

オーバershirtは仕立が簡易ですから自宅で仕立てる事が出来ます。冬季ならフランネルで作ると小倉の洋服よりも安價で却つて暖かです。小學校の指定服として店頭に吊るしてある小倉服は窮屈な上に洗濯が出来ないからあの指定を廢して寧ろシャツ、ズボンの軽快なスタイルを奨励して戴きたいと希望いたします。

女兒に就ても同様で學校服といふ物はアメリカあたりでは本綿が普通で毛織物はサージ級の色の華かでない飾の少ない物を用ひます。男児のシャツと半ズボンに應ずる物はミツデイー、ブラウスにスカートです。ミツデイー、ブラウスは水兵襟のついた型で小學校、女學校を通じて用ひられます。之も仕立方が簡單ですからフランネルや木綿で手製にするなら軽快で安價で誠に實用的です。男児のシャツ、ズボンと相俟つて小學校の指定服にして戴きたいものです。

イギリスやアメリカから来る流行型本のスタイルは多くは特別の型で其の見出しを讀んで見るとお祭りのドレス或は茶話會のドレス等と書いてあります。自然飾が多くてポケットは付いて居りません。かういふスタイルのドレスは薄い布地と華かな色を使ひます。しかるに母親達は之等のスタイルを學校服に用ひ様とされるから冬向は厚い生地で飾の多い服を作る事になつて繪の様なスタイルには出来ないで不恰好な物をさらびやかな飾に目を喜ばせて得意の方が多いいのも「母親本位」の弊害でありませう。

三、布地の選擇

第二には布地の選擇であります。私は大阪に洋服講習所を持つて居て生徒を教へて居ますが、其處に洋服の仕立を頼みに見える方があります。冬向の子供ドレスの布地としては實際に變つた物はありません。それは外國では子供用として普通品以外は殆ど使はないから日本の母親達の望まれる様な布地を輸入する途がないからです。そこ

で婦人服の布地に眼が付くのですが婦人の服地は手薄で柔かなので寒さうなといふて母親達の意に叶はないのです。さうしてとうとうオーバーコートの布地に眼が移ります。オーバーコートの布地は却々變つた物があつて一ヤール五圓から十圓位まで色々あります。講習所に仕立を頼まれるドレスはかうした譯でオーバーコート地を持つて來られる方が多いのです。ところがコート地でドレスを作るといふ事はスタイルを定める上に非常に困難があるのです。そしてやうやう出来上つたドレスは價は高くついてはゐるが重苦しくて決して子供の生活に適しません。洋服は其の構造上和服よりも保温に適して居ますから寒風にさらされる様な場合で無い限りさう厚着させる必要はありませんのにかうした事も「母親本位」のためでありませうか。アメリカは特に清潔を貴びますからかうした「母親本位」で洗濯も出来ない高價な不經濟な厚地よりも木綿の洗濯の可能なのを重寶がります。日本も潔癖な國でありますから何年も洗濯しない厚地よりも木綿かサージ位の生地を子供服に採用して戴きたいものです。

第二篇 子供服の着せ方

一、女 兒

ユニオンズーツ 肌に直接つけるのは、寒い時ならメリヤスのユニオンズーツがよいと思ひます。之は袖は手首まで脚はかゝとまでの長いもの、袖も脚も極めて短いもの等色々あります。御自宅でお作りなさいますのでしたら、新紙第十四號によつて縮ネルでお作りなさい。男兒用として出来てゐますが、股を開けて作ると女兒の肌着としても適當です。

ウエスト 之は女兒の下着として必ず用ひます。ウニストには靴下釣やヅロース、ベチコート等をかけます。

ヅロース 股を開けないで両脇の上部を開けます。用便は後の帯を取り外して足します。洋服は一般に短かく着せますから股の開かないヅロースは缺く事の出来ない必要な下着です、ウエスト、ヅロースは新紙第一號で出来きます。

コンビネーション ウエストとヅロースを續けたものです。其の用途はウエスト、ヅロースと同じで、兩者を重ねて着せる事はありません。これは新紙第四號です。

シミー 子供は必ず着ると定つては居ませんが、寒い時にはネルのシミーをウエストの上に着せると暖かです。

ベチコート アンダースカートとも言つて正しい服装には必ず着せます。腰から下だけでウエストに釣るのもあり、ウエストにスカートを縫ひつけたのもあります。私の子供は肩から裾まで續いたプリンセスといふ型のベチコートを着せて居ます。新

型紙第五號はシミールとプリンセスペチコートを集めてゐます。

ドレス ドレスは和服の長着に當ります。之は着る場合について申しますとスクールドレスは學校着で木綿又はサージの地質も色も丈夫なのを用ひ、日曜祭日にはサンダードレス、ホリデードレスといつて色の華かな飾の多いドレスを着ます。お茶や食事に招かれた時は子供でも絹製の袖の短いパーテードレスを着ます。新型紙第七、八、九號はいづれもスクールドレスとして適當です。

ブルーマードレス (新型紙第二號) **バンドレス** (新型紙第六號) 等はよく幼稚園や學校行に用ひられて、アメリカでは近時特に流行して居るさうです。ブルーマーソヤパンツをはかせる時はツロースははかせません。

ミツデイドレス は學校の制服です。もとよりアメリカには一定の制服といふものはありませんが、厚い木綿又はセルで作つたミツデイドレスは最も廣く用ひられて居ます。(新型紙第十號)

ミツデイブラウス ドレスは所謂正装に屬しますから、運動服としてはミツデイブラウスが廣く用ひられます。又ブラウスは若い婦人の家庭着としても用ひられます。運動用にはスカートの代りに襷をたんだブルーマーソがよく、婦人服には蹴廻しの廣くないスカートが流行です。(新型紙第十三號)

ロンパース 所謂おいた着で、土いぢりや水遊びに着せます。坐敷をはひ廻る子供には、おしめが落ちないから重寶です。ペチコートの様な下着はいりません。(新型紙第十一、十二號)

オーバーコート 洋装では概して厚着はしません。之は室内の温度が高い爲でせう。だから外出には必ずオーバーコートを用ひます。ドレスは多く木綿で作られますが、オーバーコートは地の厚い毛織物を使ひます。(新型紙第二十、二十二號)

ケープ オーバーコートの代りにケープも用ひます。之はサンダードレスの様な飾りの多いドレスの上着として用ひられ、學校行き等には矢張りオーバーコートを着ま

す。(新型紙第二十三號)

二、男 兒

ユニオンスーツ 男兒の下着にはユニオンスーツを用ひ、ヅロースや日本の猿股の様に、股の閉ぢたものは着せません。(新型紙第十四號)

ウエスト ガーターやパンツをかける爲に、女兒と同じウエストを着せます。(新型紙第一號)

シャツブラウス 大人のカラシシャツ(ワイシャツ)と同じ形のもので、パンツの上之を着て道を歩いたり、授業を受けて居る男兒を見ると、輕装で非常に愉快な感じになります。アメリカではこのスタイルを通常服として用ひます。スーツを着るのは少々改まつた様に思はれます。(新型紙第十九號)

スーツ 體に着る物と、脚にはく物と同じ生地で作つた物をスーツといひ、女兒の

ドレスに當る着物です。ボーイスーツの普通の種類は次の三種です。

ウエストパンツ ウエストは、やはらかい布で作つて下端がパンツの下にはいりません。即ちウエストにボタンをつけて、之にパンツを釣るのです。前のガーターを釣るウエストは特に、アンダーウエスト(下着としてのウエスト)といつて此のウエストと區別します。(新型紙第十五號)

ブラウスパンツ ブラウスもやはらかい布で作り、頭からかぶつて着るので前にボタンがなく、長くパンツの上に垂らします。水兵型の衿の付いたのが多いです。(新型紙第十六號)

コートパンツ コートは男子の上着と同じ種類の物で、少々地厚の布を使ひます。ヨーク(肩あて)をつけたり、襷をつけたり、バンドをしめたりするのが男兒服の特徴です。詰衿服はアメリカでは一般に用ひません。小學校の兒童は衿を開いた大人のサックコートと同じ型のを着ます。(新型紙第三、十七、十八號)

オーバーコート 女児の様に變つた型のは用ひません。短いマキノといふコートも多く用ひます。ケープは絶対に男児は着ません。(新型紙第二十、二十一號)



第三篇 アメリカの裁縫

一、裁縫教育

洋服裁縫を學ぼうとする方には、アメリカに於ける家庭裁縫の状況を知られる事はよい参考になります。アメリカの小學校ではソーイング即ち裁縫科を課する學校は尠いのです。ハイスクール(女學校)では裁縫科はあるけれども、隨意科ですから之を修めない生徒が多いです。結局アメリカでは學校に於て裁縫を學ぶ婦人が尠い譯です。併しさういふ人も一家の主婦になると、自分の物や子供の物は、大抵家庭で縫ひます。それ

ならどうしてかういふ婦人達が裁縫を學ぶかといふに、それには種々の社會的施設が
あります。

基督教女子青年會 附屬の裁縫教授所があつて教へて居ます。又この教師を家庭
に聘して知り合ひの婦人達數人して毎週一回、一時間位づつ稽古する人も多いです。
夜學科 ハ이스クール(高等女學校)には各科の夜學があります、三ヶ月位で卒業
する裁縫科は何時も満員です。

教授所 和服裁縫に於けるお師匠さんの様に内弟子をとつて教へる所、數十人を收
容して學校式に教へる所等色々あります。

商店 デパートメントストアの洋服地賣場には裁縫に心得のある賣子が居て、
顧客に裁縫を教へて居ます。賣場の隅にあるテーブルを圍んで數人の婦人が針を運ん
で居るのは何時でも見る所です。

二、裁縫の仕方

ごく初歩の人は大體服の形に縫ひ上げた物を買つて来て、之を仕上げて着せます。
私は四十五仙で丈夫な木綿ドレスの半製品を買つて来ました。之は頸の圍りと前あき
を切りあけて仕上げをなし、裾を折り込んでへムをすればよいので帯は縫つたのがつ
いて居ます。

少し心得のある人は生地を裁ち合せて、袋に入れたのを買つて来て縫ひます。私の
買つて来たのは布が上等なので一弗半ばかりの價ですが、配合のよい色の布地を裁ち
合せて刺繡もしてあります。之は縫ひ合せて仕上げるので、出来上げれば數弗の價の
品になるのです。家庭で縫ふには心ずしもミシンは使はないので、手仕事を特に貴び
ます。上等のドレスは大抵手縫ひです。

一通り裁縫の出来る人は型紙(パターン)を求めて、之によつて裁縫します。型紙は

丁度日本の柄、模様のように専門の意匠家が考案して大仕掛に發行するので、所謂スタイルブツク、ファッションブツク等の洋服の流行を描いた本は皆此の型紙のキヤタロ



グです。だから型紙を使ふならどんな新型(ニユースタイル)でも出来ます。

材料店にはそれ／＼特約の會社があつて、其の型紙を賣つて居ます。アメリカ人は服の仕立てを専門の仕立屋に頼むにも、必ず自分好む型紙を持つて行きます。服の良し悪しは縫方の手際よりも全體の意匠にあります。特に着る子供の個性に適應しなくてはなりません。其の爲には型紙の選定にも布地の選擇にも注意し、帯やポケットの位置にも衿の形にも苦心をします。だから折角自宅で作るなら型紙通りにいきなり急いで作り上げる事はなく幾度も子供に着せて見れば直します。

三、日本に於ける洋服裁縫

アメリカに於ける裁縫の實際を見て私等の學ぶべき事は多くあります。

(1) 手縫の奨励 下着類やギンガムの類はミシンで縫ふ方が早くもあり、爲によいのですが、ドレス類は手縫の方が上等です。和服裁縫について一通りの縫ひ方の出来る御婦人が、洋服をお縫ひになるには成るべく其の和服裁縫の力を、應用、利用され

たいものであります。

(2) 工夫する事 スタイルを選ぶのはもとより布地の性質、色合、柄合の選び方、さてはポケットの位置の様な事まで實地其の人について工夫する事が必要です。型紙の通りにしたら長過ぎたとか短過ぎたとかいふ様な事のあるのは、かうした手近かな工夫が足らぬからであります。

(3) 型紙を利用する事 型紙を利用すれば縫ひ方は決してむつかしくありません。だから系統をたて、學ぶ必要もなく、大體第一段下着類、第二段ドレス類、第三段男児服、第四段オーバー類と凡そ四つの階段を設け、實際の必要に基づいて縫つて行けば、容易に洋服裁縫が修業出來ます。

第四篇 新型紙 (結城ニユシ) の使用法

一、サイズ

サイズといふのは物の大きさの事で、足袋の大きさを九文、九文半といふのも又カラの大きさを十四吋半、十五吋等といふのもサイズです。さて小児服の大きさは年齢を以ていふのが普通で、満六才のサイズ、満十才のサイズといひます。そして満六才前後で中等の發育の子供には満六才の型紙で適當なのですが、若し發育が非常によいといふ事になると、年齢によつてサイズが決められませんから、胸圍りを計つてそれ

でサイズを決めます。胸圍りは下着を着てゆるやかに計ります。

二、型をとる事

新型紙には其のスタイルが適當する年齢の範圍内では、どんなサイズにでも應用されるやうに各種のサイズが刷りこんでありますから、其の中から或サイズを選んで線の要所所に記入してある数字を的に必要な線を赤鉛筆で繪どり、全體の形にあやまりが無いかを見定めます。そして之を切り取るとか、或はツレッサー（點線器）で他の紙に移して切り取ります。東洋圖書會社から出してある私の型紙は紙が丈夫ですから、篋で線の上をおさへても紙もやぶれず立派に下の布へ筋がつきます。

三、丈の伸縮

年齢又は胸圍りによつてサイズを決めたら服の大きさが合ふか合はぬかと心配する

必要はありません。併し身丈、行等は又人々によつて違ひますから、之は型紙を伸縮して使ひます。くはしい方法は各種衣類の縫ひ方の條下に記してあります。

四、用布

用布總丈の積り方表が、袋の表に記してありますが、之は概略の積り方で幾分多く見積つてあります。ですから切り取つた型紙を用布の上になるべくつめて配列して總丈を決めるのが正確です。但し型紙の内に布を縦にとるとか斜にとるとかいふ注意のある分は、成るべくそれに従つてならべ、普通は記入してある文字の向きを布の縦に合わせて配列する事が大切です。又、はぎを入れる事によつてすつと用布を儉約する事が出来ます。洋服にははぎを入れたり當布をしたり、繼ぎ足したりする事は随分無遠慮にしてかまひません。調和さへよければ結構であります。

スーロツとトスエウ 篇五第

號一第紙型新

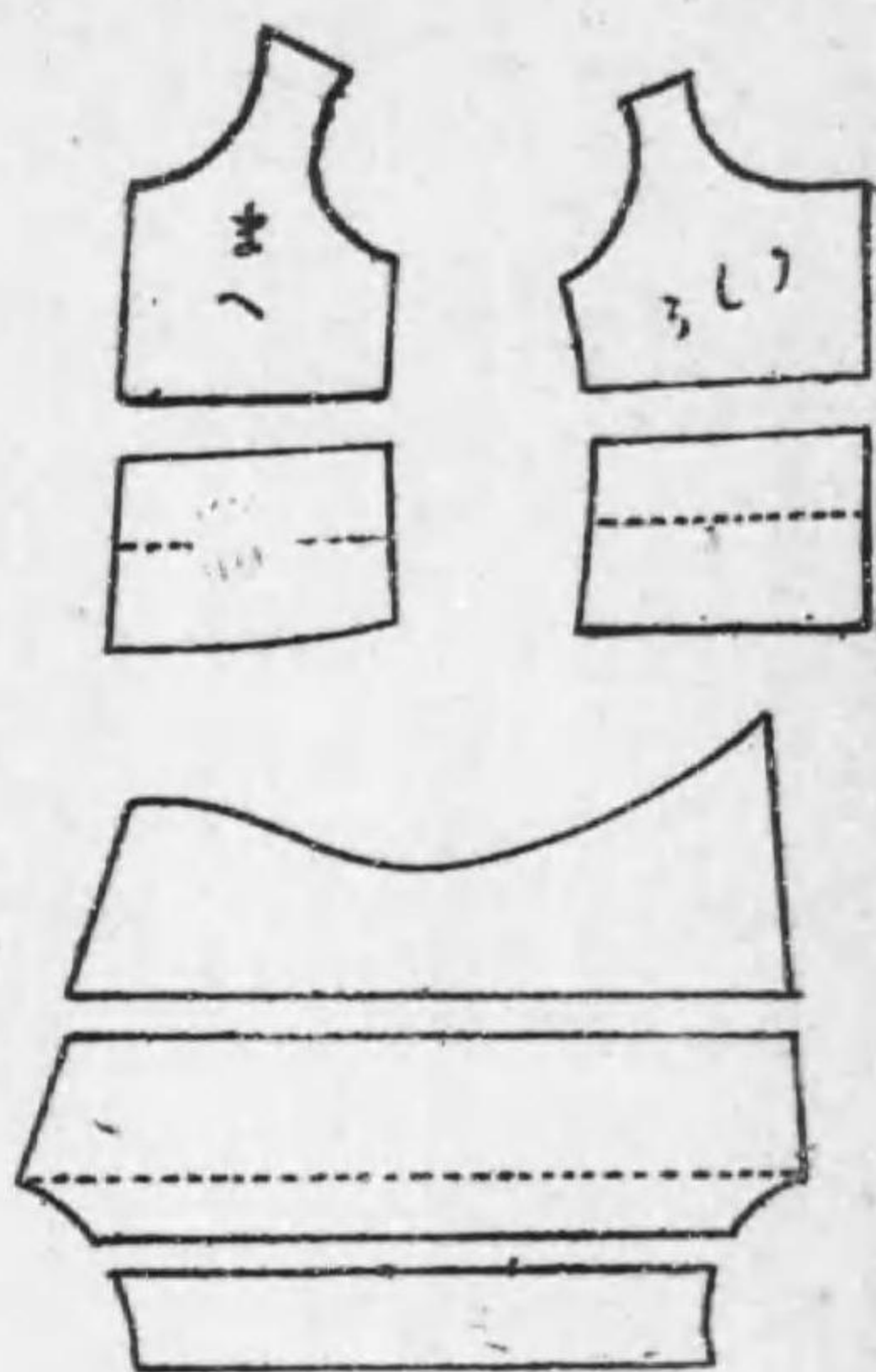


一、寸法のはかり方

ウエストとツロースを仕立てるには先づウエストの胸圍、脇丈、ツロースの脇丈、股上(又は股下)をはかる必要があります。胸圍は脇の下に紐尺をはさみ、お乳の上部の廻りをゆるくはかります。腹圍にゴム紐をしめこれをウエストとツロースの境とし腕の根元から此の紐までの長さをはかつてウエストの脇丈にするのです。ツロースの股下は目測で定めてもよし、或は板に腰を掛けさせて腹圍りの紐から板までの長さをはかつてツロースの股上としてもよいのです。

二、型紙の修正

型紙は胸圍りを基にして選ぶのがよろしいです。そして實測したウエストの脇丈と型紙のウエストの脇丈(ベルトの中心としるした點線の位置が腹圍りの紐の位置に當る)

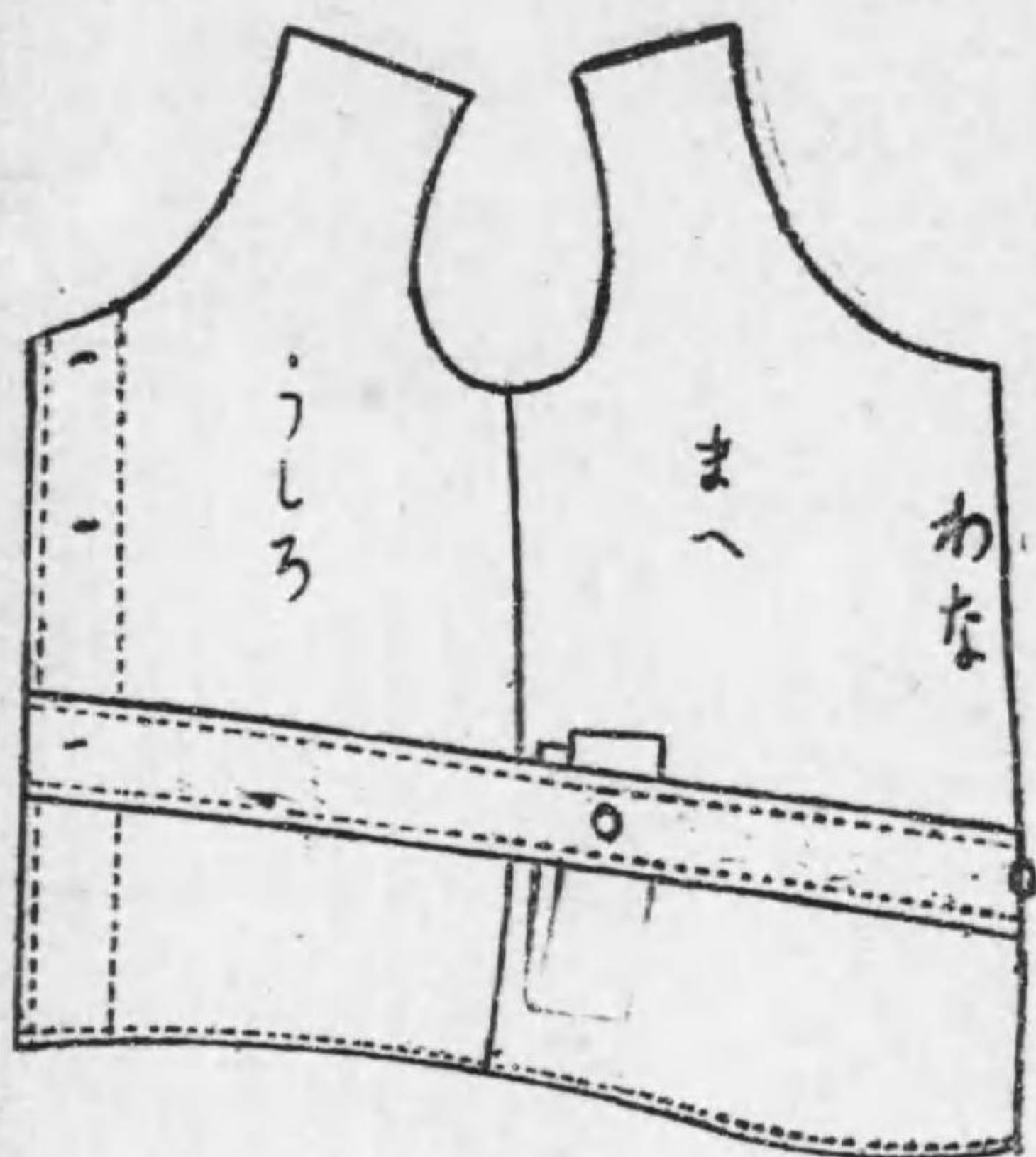


と比べて適當に丈を伸縮するのです。ズロースは股上の丈と、股下の丈とをそれぞれ比べて伸縮するのです。即ち圖の様に型紙を切り離して其の部分を離したり重なりして丈を伸縮します。

三、ウエストの縫ひ方

(1) 後のみかへし 上前(右)も下前(左)も先づ端を半センチ(一分五厘)裏に折り、更に後の中心がみかへし巾の中央になる様にみかへしを折りその兩側を細かく縫ひ付けるのです。

(2) 脇縫ひ 左右とも袋縫ひ又は折伏縫ひにするのです。折伏縫ひは先づ普通に縫



つて、其の後の縫ひ代を半分ばかり切り落とし前の縫ひ代でこれを巻き、後に折り返してまつり付けるのです。

(3) 裾 せまき三つ折縫ひか三つ折ぐけ。

(4) ガーター釣 ガーターは靴トを釣る物で上端に安全ピンが付いて居ます。その安全ピンを通す爲に織の乳の様な物をウエストに付けるのです。即ち巾六センチ(一寸五分)長さ二十センチ(五寸)ばかりの布を筒形に縫ひ、引き返して縫目が巾の中央になる様にしてたゝみ、更に長さを二つ折りにするのです。

(5) ベルト 廻りを半センチづつ裏に折

り長さはウエストの腹圍りに合せます。そしてガーター釣を脇の縫目の前方で、ベルトの下に差し込み、ベルトの廻り全體をこま針で縫ひ付けるのです。

(6) 肩合せ 左右とも後に折伏縫ひにするのです。

(7) 衿まはり バイヤステープ(はず布)の一方の側を表から半センチの縫ひ代で縫ひつけ、其の縫目から裏に折るのです、バイヤスの他の側は半センチ中に折り込み其の折山を身頃にまつりつけます。

レースの付け方、衿廻りのレースは巾の狭いのがよい。レースの裁ち目を正しく切り、身頃の表からあてレースの裁ち目と衿廻りの裁ち目とを揃へてこれにバイヤスを本文説明の如くあて、縫ふ。

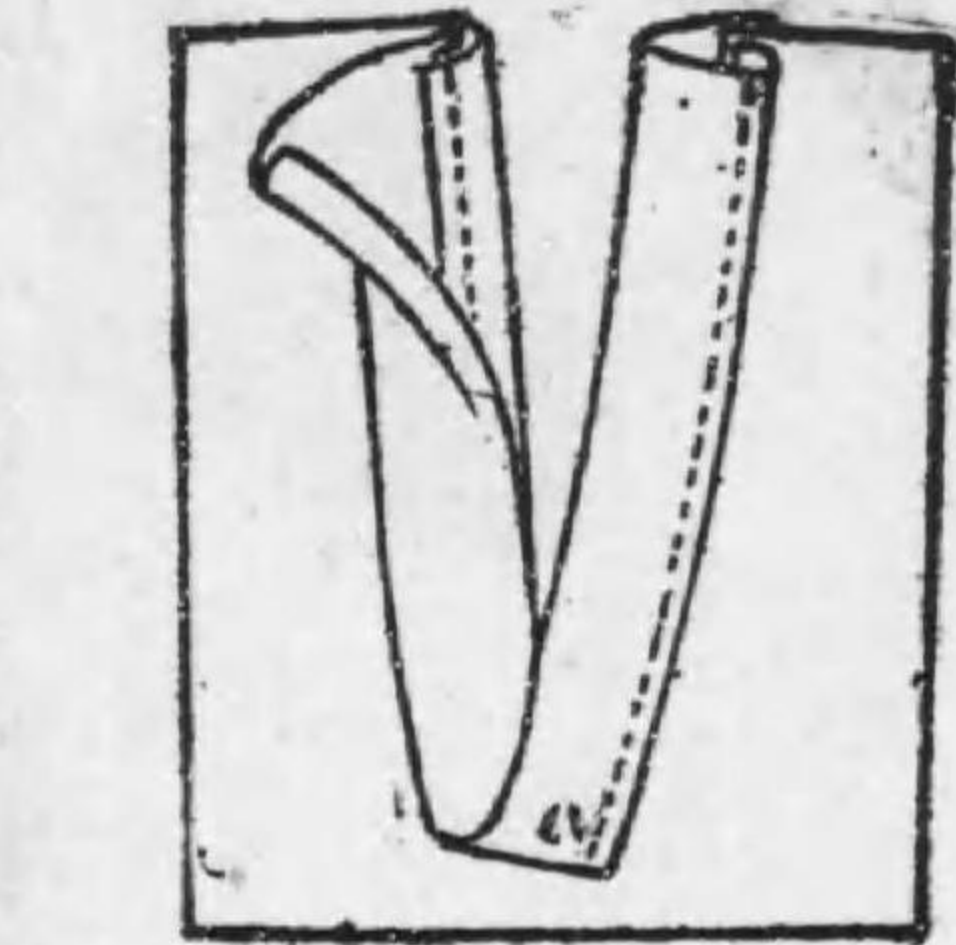
(8) 腕まはり 衿まはりと同様です。

(9) ボタン孔 上前(右)の見かへしの中央に、衿の根元、ベルトの中央、及び其の中間に一二個所横孔をあけてかざるのです。

(10) ボタン 下前(左)の見かへしの中央にボタン孔に相對する様につけます。尙べルトの前の中心と脇のガーター釣の上にもつけます。

四、ツロースの縫ひ方

(1) 脇 脇あけの止めに横に深さ三ミリ(二分)位の切り込みを入れます。ツロースの脇布の一方の側を脇あけの裁ち目にあて端から端まで半センチの縫ひ代で縫ひ、それから脇布の他方の側を半センチ内に折り込みこれを裏から先の縫ひ目にまつり付けるのです。



(3) 後 後の股上を前股上と同様に縫ふのです。

(2) 前 前の股上の左右を合せて袋縫ひ又は折伏縫ひにします。

第六篇 ショーネピンコ

新 型 紙 第 四 號



(4) 股 左右を續きに袋縫ひにするのです。
 (5) 裾口 左右とも三つ折り縫ひ又は三つ折りぐけにするのです。レースをつける場合はウエストの衿廻りに同じです。

(6) 前バンド バンドの両端を半センチの縫ひ代で縫ふのです。前の上端を裁ち目にそつて二筋縫ひ、二本の糸を共に引いて脇布をのばした儘で、バンドの長さに縮めバンドの一方の側を半センチの縫ひ代で初め縫ひ縮めた二本の糸の間に縫ひ付け、他方の側を半センチ内に折り込みこれを裏から、さきの縫ひ目にまつりつけます。

(7) 後バンド 前バンドのつけ方と同様に、但し脇布は縫ひ目から裏に折り返し、其の儘バンドの中に入れます。

(8) ボタン 前後バンドの中央に縦孔をあけます。後バンドの両端にも横孔をあけ、前バンドの両端にボタンをつけるのです。但し前バンドの両端にも横孔をあけ、前後のバンドを重ねてウエストの脇ボタンにかける事もあります。

一、型紙の修正

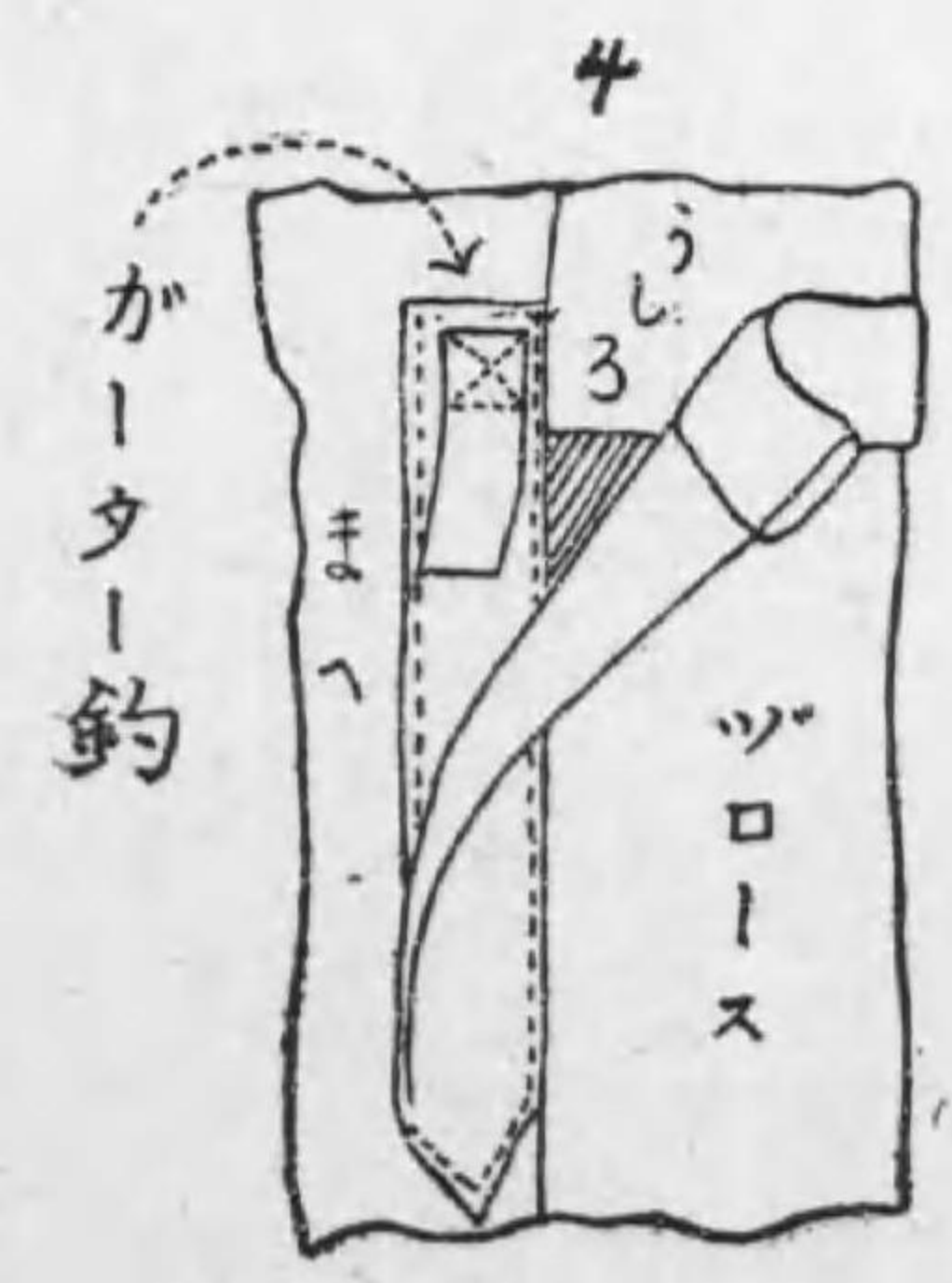
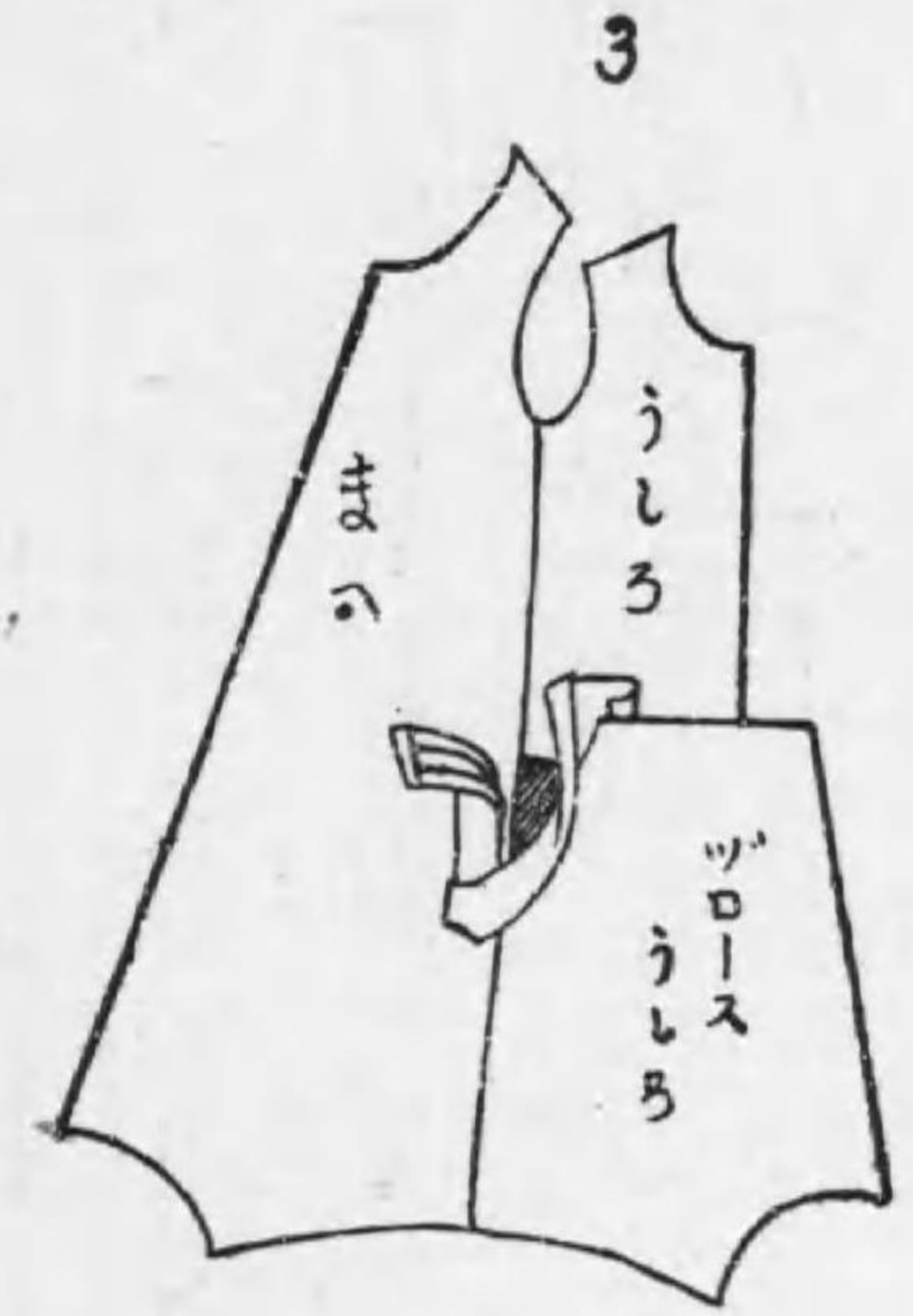
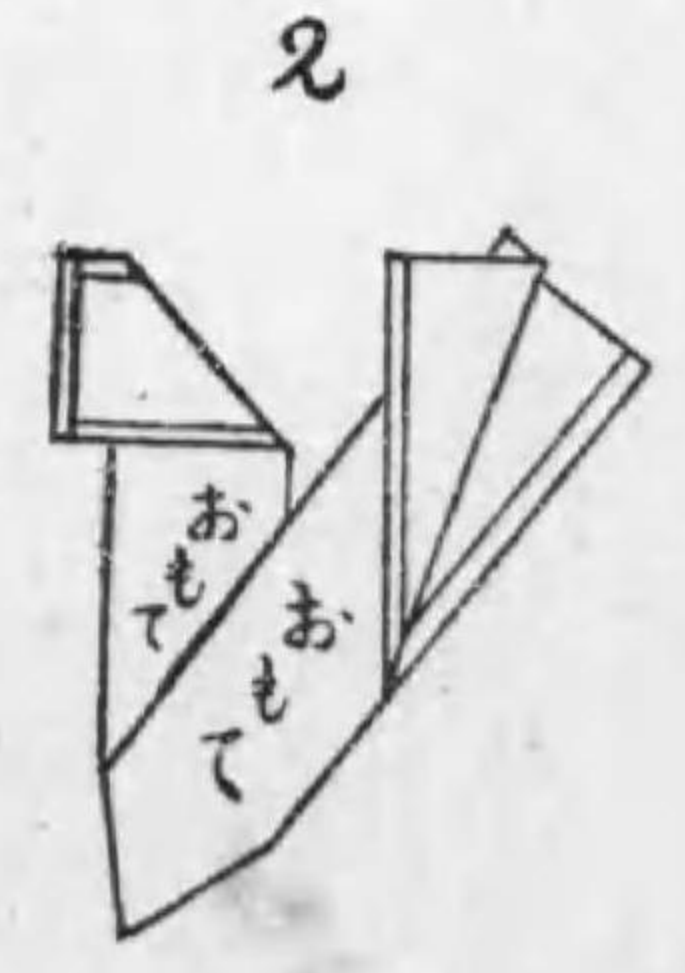
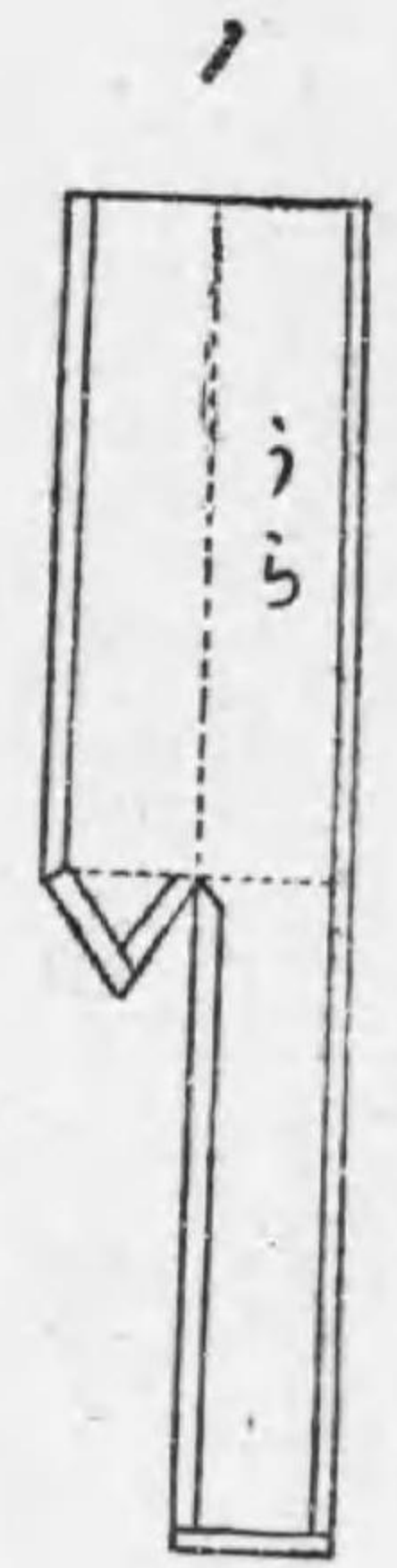


ウエスト、ツロースの實測寸法を基にして、先づ適當の胸圍を有する型紙を選びます。ウエストの脇丈とツロースの股上を加へた長さを、コンピネーションの前の脇丈(股まで)に比べて伸縮し、股下は別に伸縮するのです。ウエストの後ツロースの後の伸縮の仕方はウエスト及びツロースに同じ事です。

二、縫ひ方

- 大低の個所はウエスト及ツロースに同じですから委しい説明は省きます。
- (1) ウエスト後の見かへし(左右)
 - (2) ウエスト後の裾(左右)

(3) ウエストの脇 (左右)袋縫又は前に折伏縫、



(4) ツロースの脇 (左右)袋縫又は前に折伏縫但しツロースの後が二枚のときは先づ、これをはぎ合わせる。
(5) ツロースの脇布 前のツロースと同じ方法でもよいが、圖の様な方法もありま

- (6) ガーター釣 圖の様につける。
- (7) ツロースの後バンド 前のツロースと同じ。
- (8) ツロースのまた下及裾
- (9) 肩合せ
- (10) 衿廻り
- (11) 腕廻り
- (12) ボタン、ボタン孔

— ミ シ 篇七第 —

號五第 紙型新



右圖 シミリー

左圖 ベチコート (第八篇参照)

一、型紙の修正

シミリーの丈はドレスよりも四センチ(約一寸)短いのが普通であります。シミリーの型紙は後衿ぐりが深い為、後丈を以てドレスと比べる事が出来ませんから通常脇丈即ち腕圍りのぐりの下を比べます。丈の伸縮は單に裾の折り込みを加減してします。

二、縫ひ方

肩をボタンでかける事にします。

(1) 肩のボタンの力布 適當の大きさの小布を裏からあてます。下端は折つて縫ひつけ、まはりは裁ち目の儘しつけでとめて置きます。

(2) 脇縫ひ 後に片返し又は折伏縫ひにします。袋縫ひでもかまひません。

(3) ヘム 裾は丈を定めて折り返しその端は更に折つてまつりつけます。下着で

すからミシンでおさへてもよろしいです。

(4) 衿 圖、腕 圖 片方の脇から初めて續きにバイヤスの見返しをつけます。又は両側を折つたバイヤステープを更に二つに折つて衿圍りから腕圍り等の裁目をはさみミシンでおさへるのも結構です。

(5) ボタン 後の肩にはボタン孔をあけ、前の肩にはボタンをつけます。

第八篇 ペチコート

新型紙 第五號 スタイルは第七篇口繪の左圖

一、型紙の修正

ペチコートの丈はドレスよりも二センチ(約五分)短いのが普通であります。通常脇丈、即ち腕圍りのくりの下の丈を比べます。丈の伸縮は單に裾でします。長すぎる分は切り、短い時は丈を伸し脇は上からの斜に従つてひろげます。

二、裁ち方

型紙の裾は仕立上げの丈に裁ち切り、布地はレースの巾だけ短く裁ちます。但しレ

レースの縫ひ代を入れる事は勿論です。

三、縫ひ方

衿圍り、腕圍り、裾等にはレースをつけまます。

(1) 肩合せ 肩を縫ひ合せて後に片返し又は折伏にします。

(2) 衿圍りのレース リボンを通す孔のある巾の狭いレースの裁ち目を正しく切り揃へ、これを衿圍りの表から裁ち目に合せてその上からバイヤステープを開いて載せ身頃の衿圍りとレースとバイヤステープと三つの裁ち目を揃へて縫ひまます。そしてバイヤスで三枚の縫ひ代を包み、身頃の方に折り返へしてまつりつけまます。ミシン縫ひにして針目が表に出ててもかまひません。

(3) 脇縫ひ 後に片返し、折伏縫ひ又は袋縫ひにします。

(4) 腕圍りのレース 巾のせまいレースを衿圍りの様につけまます。

(5) 裾のレース 稍々巾の広いレースを用ひまます。レースの總丈は身頃裾圍りの一倍半位が適當です、これを縫ひ縮めて衿圍りのレースのつけ方同様にしてつけまます。

(6) リボン 衿圍りのレースには細いリボンを通し前で結んで適當に引きしめまます

四、注意

(1) 着よい爲に後中心の上部を十センチ(二寸五分)ばかりあける事もありまます。その場合はツロースの脇の様な持出見返しをつけ、それから衿圍りのレースをつけまます。あいた所はボタン又はスナップでとめ、リボンは充分長いのを通して置まます。

(2) 裾はレースの代りに共布のラツフルをつける事もありまます。ラツフルは巾十センチ(二寸五分)の長さ裾圍りの一倍半位の布をついで輪に作り、下端は細い三つ折縫ひにし、上端は縫ひ縮めてレースをつける様にしてつけまます。

スレドーマルブ 篇九第

號二第 紙型新



子供の着物はゆつくりした程可愛らしく見えるものですから、圍りに付いては修正の必要がありません。身頃とスカートとの継ぎ目は年の幼い程上になるのがよろしいです。身頃の丈は型紙よりももつと短くしてもかまひません。總丈の伸縮は裾の折り込みで、行の伸縮は袖口の方でします。

一、型紙の修正

二、裁ち方

型紙にはスカートの總巾の四分の一が示してありますが、スカートの總巾はこれより少し廣くともせまくともかまひません。一般にやはらかい布は廣い方がよく、堅い布はせまい方がよいので身頃の總巾の一倍半をスカートの總巾としたら適當なギャザになります。帶の丈も型紙の四倍入りますが少しの長短は差支へありません。

衿は前できつちり合ふ型です。前を開くならそれだけ短く裁ちます。左右二枚つので、ハーフカラといひます。衿とカフスは身頃と調和のよい他の布を用ひ裏をつけます。

三、ドレスの縫ひ方

毛織物なら肩と脇と袖下の裁ち目はバイヤステープで巻き、縫ひ目を割ります。木綿物なら折り伏せ縫ひ又は袋縫ひにします。

- (1) 後の見返へし ボタンで閉ぢるなら上前(右)も下前(左)も後の中心が見返へし巾の中央になる様に折りますがスナップで閉ぢるなら上前は後の中心を山にして三つ折り縫ひにし、下前は後の中心から二つに折つて持ち出しにします。
- (2) 肩合せ 毛織物なら縫目を割り、木綿物なら後にかへします。
- (3) 衿 表と裏と合せて外圍り三方を縫ひ、引き返へして圍りに飾縫ひをします。

(4) 衿つけ 左右とも前の中心から後の中心まで衿を表からあて、假縫ひをして、これに巾二センチ半(六分五厘)位のバイヤスをあて、共に縫ひ、縫ひ代をバイヤスで包みその折り山を身頃にまつりつけます。

- (5) 脇縫ひ 毛織物なら縫目を割り、木綿物なら袋縫ひにします。
- (6) 袖縫ひ 袖下を縫ひます。
- (7) 袖つけ 袖の前後に注意して左右を定め袖下の縫ひ目を前身頃袖ぐりの標に合せて假縫ひをします。

此の袖は身頃に比べて幾分大きくは裁つてありますが、それを腕圍り全體に入れるので肩山にだけ特にギャザを作るのではありません。假縫ひが出来たら掛けて見て、もし袖が後にはねたり前に出過ぎたりして居ると左右が違つて居るのですからこれをつけ直し少しの加減の悪いのは全體のゆるみの入れ加減が悪いのですから適當に修正しなくてはなりません。

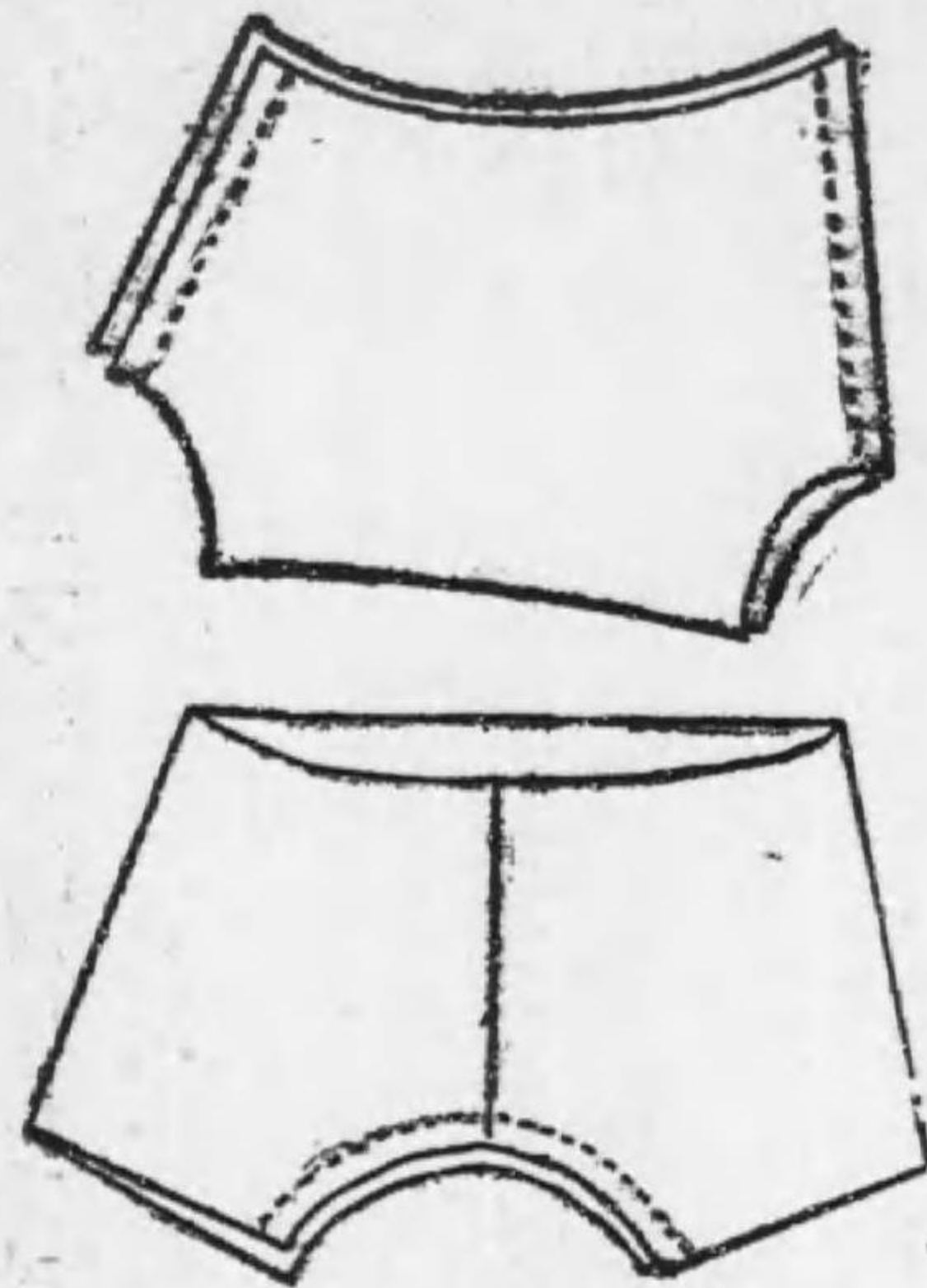
(8) **カフス** 表と裏と合せて口の方を縫ひ、両端を合せて輪に縫ひ、これを表と裏の縫ひ目から折つてカフスを作ります。

(9) **カフスのつけ方** 袖口はカフスに合せて袖山を縫ひ縮めます。カフスの表を外にして袖口の中に入れ、カフスの裁ち目と袖口の裁ち目と合せて縫ひ、カフスを引き出して袖の方に折ります。するとカフスの表が外に出て縫ひ目はカフスと袖との中に入つてしまひます。

(10) **ポケット** ポケットを作つてスカートの縫ひつけます。

(11) **スカート** 布を縫ひ合せてから上端を二筋縫ひ、二本の糸を一所に引いて身頃の中に入れて縮めます。

(12) **スカートつけ** 身頃の後あきは左右の中心を合せて重ね、裾の縫ひ代を折り、その折山をスカートの縫ひ縮めた二筋の糸の間にあてて假縫ひをなし上から飾縫ひでおさへ縫ひをします。



(13) **裾のへム** 折つてまつりつけます。

(14) **帯** 全體の圍りを三つ折り縫ひにするとも、或は巾を二つに折つて縫ひ引き返へしてくけ紐の様にすると、或は中央の前に當るところは適當の巾に縫ひ上げ、兩端は廣げた儘で裁ち目を三つ折縫ひにするとも自由です。又身頃に帶通しをつけるとも、或は前方だけを縫ひつけるとも自由です。

四、ブルーマーシの縫ひ方

- (1) **股上** 前後の股上をそれぞれ左右を縫ひ合せます。
- (2) **股下** 左右をつゞきに縫ひます。
- (3) **裾口** 左右とも三つ折り縫ひにしてゴムを通します。

スレドツンパ 第十篇

新 型 紙 第 六 號



(4) 腹圍り 三つ折り縫ひにしてゴムを通します。

一、型紙の修正

行は短いのですから、大抵は此の儘で修正する必要はありません。又かういふ裁方の行は布巾一ぱいよりは長くないので、其れ以上に長くするには別の布を継ぎ足します。

丈はへムで加減します。

パンツは先づウエスト腹圍のボタンからひざ頭までの脇丈を計つて、次ぎに板に腰をかけた腹圍から板までの股上の寸法をはかり此等の寸法に基いて股上股下の丈を修正します。

二、裁ち方

身頃と袖と續きの布で取つた形をキモノスタイル、キモノスリーブ、チャイナスタ

イルなどいひます。又これをスリツプといふ人がありますが、スリツプとはスツポリかぶつて着る物の事でありますから當らない名稱ではありません。

キモノスリーブの裁方は先づ布を縦に二つに折つて前後の中心とし次ぎに丈を二つに折つて肩山とし、四枚重ねた儘外まはりを裁ち切つて次ぎに衿まはりや後あきを裁つのであります。型紙は用紙の都合上肩で切り離してありますが、實地の裁方にあつては型紙を肩で縫ぎ合せて布の上に置き肩に縫目の出来ぬやうに裁ちます。これはハーフカラ(半分の衿)ですから表が二枚と裏が二枚、カフスも裏表各二枚あります。

三、縫ひ方

其一 ドレス

(1) 後あき 後あきには見返しと持出しとがいらしますが、これは一筋の布でした方

が便利です。即ち巾三センチ(八分)長さは後あきの二倍以上の小布を作り、後あきの裁目に續きに縫ひつけ、裏は折つてまつりつけます。そして上前(右)の方はこれを裏に折つて身頃にまつりつけて見かへしにし、下前の方はその儘にして持出しにします。(第五篇、ツロースのわき参照)

(2) 衿 表と裏と合せてまはりを縫ひ、引きかへして圍りにかゞり縫ひをします。
(3) 衿つけ 衿の表と裏を合せた儘身頃の表に假に縫ひつけ、バイヤステープをのせて本縫をなし、テープで縫代を包んで身頃にまつりつけます。但し衿の後の上前は一ぱいに下前は持出しのきはまでつけるのです。

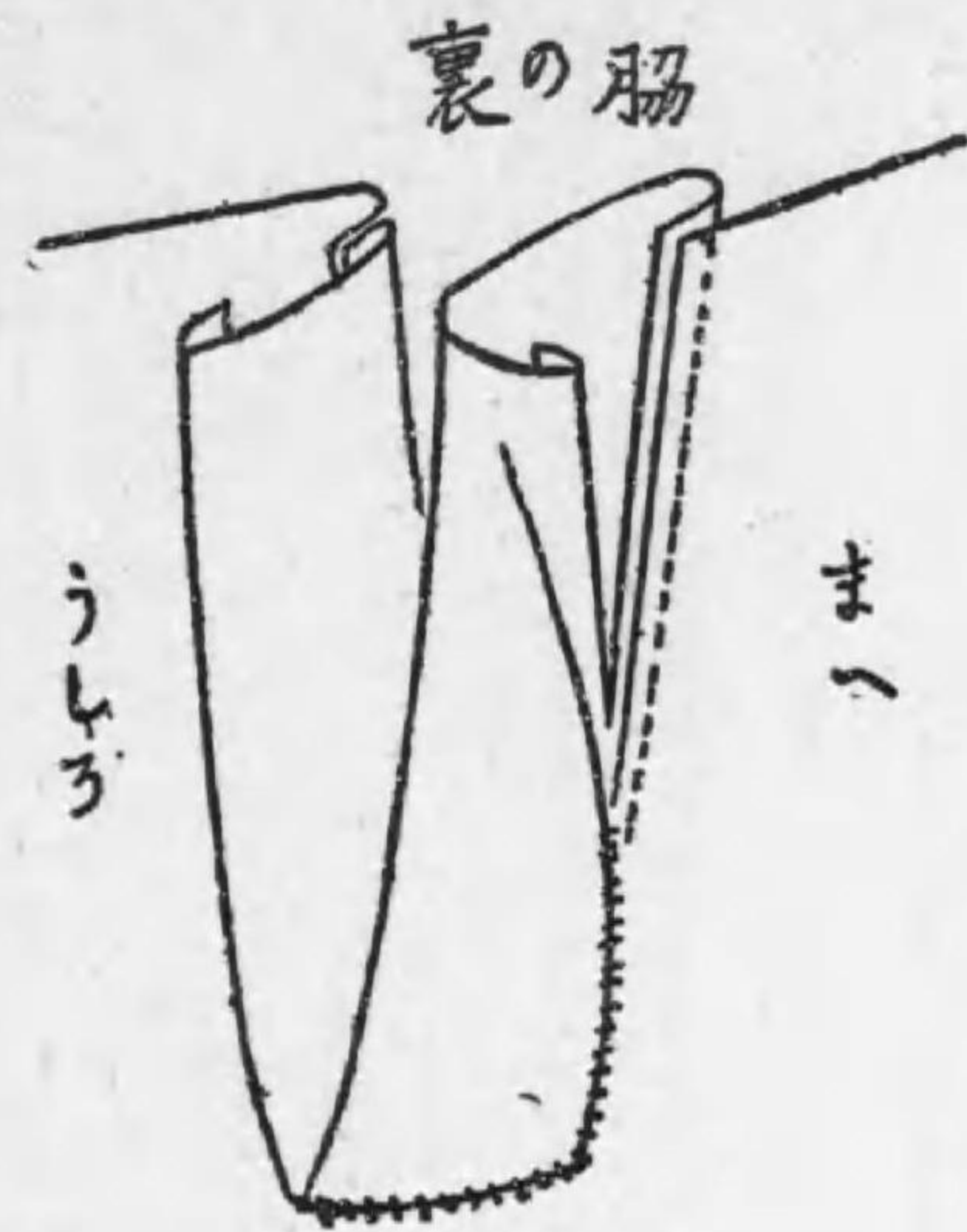
(4) 袖下及び脇縫ひ

(5) 裾のヘム

(6) カフス 表と裏と合せてまはりを縫ひ、引きかへして圍りにかゞり縫ひをします。

(7) カフスつけ カフスの切れた方を袖下縫目の反対の側にやり、衿のつけ方と同じ方法でつけて縫目をバイヤステープでまきます。

其二 パンツ



(1) 脇あき 第六篇コンビネーションと全く同じです。わき布のせまい方を後に真直な方を脇あきの表にあて、縫ひ、次ぎに狭い方を見かへしにして後にまつりつけ、広い方は二つに折つて持出しにしてまつりつけます。

- (2) 前縫ひ 前の股上を縫ひ合せます。
- (3) 後縫ひ 後の股上を縫ひ合せます。
- (4) 前バンド
- (5) 後バンド

いづれも裏に縫ひつけ、表から飾縫ひをします。

(6) 股下 左右を續きに縫ひます。

(7) 裾見かへし これは兩端を縫つて輪に作り、これを裾の裏にあて、縫ひつけ表に見かへして端をまつりつけます。このまつりつけを衿カフス等と同じかゝり縫ひにするのがよいです。

(8) ボタン孔

スレド 篇一十第

號七第 紙型新



一、型紙の修正

上體はキモノスリーブで、それに長方形のスカートをつけたのです。キモノスリーブの行を長くするには、其の儘袖の長さを伸ばすのであります。此の帯は普通のウエストライン（腹圍りの位置）より少し下です。から恰好を見定めて後の衿つけから帯までの丈を計り、其の丈によつて上體の型紙を伸縮します。スカートは裾の折り込みを加減します。

二、裁ち方

上體の前はわなに取り後は切り開きます。ですから後には別に持出し見返へしがいらいます。その長さは後丈に同じく巾は持出が四センチ半（一寸二分）見返しが三センチ（八分）位で適當です。カラは表と裏と二枚、帯は單で長さは型紙より少々長短はか

まひません。圖の衿圍り袖口及び前後左右に縫ひつけてある飾はツリーミングといつて、之は狭い織物です。刺繡をするなら縫ひ方にかゝる前がよいのです。

三、縫ひ方

一般の縫ひ方順序は次の通りです。

- (1) 上體の後あき 右には見返し左には持ち出しをつけます。
- (2) 衿表と裏 と合せて圍りを縫ひ、引き返して圍りに飾縫ひをします。或は表と裏と合せて圍りをし、つけでおさへ、兩側を折つたバイヤステープではさんで縫ひます。

- (3) 衿附 衿を表から假につけ、バイヤステープをのせて一所に縫ひ、縫ひ代をバイヤスでくるんで身頃にまつりつけます。衿をつけないなら單にバイヤスで見返しをつけます。ツリーミングをつけるなら衿圍りを縫ひ代程表に折り、其の上にツリーミ

ングをのせ其の兩側をまつりつけます。

- (4) 袖下と脇 續きに縫ひます。
- (5) 袖口 三つ折りぐけにします。袖口をつけるなら袖口布を輪に縫つて巾を二つに折り、其の裏を袖の裏につけ、表は折りこんでまつりつけます。ツリーミングのつけ方は衿まはりと同じです。

- (6) スカートのヘム スカートの布を繼ぎ合せ裾のヘムを折つてまつりつけます。
- (7) スカートの後あき スカートの後の中央は十二センチ(三寸)ばかりあけて持ち出し見返しをつけます。之は成るべく一筋の小布を使ひ、右を見返して左を持ち出しにします。

- (8) スカートのギヤザ スカートの上端を一センチ(二分)表に折り、其の裁ち目を中心に二筋なみ縫ひをして、其の糸を引いて縫ひ縮めます。

- (9) スカート附 上體の下端を一センチ(二分)裏に折り、其の折山をスカートの縫

スレド 篇二十第

號八第 紙型新



ひ縮めた二筋の糸の間にのせ、表から飾縫ひによつて縫ひつけます。但し上體とスカートの後あきが揃ふのは基よりです。

(10) **スナップ** 後あきには數個のスナップをつけます。
 (11) **ツリーミンダ** 前後左右に垂れてゐるのは、上體にスカートをつけてからのせて、まつりつけたのです。

(12) **帯** 圍りを三つ折り縫ひにし、前は身頃に縫ひつけ、後はしごいて結びます。

一、裁ち方

行は袖口の方で、丈は裾の方で加減します。
袖は身頃と同じでも又は全く違つてもかまひませんが、違ふ布を使ふ場合は色の配合に就て充分の注意をしないでなりません。

二、縫ひ方

後あきにしてもよろしいですが、之は左の肩と袖附をあける事にして説明します。
但し両肩をあけただけで首が出るなら、両肩をあけて袖つけはあけない方がよろしいです。

(1) 脇の切込み 下のスカートになる部分の上端には巾三センチ(八分)の布を縫ひ足して上との重なりにします。そして全體を縫ひ寄せてギャザにし、上の身頃になる

部分の下端は縫ひ代だけ折つて、ギヤザの上のせて飾縫ひをします。



(2) 右肩合せ 前後の肩を縫ひ合せて前方に折り伏せします。

(3) 左肩 前をのせてスナップでとめますから、後は肩の縫ひ代を重なりとして、それに別の見返

しをつけます。前は肩の縫ひ代の標から裏に折つて見返しにします。

(4) 腕圍り 右は全體を縫ひ代だけ裏に折ります。左は後の腕圍りと前の下半分は縫ひ代だけ裏に折り、前の上半分はスナップをつけますから別に巾二センチ半(七分)ばかりのバイヤスで見返しをつけます。

(5) 右袖つけ 袖の上に身頃をのせて飾縫ひをします。

(6) 左袖つけ 前袖のスナップで閉ぢる部分には、巾一センチ半(四分)上りの持出

しをつけます。そして後と前の下半分とは袖の上にも身頃をのせて飾縫ひをします。但し飾縫ひの前に肩を合せ、袖つけ全體をしつけでよく落ちつけて見なくてはなりません。

(7) 袖下と脇 續きに縫ひます。縫ひ目は割ります。

(8) 袖口

(9) 裾のへこ

ス レ ド 篇三十第

號九第 紙型新



一、型紙の修正及裁ち方

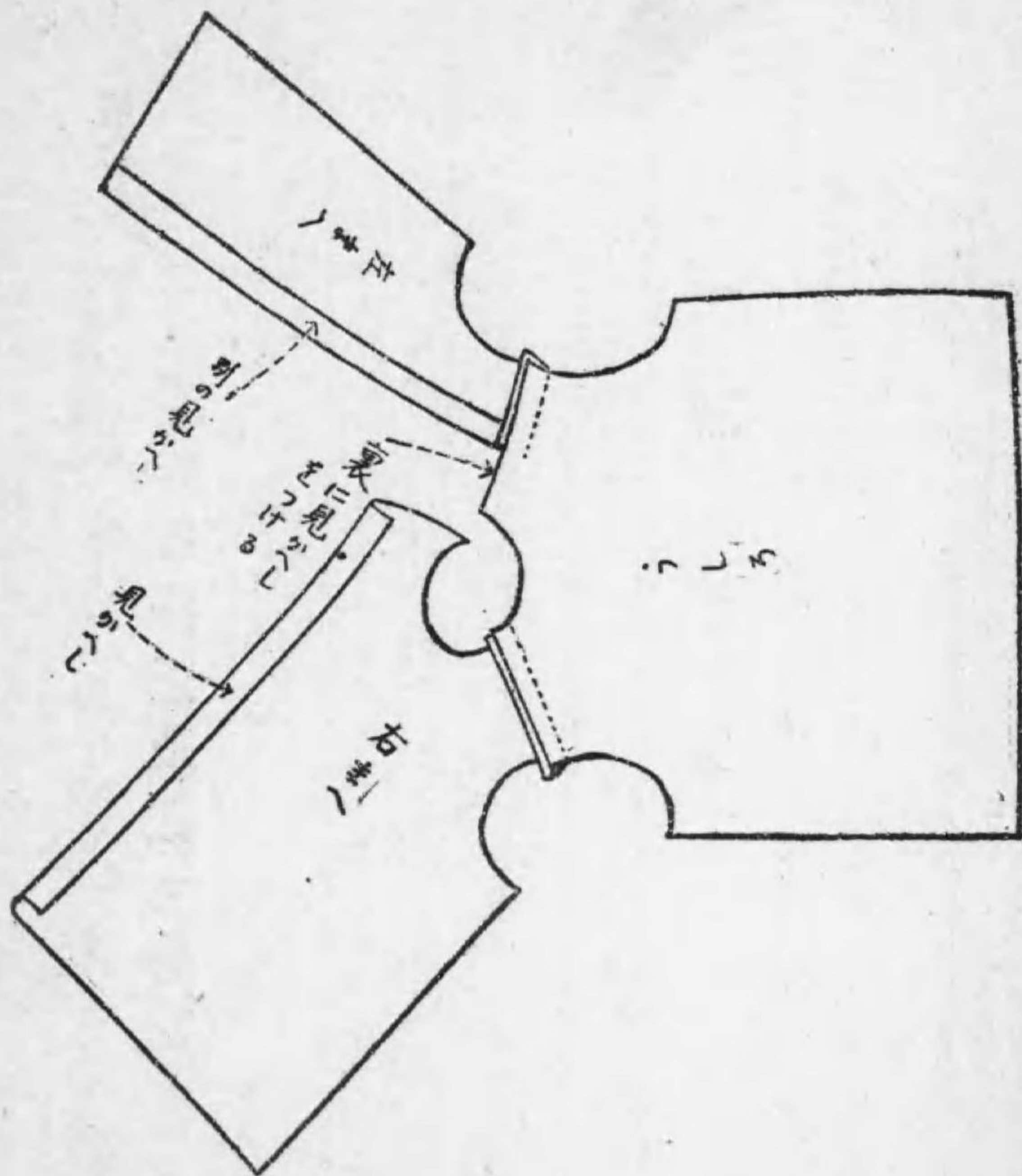
袖の長さは單に口の方で伸縮します。

かういふ腰でスカートをつぐスタイルは、假にスカートをつけて、その人に着せて見た上で胴の長さや總丈の長さを伸縮する方がよいので普通の場合には型紙通りに裁ち切ります。スカートの總巾は型紙より幾分の伸縮はかまひません。凡そ胴の裾圍りの一倍半以上二倍以下が適當の廣さです。

二、縫ひ方

(1) 毛織物の場合は肩、脇、袖下、スカートの脇等の裁ち目はバイヤステープでまします。

(2) 前の見返へし 前の横があいてボタンで閉めるのですから上前(右)の端にはボ

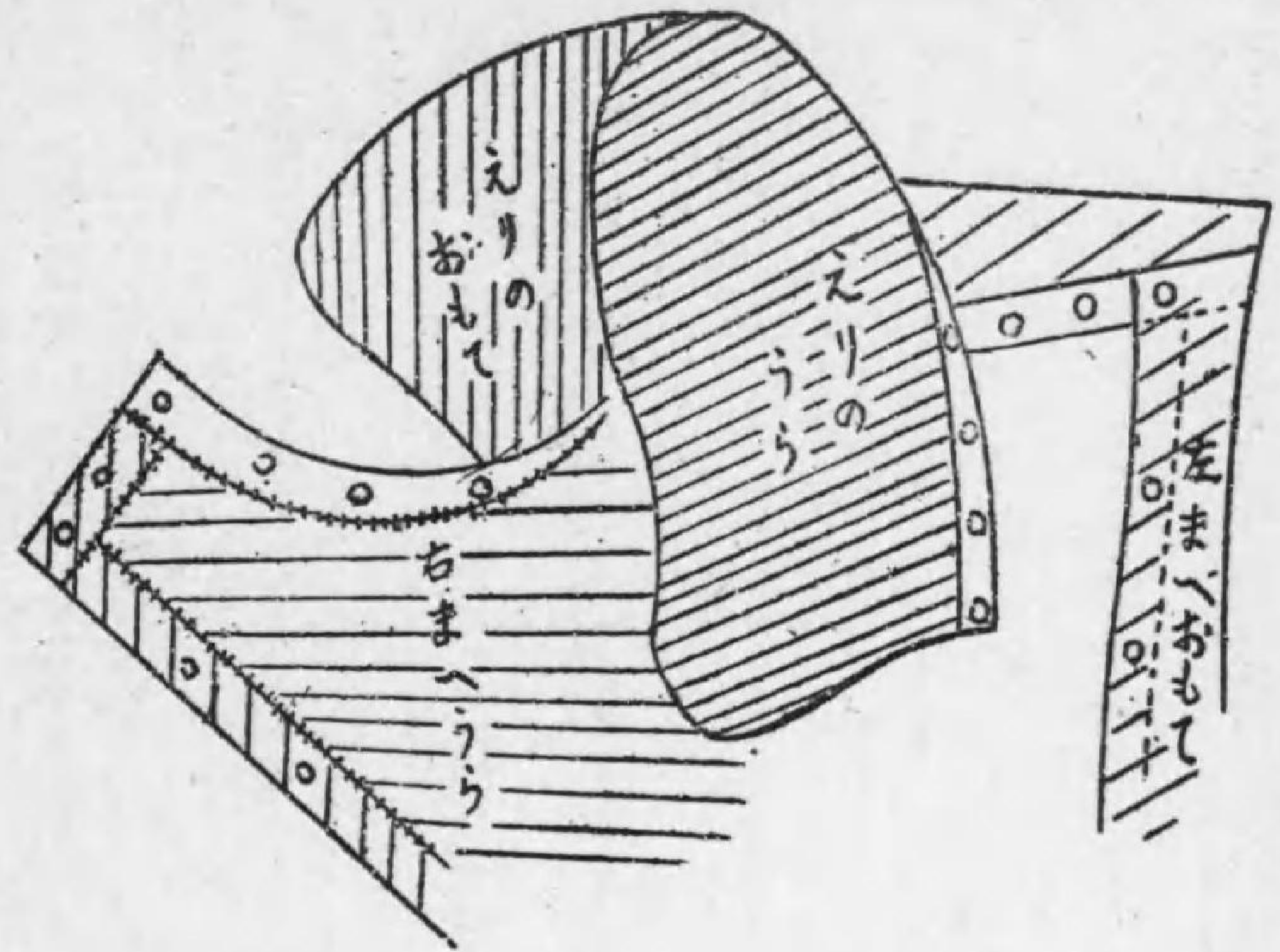


タン孔をあける爲に端を折つて見返しにしし下前(左)にはボタンの方布として別の見返しをつけてみます。但し下前の見返しの縫ひ目が上前の重なり外に出てはいけませんから下前の見返しの巾は幾分狭いがよいです。

(3) 肩合せ 右肩は前後を縫ひ合せ縫ひ代を前に折ります。左肩は狭い左前と縫ひ合せるので、袖附の方で裁ち目を揃へて縫ひ合せ、縫ひ代を前に折ります。その前身頃の無い部分は後肩の縫ひ代に見返へしをつけてスナップをつける持ち出しにします。

(4) 衿 表と裏と合せて圍りを縫ひ、引き返へして烙鏝をかけて仕上げます。

(5) 衿つけ 衿つけは前身頃の中心から初めて右に廻つて後衿肩につけます。下前身頃には衿がつかないで、は上前身頃の衿圍りとスナップで合せます。ですから衿つけは初め假縫ひをして次にバイヤステープを上前身頃の左肩から初めて衿のつかない部分も共に衿圍り全體にあて、本縫ひをして、そのバイヤスを見返へしにして表にまつりつけます。衿の身頃につかない部分は別にバイヤステープでまいて外側に數個のスナップをつけ上前身頃の衿圍りにもこれに對して内側にスナップをつけます。肩のスナップは後の持ち出しと前肩の見返へしとにつけます。



(6) 袖 袖下を縫って割ります。(又は袋縫ひ)

(7) 袖下 袖下の縫ひ目を前身頃腕圍りの切り込みに合せ幾分のゆるみは袖圍り全體に入れてつけます。縫ひ代はバイヤスで包むか又は二度縫ひをします。

(8) カフス 一度本人に着せて見て行を定めます。カフスは袖口の圍りに合せて裁ちこれを輪に縫って奥の方は裁ち目を内に折ります。さてカフスを袖の中に入れ、袖口の裁ち目を揃へて縫ひカフスを袖の表に引きかへしカフスの奥を表から飾り縫ひします。

(9) スカート 布をはぎ合せて輪にします。裾は假に折ってしつけをかけ上端は二筋縫って縫ひ縮めます。胴の裾は縫ひ代だけ裏に折り込みその折り山をスカートを縫ひ縮めた二本の糸の間にあててしつけをかけます。これを本人に着せ胴とスカートのつぎ目の高さ及び總丈を訂正し胴は表から飾り縫ひでスカートを縫ひつけ裾は三つ折りにしてまつりつけます。

(10) ボタンとボタン孔 ボタンは繪姿の通り十個位つけます。色ボタンを用ひながら布地と調和のよい引き立つ物を使ひます。

(11) ベルト通し 裁ち出しの上布で巾半センチ(二分五厘)長さ七センチ(二寸)位の紐を二本作りそれを後身頃の適當の高さの所に縫ひつけます。

スレドローイデツミ 篇四十第

號十第 紙型新



一、型紙の修正及裁ち方

此のスタイルのやうにスツポリかぶつて着る型は身巾が随分廣い物で随つて肩巾も廣いから袖つけはずつと肩を外れます。

行の伸縮は袖巾の中央を切り離してそこを離したり重ねたりしてします。身頃の丈は裾の折り込みで加減しますが一應本人に着せて見た上で定めます。スカートの丈は裾のへムで加減します。

身頃に裏をつける時は裏も型紙の通りに裁ちます。但し丈はタツクの中二倍だけ短くてすみます。

單衣には裾にタツクの中より少し廣い見返へしをつけますから別にその見返へしがいらいます。衿には必ず裏が入ります。衿圍りの筋は二筋又は三筋が普通です。胸當にも裏が入ります。袖の裏も型紙通り、カフスには必ず裏がつきます。

スカートは巾が狭い時はギャザ(縫ひ縮め)にし広い時はプリーツ(折りたたみ)にします。スカートに裏をつける事はありません。スカートのベルトは出来上り圖の通り身頃の裾にボタンでかけるのですから、身頃の裾巾と同じ丈が入用です。

二、縫ひ方

單衣仕立てとして説明します。毛織物ならば肩、脇、スカートの脇、袖下等の裁ち目はバイヤステープでまきます。

- (1) 肩合せ 毛織物なら縫ひ目を割り木綿なら後に片返へし又は折り伏せます。
- (2) 表衿 圍りにコード(じやばら又はテープ等)を縫ひつけます。コードとコードの間は丁度コードの巾程あくのが適當です。
- (3) 衿 表と裏と合せて圍りを縫ひ引き返して表から圍りに飾縫ひをします。
- (4) 衿つけ 身頃の表に假りに縫ひつけバイヤステープをその上にあてて本縫ひを

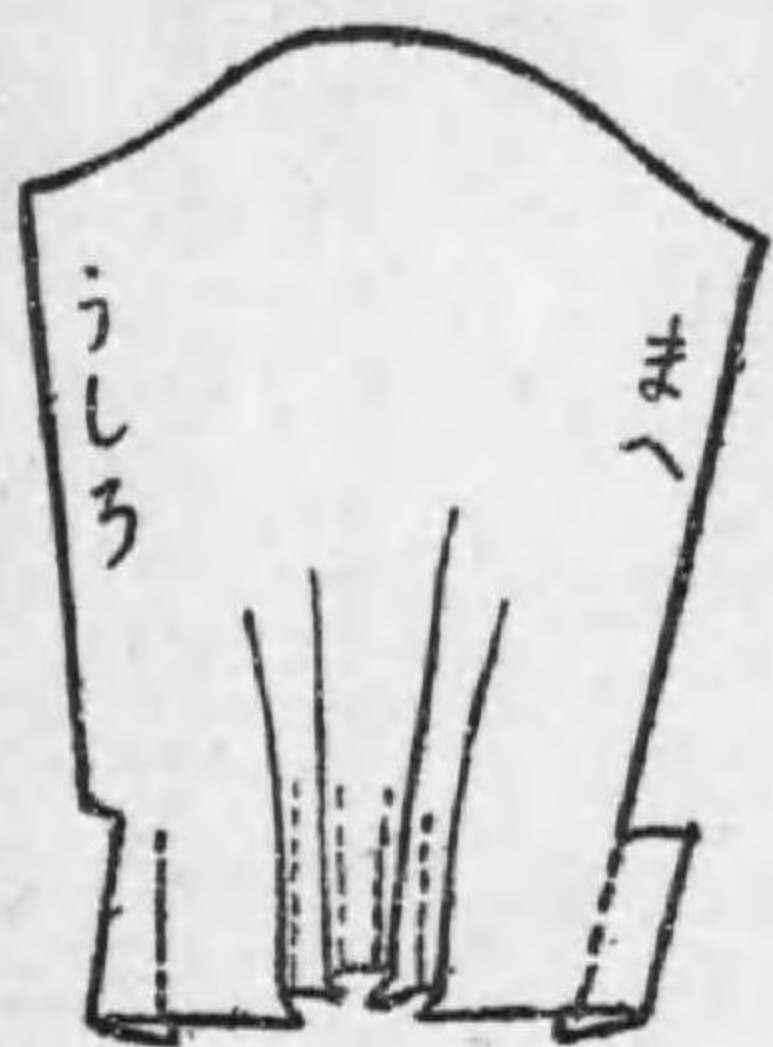
して縫代をバイヤステープで包んで身頃にまつりつけます。

- (5) カフス 短い袖のカフスは表布の奥に衿圍りの様にコードを縫ひつけます。それから表と裏と口の方を合せ次にその兩端を縫つて輪にします。これを裏表の縫ひ目を折山にして表を外にして折りそこに飾縫ひをします。つけの方は表も裏も縫ひ代だけ折り込んでこの間に袖口をはさむ事が出来るやうにしておきます。

- (6) 袖 長い袖は袖口あきの廣く裁つてある部分を前は持ち出しになる様に折り、後は袖下の縫ひ代まで切り込みを入れて見返へしになる様に三つに折ります。そして袖口をカフスの丈に合せて縮めます。

- (7) カフスつけ 袖口の端をカフスの表と裏の間にさし入れ表から飾り縫ひによつて縫ひつけます。

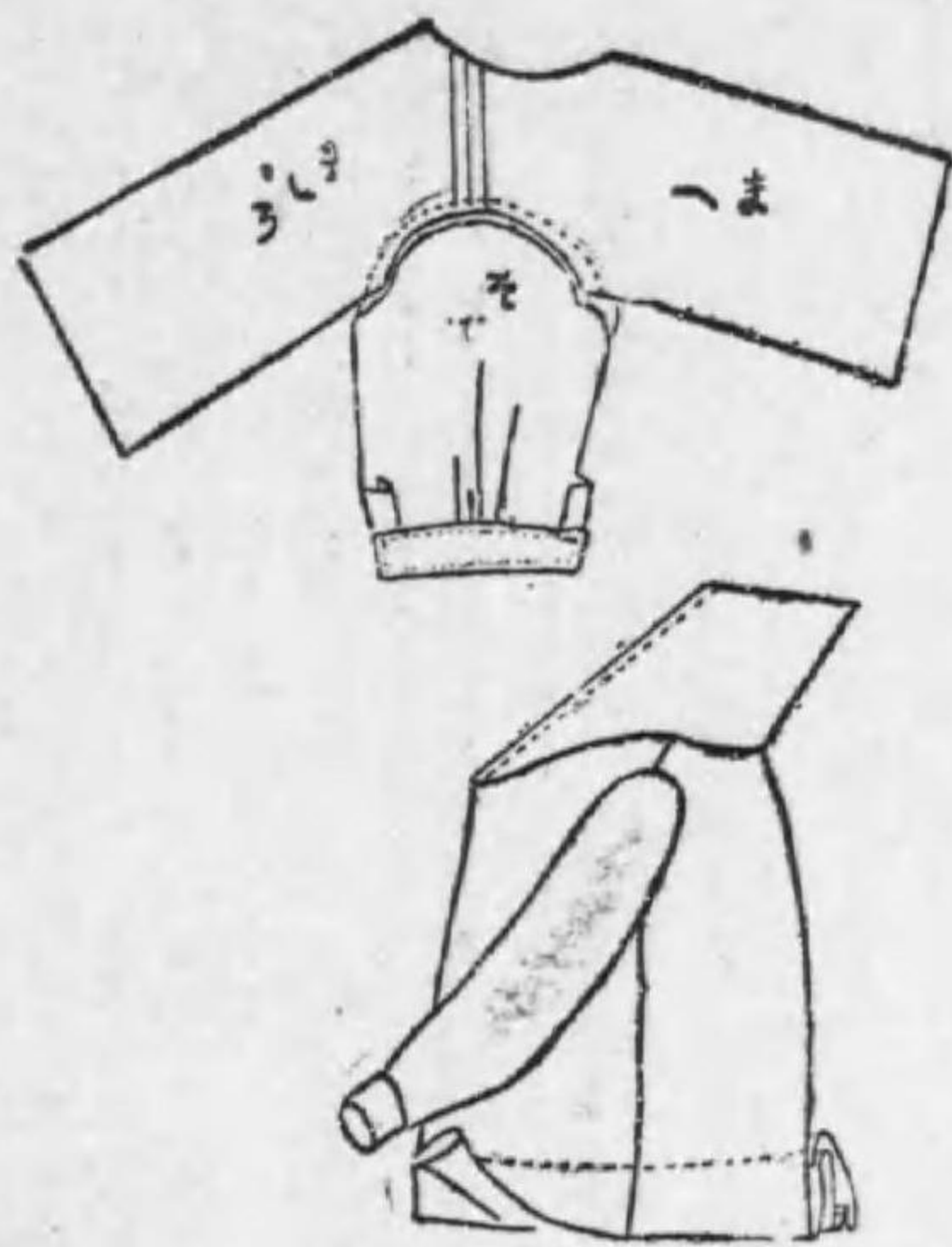
- (8) 袖つけ 身頃の脇を開いたまま袖をつけます。(袖つけの他の方法はミツデイブラウスの部に説明してありま



す。

縫ひ代は身頃の方に折つて表から飾り縫ひでこれをおさへます。

(9) 身頃の脇と袖下 これは續きに縫ひます。袖口あきのためは殊に丈夫にとめておきます。



(10) 裾 身頃の裾にはボタン孔をあけてこれにスカートをつり、そのボタンは身頃の

のタックでかくすやうにしますから先づ裾にタックの巾より少し広い別の見返しをつけます、その見返しの上の端も共にタックの中に折り込んで圖の様にタックを縫ひます。

(11) スカート スカートの布を二つに折り輪の方を前を中心として襞割りをして襞の山には切りしつけをします。次に烙鏝で襞の山に強く



(14) 裾のへム 丈をきめて裾を折りこみ、へムをします。

三、注意

折り目をつけ寸法の通りにたたみます。後の中央を縫ひ合せます。但し上方は少しあけておいて布の裁ち目は三つ折り縫ひにします。次にベルトをつけます。

(12) ポケツト

(13) ボタン孔及びボタンつけ 身頃の裾圍りに十センチ(二寸五分)おき位に數個のボタン孔をあけてスカートのベルトにそれに対する様にボタンをつけます。

身頃衿を仕立てにするか又は肩すべりをつける場合は衿つけの時に表身頃と裏身頃で衿をはさんで縫ひ引き返へして衿つけのきはに表から飾り縫ひをします。

スーパノ 篇五十第

號一十第 紙型新



四、附 言

此のスカートのはたき方は単にスカートとして作る場合も同じで例へばミツデー
 ブラウスのスカートの如きはこれをウエストに縫ひつけるのであります。又このドレ
 スは身頃の裾をタックにしないで延したままにすればブラウスになりますから此の
 型紙は一種のミツデーブラウス及びスカートの型紙として使はれます。

一、裁ち方

ロンパースは裾をくくりましますから、その仕立上の丈はドレスよりも十センチ（二寸五分）位長いのが適當です。衿はハーフカラですから左右につくので裏共に四枚入ります。

二、縫ひ方

（第十六篇挿書参照）

(1) 後の見返へし 上前も下前も後の中心が見返へし巾の中央になる様に烙鏝で見返へしを折ります。そして後あきの間だけ表から見返へしの兩側に飾り縫ひします。次に右左の見返へしを重ね合せて、後あきの下を見返へしの兩側を飾り縫ひで縫ひつけてしまひます。

(2) 裾の見返へし 裾のあき即ち股の所は後には股のなりに作つた見返へしを、前

にははす布の見返へしをつけます。

(3) 脇縫ひ 縫ひ目は割るか又は後にかへします。

(4) 裾口 脚の出る口はゴムでしめめますからゴムの通るだけに三つ折り縫ひにしゴムを通してその両端を丈夫に縫ひ留めておきます。

(5) 肩合せ

(6) 衿 表と裏と合せて圍りを縫ひ引き返へして表から圍りに飾り縫ひをします。

(7) 衿つけ 前の中心で左右の衿を縫ぎ合せ後はどちらも見返へしの中央に衿の端をあてて假縫ひをします。そしてバイヤスをあてて本縫ひをして縫ひ代をバイヤスでくるんで身頃にまつりつけます。

(8) 袖 袖下を縫ひカフスをつけます。

(9) 袖つけ 袖下の縫ひ目と脇の縫ひ目とは一致します。縫ひ代は二度縫ひしておか又はバイヤステープでくるみます。

(10) ポケツト

(11) ベルト 裏をつけます。

(12) ベルト通し 兩脇につけます。

(13) ボタン孔及びボタンつけ 股の前には見返へしの上に五個のボタンをつけ後の見返へしにはそれに對する五個のボタン孔をあけます。但しスナップをつけてもよろしいです。身頃の後ろあきにも左にボタンを三、四個つけ右にはそれに對してボタン孔をあけます。

スーパノロ 篇六十第

號二十第 紙型新



一、縫ひ方

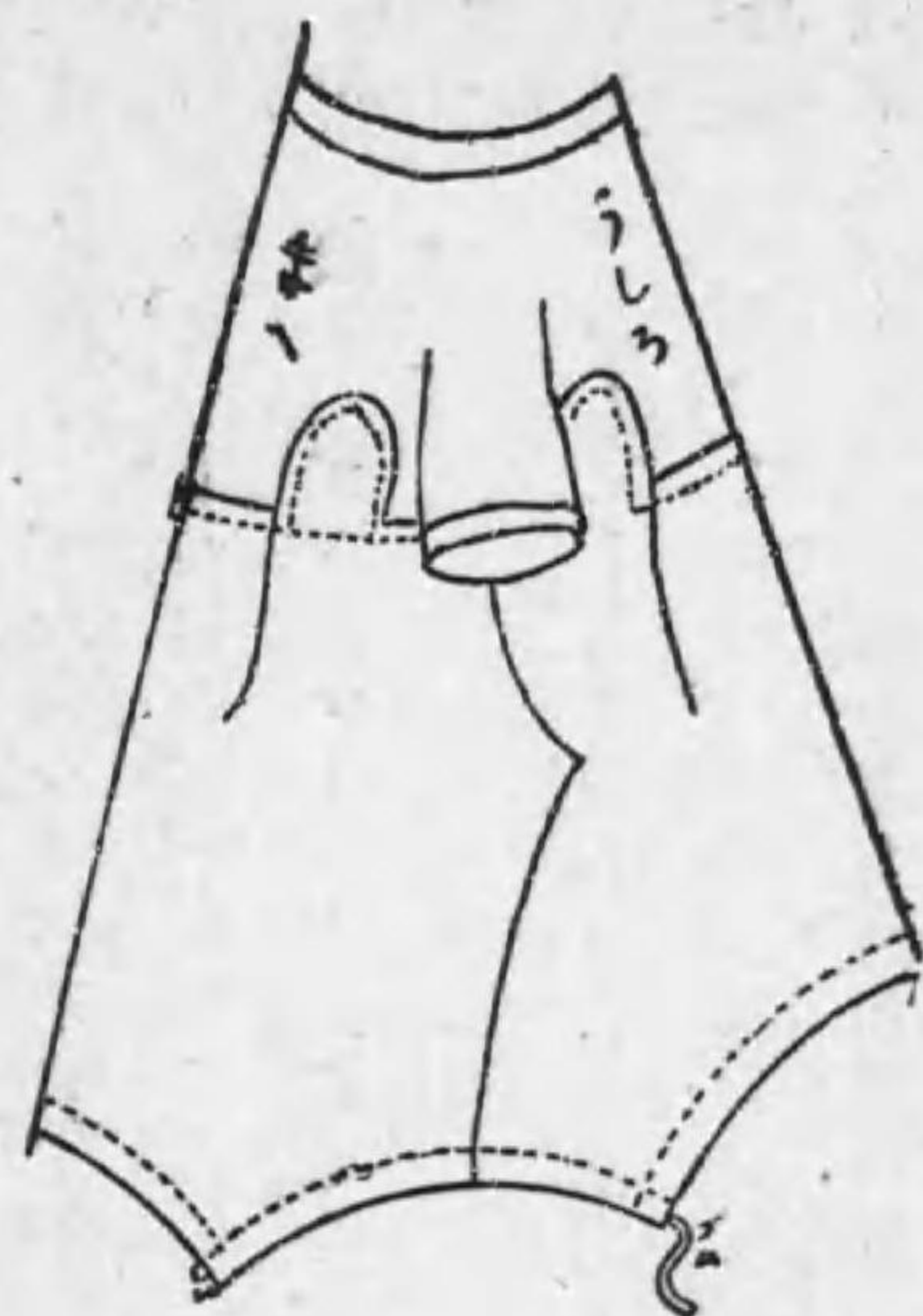
- (1) 後の見返へし持ち出し 身頃の後あきには別布で右に見返へし左に持ち出しを
つけます。
- (2) 衿圍り ブルーマースと同じ布を衿圍りの形に裁つて裏からつけ、表に返へし
て圍りをまつりつけます。
- (3) 袖口 ブルーマースと同じ布をバイヤスにとつて衿圍りと同様に表に返へしま
す。
- (4) フルーマース 股あきには前にも後にも見返へしをつけます。上端を縫ひ代だ
け裏に折り、これを身頃の上のせて表から飾り縫ひで縫ひつけます。即ち前は身頃
とブルーマースと脇の裁ち目を揃へ前の中央に出来るブルーマースのゆるみはそのつ
き出て居る部分の下に折り込みます。後は身頃の持ち出しと見返へしを重ねてとめ次

スウラブーイデツミ篇七十第

號三十第 紙型新



に前と同様にブルーマースを身頃の上のせまます。



しにボタン五個。後の見返へしにそれに對してボタン孔をあけます。但しスナップでもよろしいです。

- (5) 袖下と脇 續きに縫ひます。
- (6) 裾口 脚の出る裾口は三つ折り縫ひにしてゴムを通しゴムの兩端は丈夫に押へておきます。

(7) ポケツト

(8) スナップ 後あきに三四個つけます

(9) 股のボタン 股あきには前の見返へ

一、型紙の修正

ミツデイブブラウスは随分ゆつくりした着物でありますから、身巾も丈も殆ど修正する必要はありません。身丈はその儘長く垂らしても着ますし適宜折り返へしてピンで留める事もあります。又裾に紐やゴムテープを通して縛る事もあります。行は半袖にする事があります。此の場合のもとより袖の長さを適宜縮めます。長くして袖口をつける場合は袖口をボタンでしめて幾分袖がゆつくりする位なのが適当であります。これは型紙で修正しないで袖口をつける前に一度本人に着せて見た方が適当です。

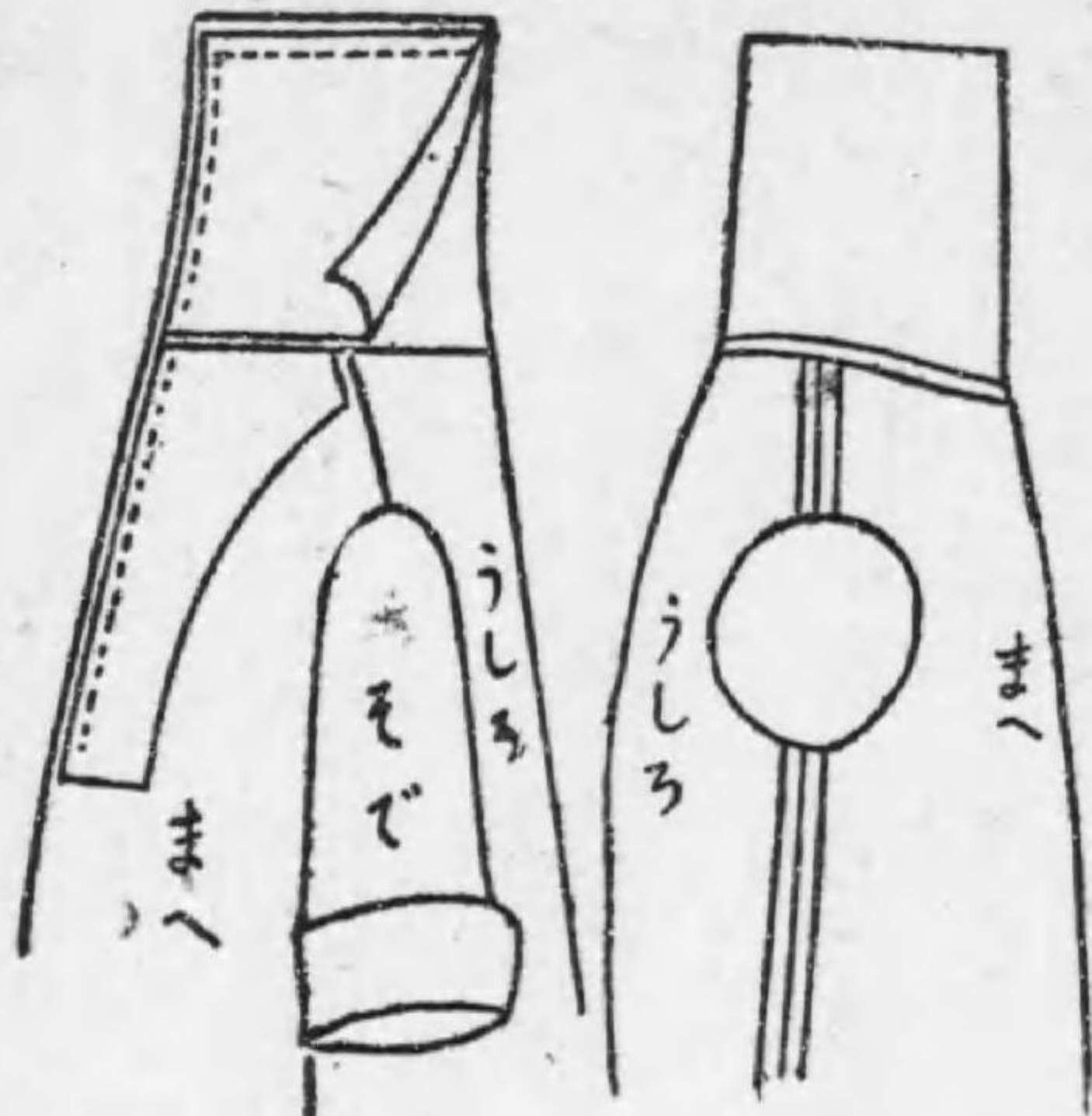
二、裁ち方

身頃、裏衿、前の見返へし、ポケット、袖、カフスの裏等は身頃と同じ布で取ります。表衿とカフスの表は違つた色の布で作るのが普通です。衿の圍りとカフスには白黒等

の細いコード又は狭いテープで筋を入れます。筋の数は二筋か三筋です。衿圍りに結んであるのはセーラータイといつて薄い黒布の風呂敷の様に眞四角なのが普通です。

三、縫ひ方

- (1) **ポケット** 上端を折り込んで縫ひそれから三方を折り込んで前身頃の左胸部にのせて縫ひつけます。
- (2) **肩合せ** 前身頃と後身頃の肩を合せて後に折り伏せします。
- (3) **裏衿つけ** 裏衿を前身頃につけます。前あきの裁ち目と衿の裁ち目とは揃へます。
- (4) **表衿** 表衿の圍りにコードを縫ひつけます。その圍りの縫ひ代を考へて出來上の角からコードの中だけ内に一筋縫ひ又コードの中だけ内にもう一筋縫ふといふ様に筋と筋との間はそのコードの中と同じにします。
- (5) **表衿と見返へし** 裏衿を前身頃につけたのと全く同じ方法、手加減で表衿を前



の見返へしにつけ、縫ひ目を割ります。

- (6) **衿つけ** 裏衿のついた前身頃と表衿のついた見返へしと中表に合せて外圍りを全體縫ひます。その縫ひ代凡そ半センチ(二分餘)にして前あきの留の所は鎗の穂先の様

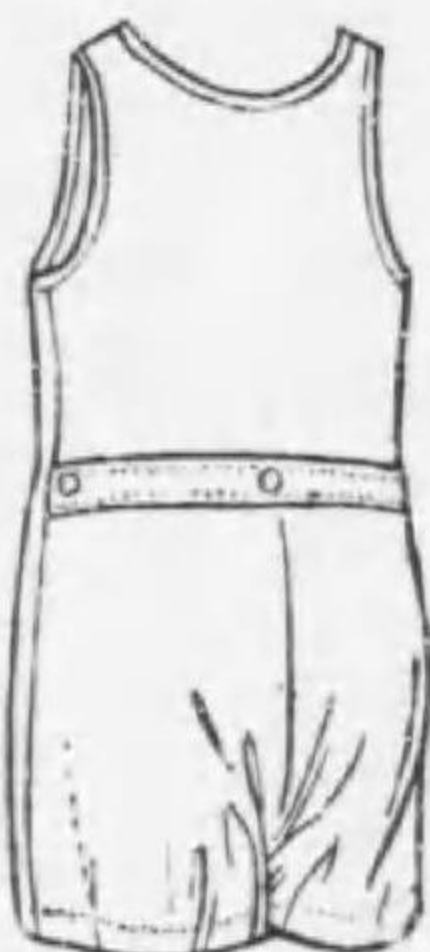
に縫ひ極く端は針を戻して縫つておきます。これを引き返へしてもう一度表から押へ縫ひをし表衿及び見返へしの内側は半センチ(二分餘)折つて前身頃にまつりつけます。

- (7) **袖口** 袖口あきの切り込みは巾二センチ(五分)ばかりの小布で裁ち目を巻きます。

それから袖口の中(袖下の縫ひ代を除く)がカフスの丈に合ふ様に、ひだをとつてそのひだを押しへておきます。

ツースンオニユ 篇八十第

號四十第 紙型新



(甲)



(乙)

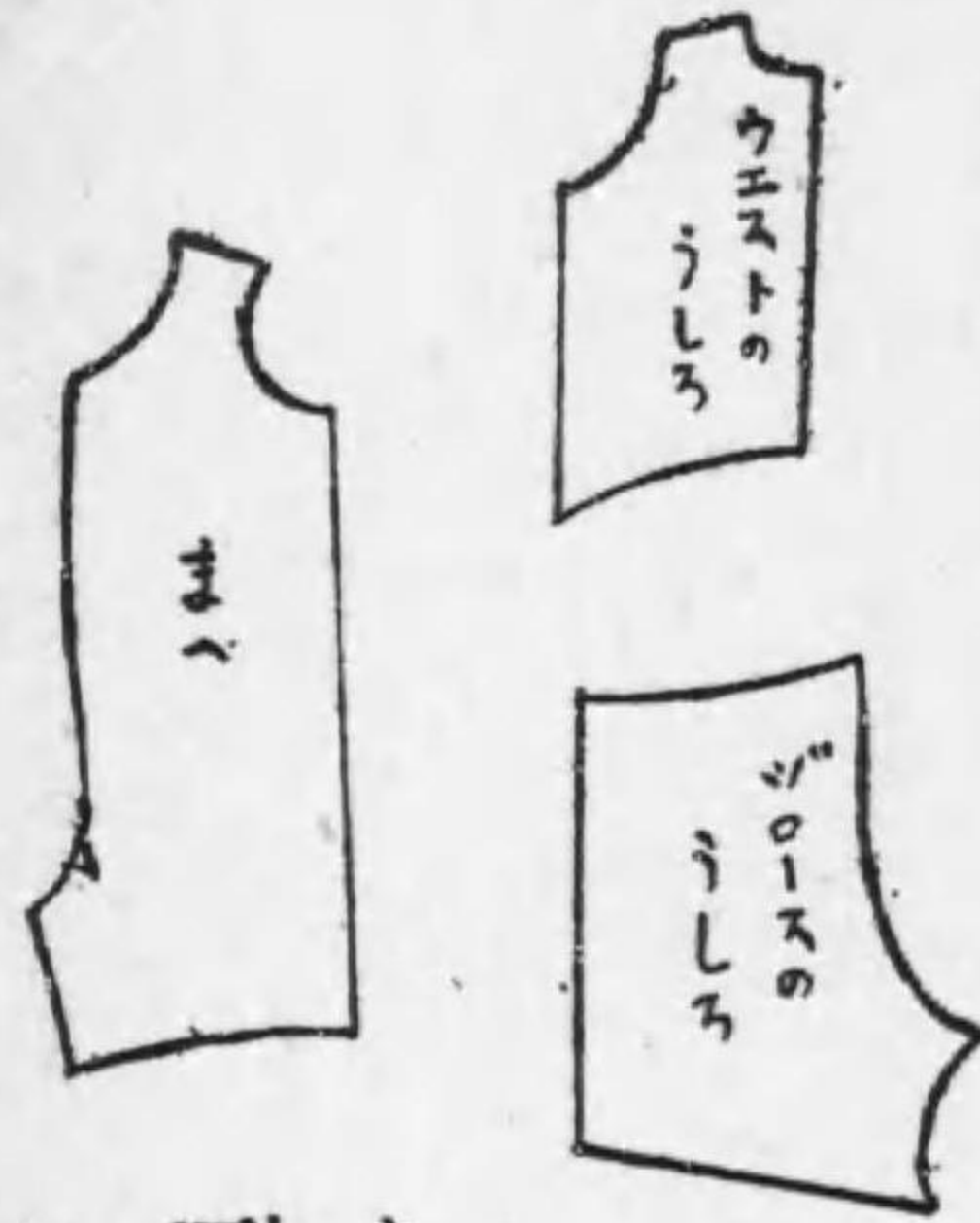
(8) 袖つけ 袖の袖つけの方を表に三ミリ(約一分)折り、身頃の袖つけ圍りの裁ち目と此の折った袖の裁ち目とつき合せて中表に合せ三ミリの縫ひ代で縫ひ袖つけの折った山を身頃にまつりつけます。



(9) 袖下、脇縫ひ 袖下と脇は續きに縫つて後に折り伏せ又は片返へしにします。

(10) カフス 表にコードを縫ひつけます。筋の数も、筋と筋との間も衿圍りに圍じです。そして筋はカフスの奥の方に寄せてつけるのが普通です。裏と合せてカフスの兩端と口の三方を縫つて引き返します。そして裏の奥を袖口の裏に縫ひつけ、表の奥は折り込んで上から押へつけ、圍りにも飾り縫ひをします。そしてスナップ又はボタンをつけて閉じます。

(11) 裾のヘム



かういふ上下續きの下着類は特に丈が身に合ふことが必要です。ですから先づ着せる子供について腕圍りの下で脇丈、股下等をはかり前はコンビネーションの例に習つて股から上と股から下の二個所で丈の伸縮をしてウエストの後は裾でズボースの後は上と下で伸縮します。

一、型紙の修正

二、裁ち方

此の型紙には二種のユニオンスーツが収めてあります。一つは前あきのコンビネーションで一つは前と股下どあいたのです。どちらを作るかといふ事が定つてから型紙を切り取り、それをあてて用布を裁ちます。

前あきコンビネーションの方は前、ウエストの後、ツロースの後、袖バンド五枚の型紙がある。その他には前の見返へしとして巾四センチ（一寸）で前のなりに習つて下の切り込みまでの長さの巾がいります。股あきの方は、前にツロースの後が續いたのとウエストの後と、袖の三枚その他に前の見返へしがいります。此のウエストの後は重なりがいりませんから線の下を切りすてます。



三、前あきコンビネーションの縫ひ方

- (1) 前の見返へし 左右とも裏に見返へします。但し下の切り込み迄つこのです。
- (2) ウエストの後 裾を三つ折り縫ひにします。ボタンの力布として巾五センチ（一寸三分）のベルトを縫ひつけます。

- (3) ウエストの脇縫 左右とも縫ひ代は前に片返へし又は折伏縫ひにします。
- (4) ツロースの後 股上を縫ひます。
- (5) ツロースの脇縫 左右とも切り込みから下を縫つて前に片返へし又は折伏縫ひにします。
- (6) ツロースの脇布 コンビネーションに圖解した方法です。
- (7) 後バンド
- (8) 前の股上 左右前の見返へしを重ねてよく留め、その下四センチ（一寸）程の間を縫ひ縫ひ代は左に折り伏せします。
- (9) 股下 左右を續きに縫ひます。
- (10) 裾のヘム
- (11) 肩合せ 後に折り伏せします。
- (12) 衿圍り バイヤスの見返へしをつけます。

- (13) 腕圍り バイヤスの見返へしをつけます。袖つきならもとより袖下を縫ひ、袖口を三つ折り縫ひにして、袖をつけます。
- (14) ボタン 右前見返へしの巾の中央に四個、左右の脇とウエストの後の中央です。
- (15) ボタン孔 ボタンに對する様に左前見返へしに横孔、バンドの兩端に横孔、中央に縦孔を作ります。

四、股あきコンビネーションの縫ひ方

- これは女兒の下着として用ひる事も出来ます。
- (1) 前の見返へし 女兒の下着としては前も股も横きにあけておきますから、見返へしは切り込みの下までつけます。男児用の見返へしは前節の場合と同じです。
 - (2) 後の見返へし ヅロースの後も切り込みから上に狭いバイヤステープで見返へしをつけます。

- (3) 股下 左右とも股下を縫ひます。
- (4) 裾のヘム
- (5) ウエストの脇縫 縫代は後に折ります。
- (6) ウエストの後とツロースの縫ぎ合せ ヅロースの後を右を下に左を上にして中心を合せ、中心から左右に廣い分は少しギャザにして縮めて假縫ひします。ウエストの裾を縫ひ代だけ裏に折り、その折つた所を左右のヅロースの上端にのせて飾縫ひをします。

- (7) 肩合せ
- (8) 袖縫ひ
- (9) 袖つけ
- (10) 衿圍り 衿圍りは型紙の衿圍りに合せて巾三センチ(八分)位の布を取り、これを見返へしにすると、單にバイヤスの見返へしをつけたのより立派です。

第十九篇 ポーイパンツ

新型紙第三號及第十五號 第二十篇及第二十二篇参照

一、型紙の修正

寸法のはかり方 バンツは腹圍りの位置(ウエストライン)から脇にそつて適當の長さをはかつて脇丈としその裾から内股の丈をはかつて股下とします。

パンツの型紙は先づ股下を裾で伸縮してその裾からはかつて脇丈を定め、過不足は上の方に向つて伸縮します。基より寸法は仕立上で型紙には縫ひ代折り代等がありま

すからこれを必ず忘れない様にしなくてはなりません。

二、裁ち方

パンツの後は「此の點線に縦の布目を合す事」といふ注意に後つて裁つて下さい。バンドは縫目が出来ても又縦横何れでもかまひません。

三、縫ひ方

- (1) 前あて 幼い子供のパンツは前をボタンがけにしないで縫ひ詰め、たゞお小用の爲に孔をあけてその右脚に小さいあて布をつけます。さてあて布を表と裏と合せて外圍りを縫ひ引き返へしてもう一度圍りに飾り縫ひをします。
- (2) 前あき 前あきの右脚にあて布をあて切り込みの間を縫ひ、縫ひ代を身の方に折つて表から飾り縫ひで押へます。左脚の切り込みの間には狭いはず布で見返へしをつけます。

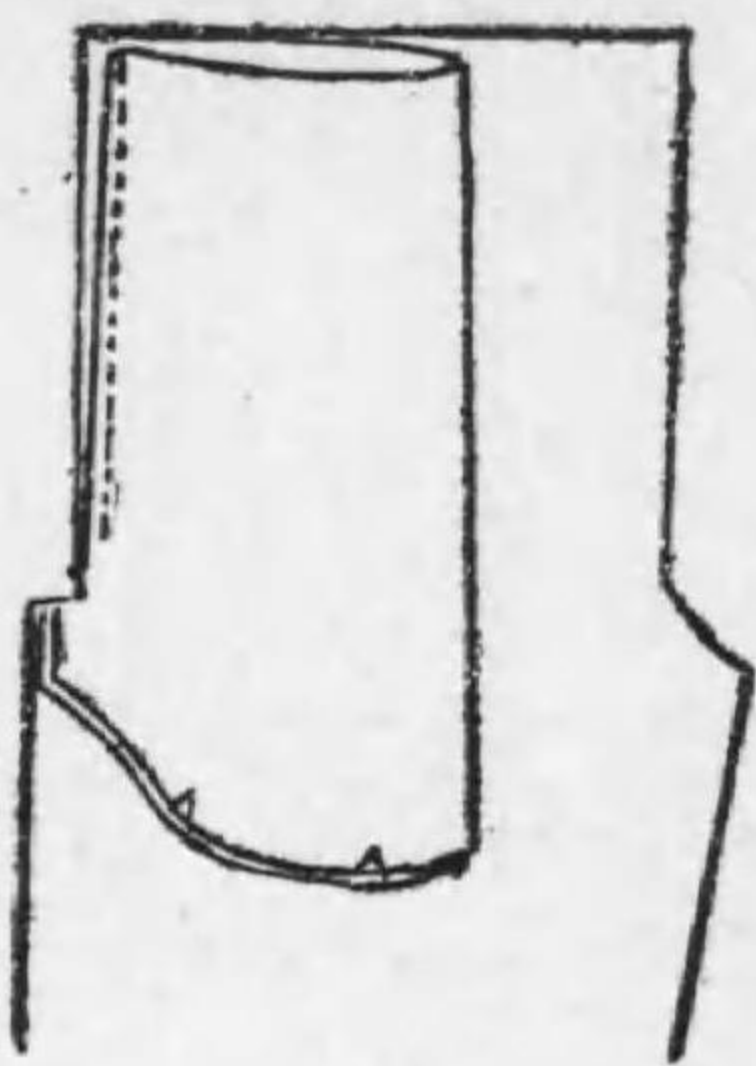
(3) 前脇ポケット ポケットの袋布は表地の色に近い色の布を使ひます。その巾や長さは圖を見合せて適當に定めて下さい。

(イ) さて袋布の一方の端を前脚の脇と中表に裁ち目を揃へて切り込みから上を脇縫代と同じ縫代で縫ひ、袋布を裏に折つてその角に深さ四ミリ(約一分)の飾り縫ひをします。

(ロ) 袋布の他方の端は切り込みから上を細い三つ巻きにします。そして此の端が見えない様に表の端と揃へて袋全體の落つきを定めて袋の底一二ヶ所に合標として切り込みを入れます。

(ハ) それから袋を中表に、標を合せて底を縫ひ引き返へして脇の切り込みから下を袋布の端と身の縫ひ代としつけでとちつけます。

(4) 後脇の持ち出し 持出しだけ長く裁つてありますからこれに裏をつけます。或はこれを折つて奥を縫つてもかまひません。



(5) 脇縫ひ (脇の下端は縫ひ合せないで仕立てから飾りのボタンをつけて閉ぢます) 切り込みから下、布の持ち出しになつてゐる部分まで縫ひ、縫ひ代は前に折つて表からポケット口の飾り縫ひと同じ深さに飾り縫ひをなし、(下のあいてゐる部分は前の一枚にだけ飾り縫ひをします。) ポケットあきの下は横にとめをします。

(6) 後縫ひ 縫ひ目を割りその上に木綿テープをのせテープの兩側に飾り縫ひをして丈夫にします。

(7) 前縫ひ 前あきの上下をそれぞれ左右縫ひ合せ、左脚の方に折つて表から飾り縫ひをします。

(8) 股下 左右を續きに縫ひ、縫ひ目は割ります。布の裁目はよつておきます。

(9) 裾 折つてよつりつけます。

トスエウイーボ 篇十二第

號五十第 紙型新



(10) **バンド** 前バンド後バンドをつけます。ツロースのバンドと同じです。

(11) **ボタン孔** ウエストに釣る爲に後バンドに二個前バンドに二個縦孔をあけ脇は前バンドの端にだけ横孔をあけます。従つて男兒ウエストのボタンは後に二個前に二個

(12) **ボタン** 後バンドの両端に一個づつ脇縫の下端に二個づつつけます。

一、用 布

これはボーイスイーツの内のウエストでありますから用布はパンツと調和しなくてはなりません。ウエストとパンツと共布にして衿とカフスを變へるのが普通ですがウエストの身頃を變へて衿とカフスにパンツと共布を使つてもスイーツであります。

二、裁 ち 方

この型は肩の縫ひ目をずつと前に出しましたから一見前後が反對に見えます。ヨークフエーシング即ち肩當は無くてかまひませんがつけるなら成可く後身頃と縞目が合ふ方がよいです。

三、縫 ひ 方

(1) 前の見返へし 上前(左)は表に下前(右)は裏に折ります。上前はそれが飾りになるのですから見返へしの両側には飾り縫ひをします。

(2) 肩合せ 後身頃とヨークフエーシング(肩當)で前身頃をはさんで三つ縫ひをします。

(3) ヨークの後 後の下端を折つて後身頃に飾り縫ひで縫ひつけます。但し幾分ヨークの布をゆるめておく必要があります。

(4) 衿 表と裏と合せて裏を幾分狭く裁ち直し外圍りを縫つて引き返へし表の圍りに飾り縫ひをします。

(5) 衿つけ 前見返へしの中心と衿の端と合せ衿の中央と後身頃の中心と合せてかり縫ひをします。後衿肩の圍りは身頃をのばし衿を釣らしてつけます。假縫ひがよければ巾二センチ半位のバイヤスを衿の側にあてて共に本縫ひをして、バイヤスでその縫ひ代を包み身頃の方に折つてまつりつけます。

(6) 脇縫ひ 片返へし又は袋縫ひ、地厚の物は割ります。

(7) 裾 三つ折り縫ひにします。

(8) ベルト ボタンの力布としてウエストライン(腹圍り)に巾四センチ(一寸)位のベルトを表からでも裏からでも縫ひつけます、これはアンダーウエストのベルトと同じです。

(9) 袖 袖口をカフスの丈に合せて縫ひ縮めます。山の所をたゞ縫ひ縮めても又はひだにたゝんでもよいです。袖下を縫ひます。袋縫ひでも割つてもよいのです。

(10) カフス 表と裏と巾を縫ひ合せ、次に兩端を縫ひ合せて輪に作り、表と裏を毛抜き合せて折つてカフスを作り上げます。カフスをつけるには簡単な方法としてはカフスの裏を中にしたまゝ袖口と裁ち目を揃へて縫ひカフスを外に引き出し更に袖の方に折り返へすのです。するとカフスをつけた縫ひ目はカフスの下にかくれてしまひます。

ツンパスウラブ 篇一廿第

號六十第 紙型新



(11) 袖つけ 此の袖は袖下の縫ひ目と脇の縫ひ目と一致します。先づこの縫ひ目を合せて全體を假縫ひします。縫ひ代は凡そ八ミリ(二分)袖はだいぶんゆつくりですから全體にゆるみを入れます。本縫ひの時はバイヤステーブを身頃の方からあてて共に縫ひ次にバイヤスでこの縫ひ代を包みバイヤスの他方の端は開いた儘(折り込まないで)もう一度身頃の方から前の袖つけ縫ひ目のきはを縫つてバイヤスをつけます。但し布糸のはつれない物は單に二度縫つただけでもよいです。

(12) ポケツト 口を表に折つて飾り縫ひをします。圍りを烙鏝で裏に折ります。そして圍りを身頃に飾り縫ひ又はまつりつけます。

其一 ブラウス

一、裁ち方

身頃 着物スリーブの裁ち方のやうに前後の中心も肩山もわなに取りますから身頃は全體で一枚です。

肩當 身頃と同じ形ですからやはり一枚です。

衿 表と裏と二枚。

袖 二枚

カフス 表二枚、裏二枚

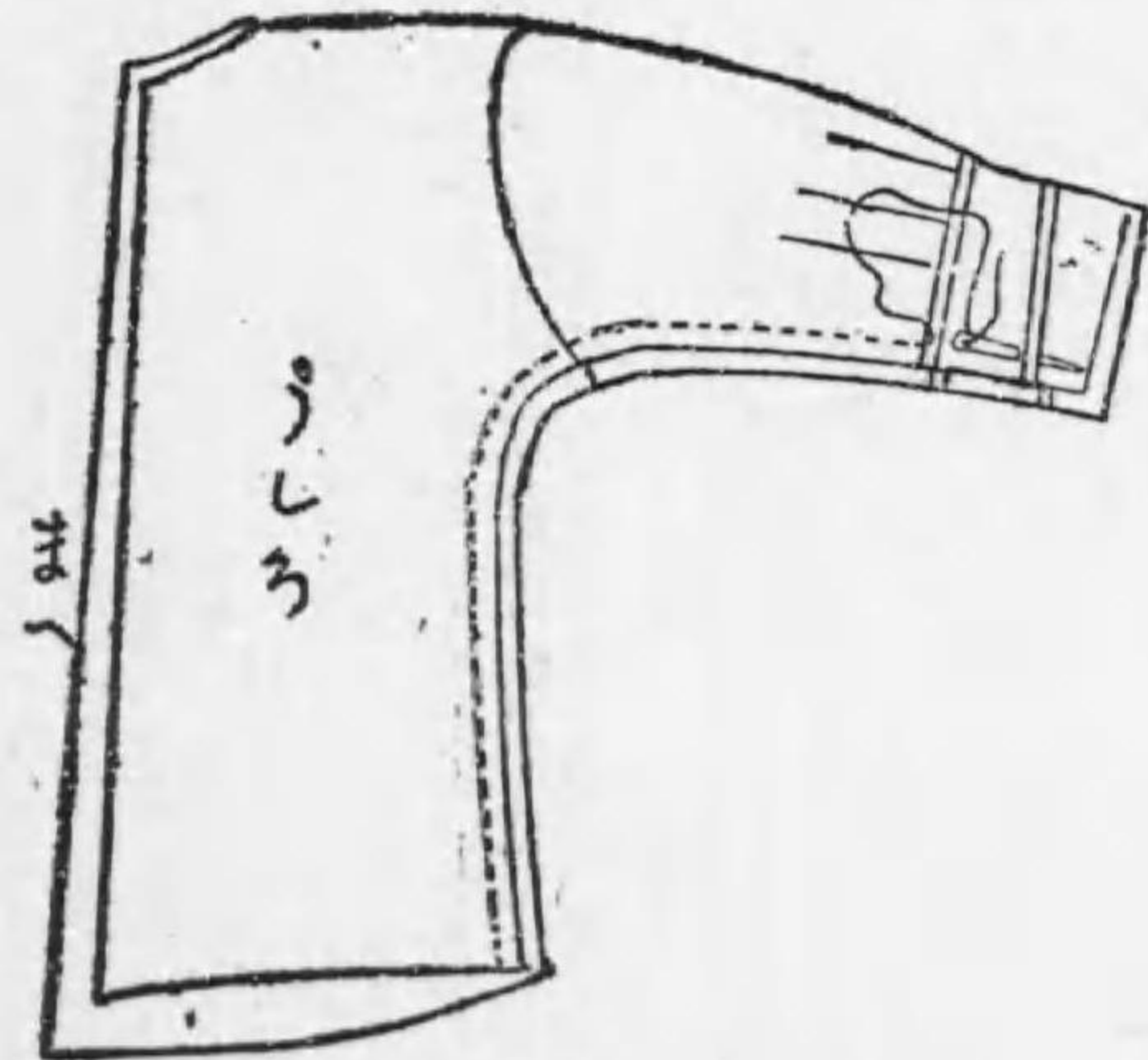
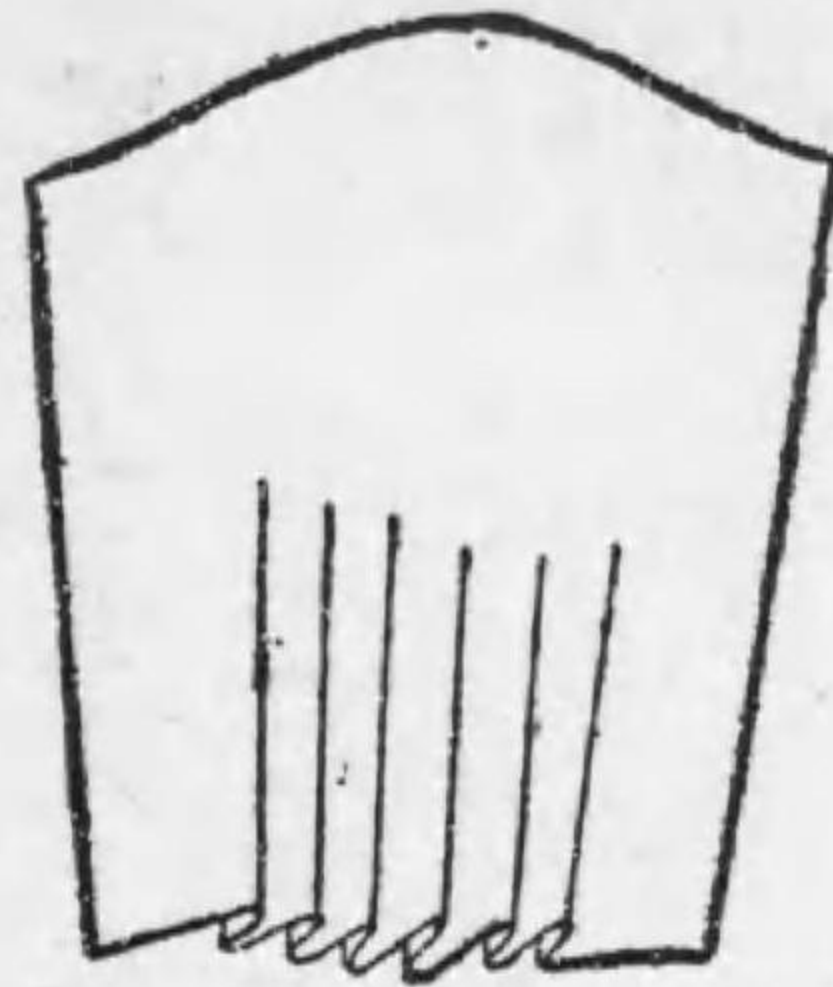
胸當 前の中心をわなに取つて一枚。但これには別に裏が入ります。

二、縫ひ方

大體はミツデイーブラウスと同じ縫ひ方でありませうから、一應は第十七篇の説明を

御覽下さい。

- (1) 表衿と表カフスにコードをつけます。
- (2) 表衿を身頃につけます。即ち衿の布表を身頃の裏にあて、縫ひ目を表に出すのです。



- (3) 裏衿を肩當につけます。此の縫ひ目は表に出します。
- (4) 表衿と裏衿を中表にあてその圍りと前あきを續きに縫つて引き返へし圍りに飾り縫ひをします。肩當の前後の下端は

裏に折つて身頃の上のせ飾り縫ひをします。

- (5) 袖口をカフスの長さに合わせて縫ひ縮めます。
- (6) カフスの表と裏をはぎ合せカフスの裏を袖口の裏にあてて縫ひつけます。
- (7) 袖の裏を身頃の裏にあてて縫ひ、縫ひ代を身頃の方に折ります。それから肩當の袖つけ圍りの縫ひ代を中に折り込み袖の上のせ飾り縫ひをします。つまり袖を身頃と肩當の間にはさむのです。
- (8) 袖下と脇を續きに縫ひます。カフスも續きに縫ひます。
- (9) 表カフスのつけの方を縫ひ代だけ中に折り込み裏カフスの縫ひ目の上におせて飾り縫ひをします。

- (10) 裾を折つてへむをします。
- (11) 胸當の表と裏と合せて衿まはり、後あき及び外圍り全體を縫ひ、引き返へし口だけ残しそこから引き返へして圍り全體に飾り縫ひをします。そして後あきの左右兩

端にボタン孔をあけてシャツの背ボタンにかけるやうにします。

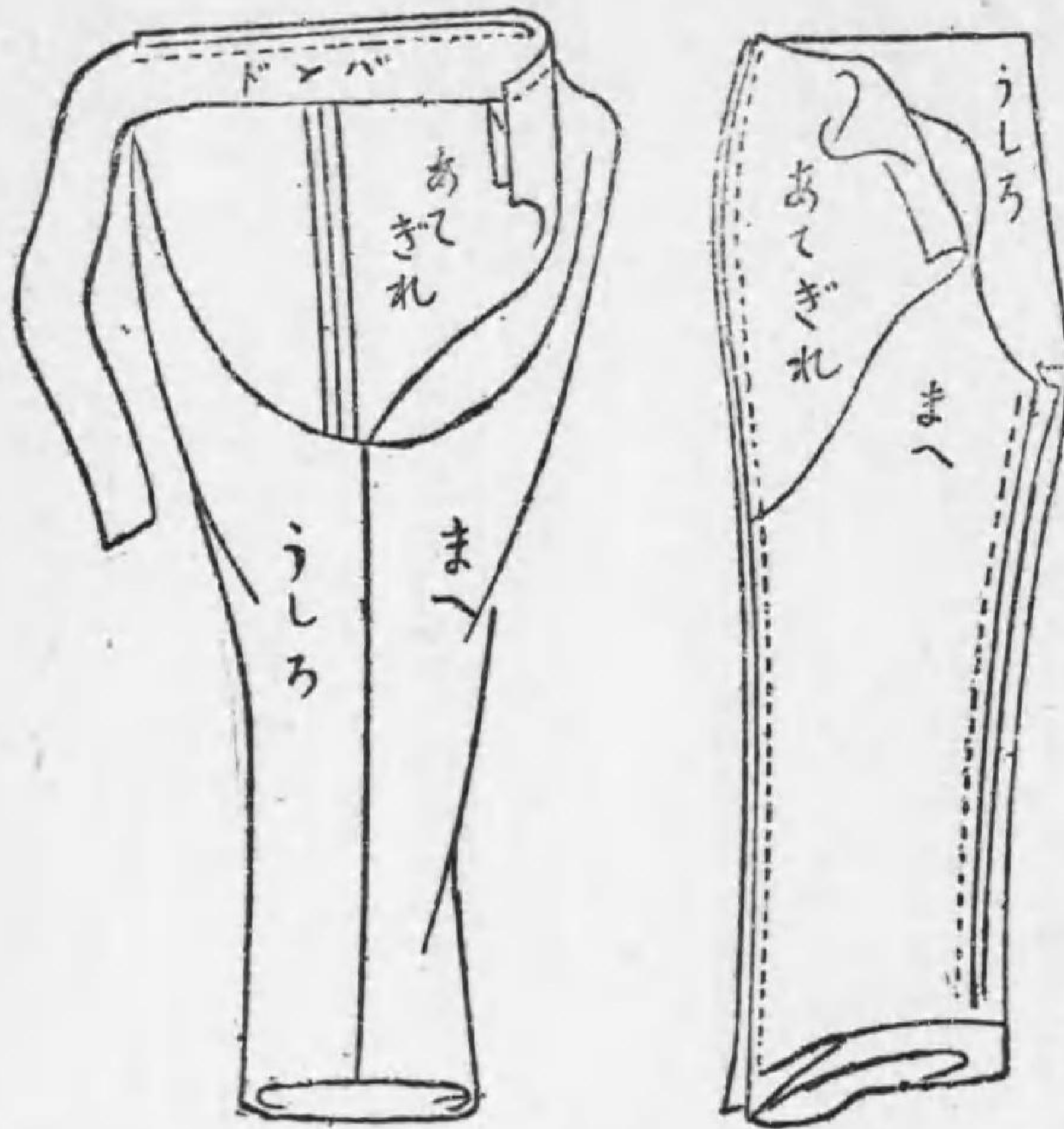
其二 パンツ

このパンツは脇をあけ、後の脇には別に大きなあて布をつけてこれを腹の前で合せ、パンツの前は此のあてぎれにボタンでかける仕立方でありませう。パンツの後からあて布にかけて別にバンドをつけませう。

一、裁ち方

バンドの長さは丁度腹圍りに合ふやうに定めます。後の脇にあて布をつけてその全體の圍りをバンドの長さに比べて長短があつたら脇の縫ひ代にあて布で加減します。前後あて布とも型紙の通り二枚づつバンドは一枚で作ります。

二、縫ひ方



(1) あて布の前の端を折つて見返へしを作り下端は三つ折り縫ひをします。

(2) あて布を殘の脇にあてて切り込みから上を縫ひます。

(3) 後股上を縫ひます。

(4) バンドをつけませう。即ち後の上端と、あて布の上端につけるのです。

(5) 前と後と脇を合せて切り込みから下を縫ひます。あて布の脇も共に縫ひませう。

(6) 前の股上を縫ひませう。

(7) 前の上端にはボタン孔をあけませうからその表地と同じ形で少し巾の廣

ト—コイ—ポ 篇二廿第

號三第 紙型新



い見返へしをつけると丈夫になります。此の型紙はありませんから裁ち出しの布で作つて下さい。

- (8) 股下は左右を續きに縫ひます。
- (9) 裾口は折つてへむをします。
- (10) ポケットが必要ならあて布につけます。

一、型紙の修正

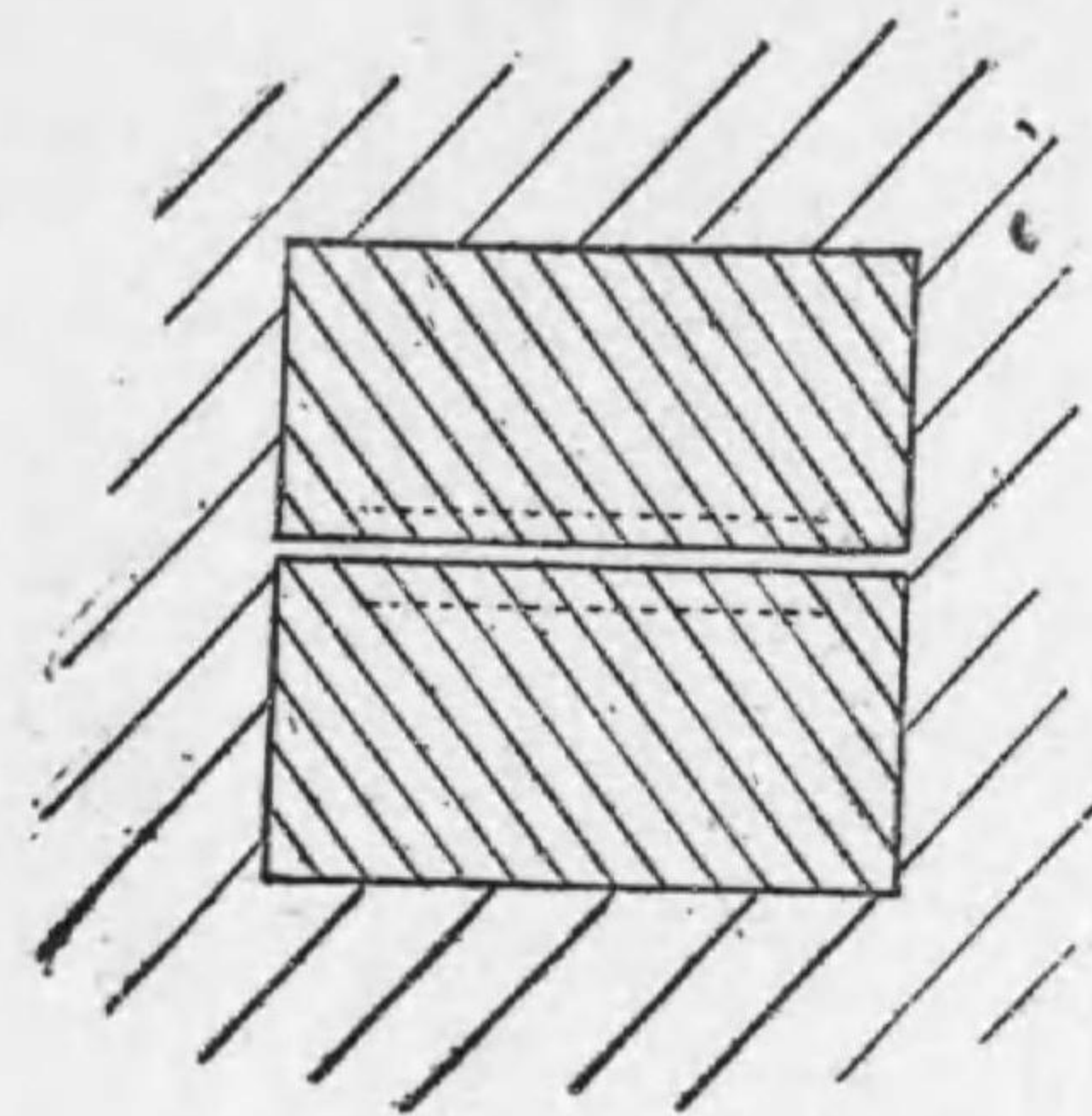
寸法のはかり方、コートの丈は後の衿元からはかり行は背の中央から肩にそつて手頭までの長さはかります。型紙を修正するにはコートの丈は裾で伸縮し行は袖の長さで伸縮します。

二、裁ち方

後の中心はわなで取つて背に縫ひ目をつけません。袖の布目は和服と反対であります。カフスと袖口はどちらか一組でよいです。ベルトにはつぎ目が出来てもかまひません。ポケットの袋の型紙はありませんが必要ですから用布の裁ちくすは大切に殘して下さい。裁ち方と同時に前の中心ポケット、ベルト通し等の位置のしるしは布に移して下さい。衿とカフスには裏がいります。ベルトにも裏がいります。

三、縫ひ方

(1) ポケット 左にだけつけます。併し両方につけてもかまひません。圖の様に口を切りあけて袋を中につけたポケットを切ポケットといひます

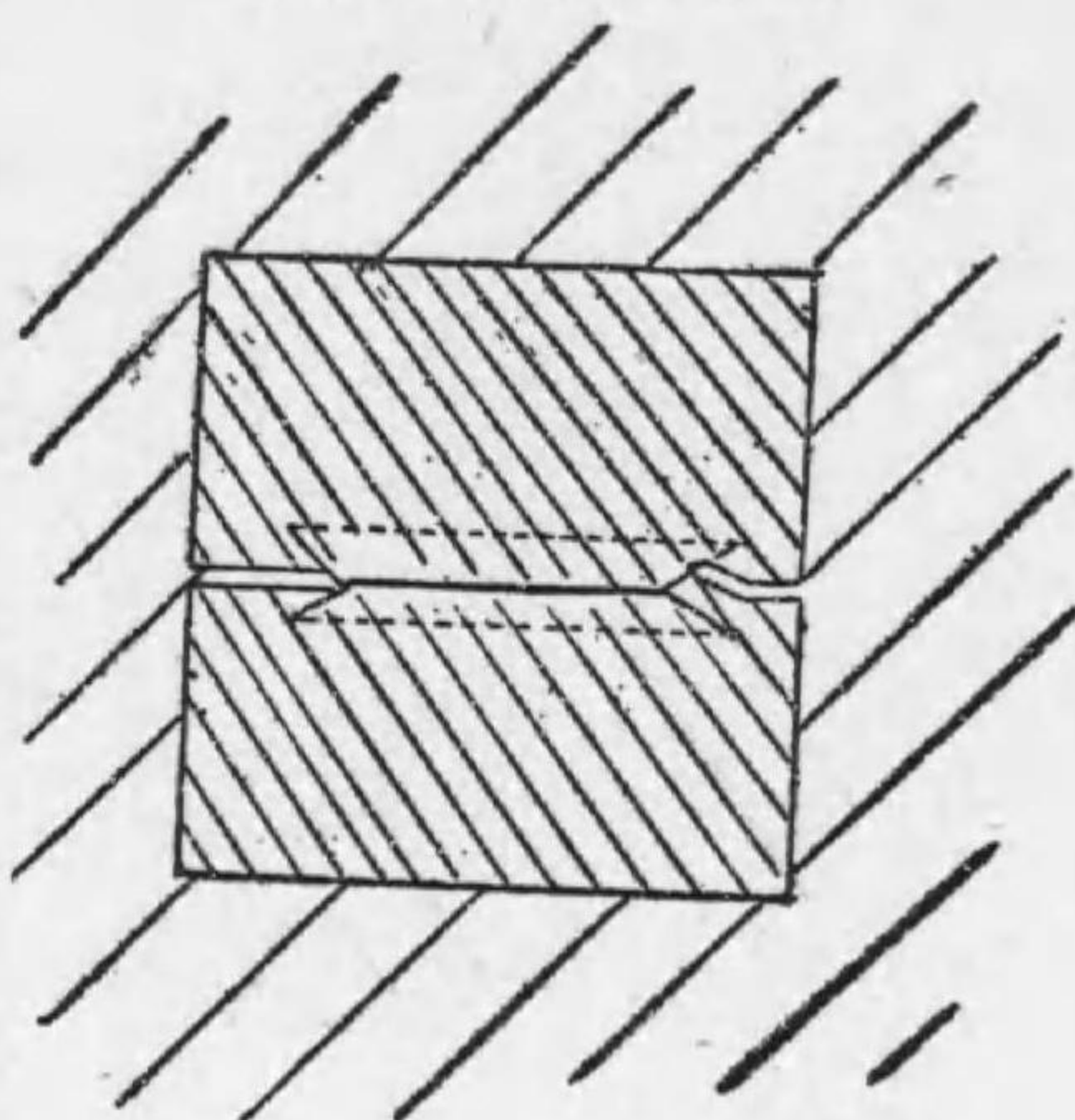


(イ) 長さはポケット口より三センチ(七分)長く巾は四センチ(一寸)の小布を裁ちくづから二枚とります。これがポケットの口のふちになるのです。

(ロ) 此の小布を前身頃のポケットのしるしにつき合せておき三、四ミリの縫ひ代で圖の如く縫ひます。始め終りを返し針でとめる事、此のとめが上下正しく揃ふことが大切です。

(ハ) ポケット口のしるしの通り切り開きます。但

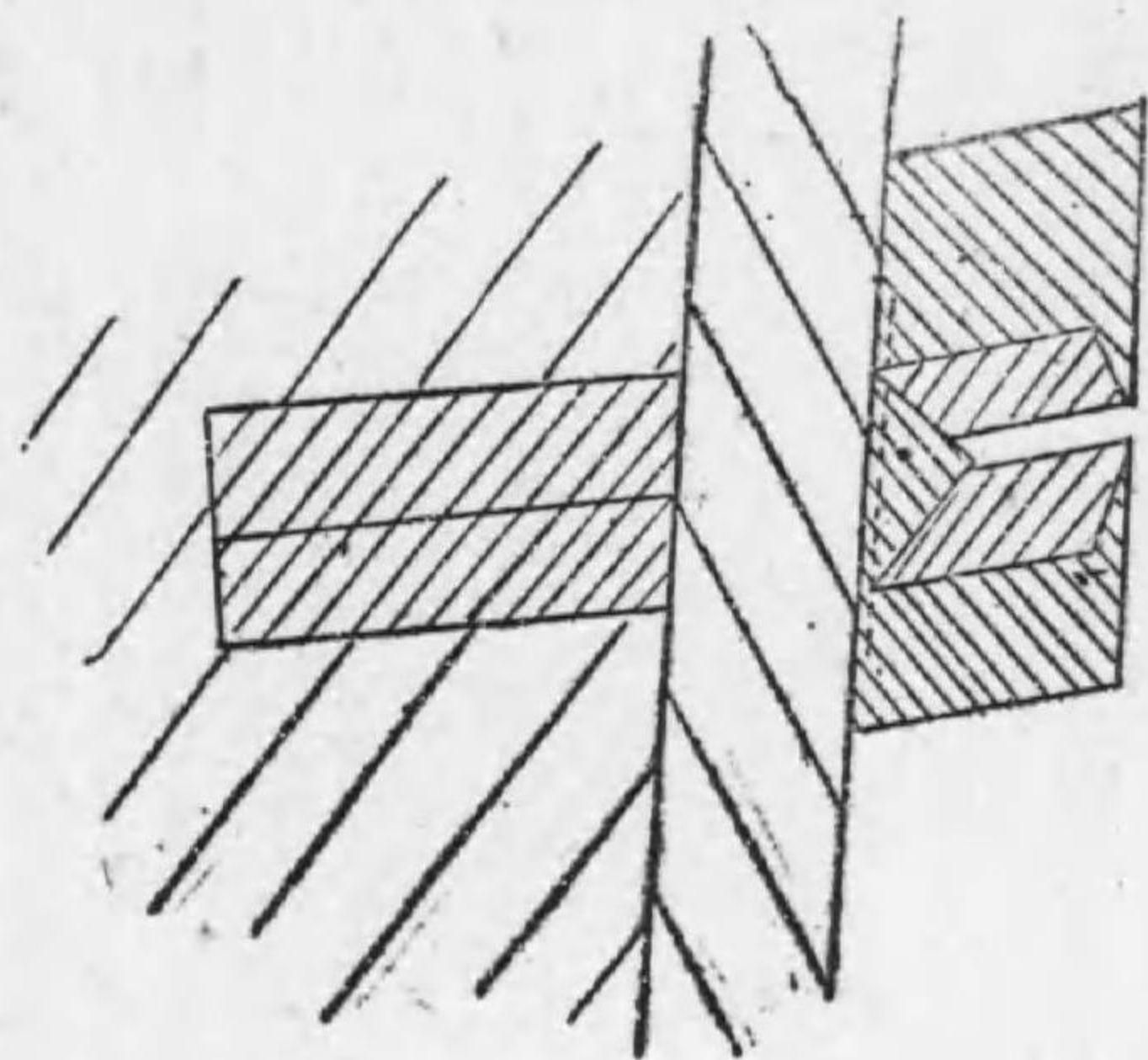
方切の口トツケ



し両端は三角形に切ります。此の三角の小布がポケットの口の留布になるのですから大切です。

(ニ) 小布を裏に引き出し上下の縫ひ目を割り小布を口の中央でつき合せて折り表から見た出来上のふちの巾が揃ふ様にして烙鏝でおさへます。尙口の両端に残る三角の小布も裏に折つておきま

す。
(ホ) 口の下方の縫ひ目に表から落しミシンをかけるか又は返し針で縫つて裏に折り込んだ口布を押へつけます。但し上方の口布はその儘にしておきます。それから両端の三角の小布を折り目の所から口布の折り込みの上にしかと縫ひつけます。



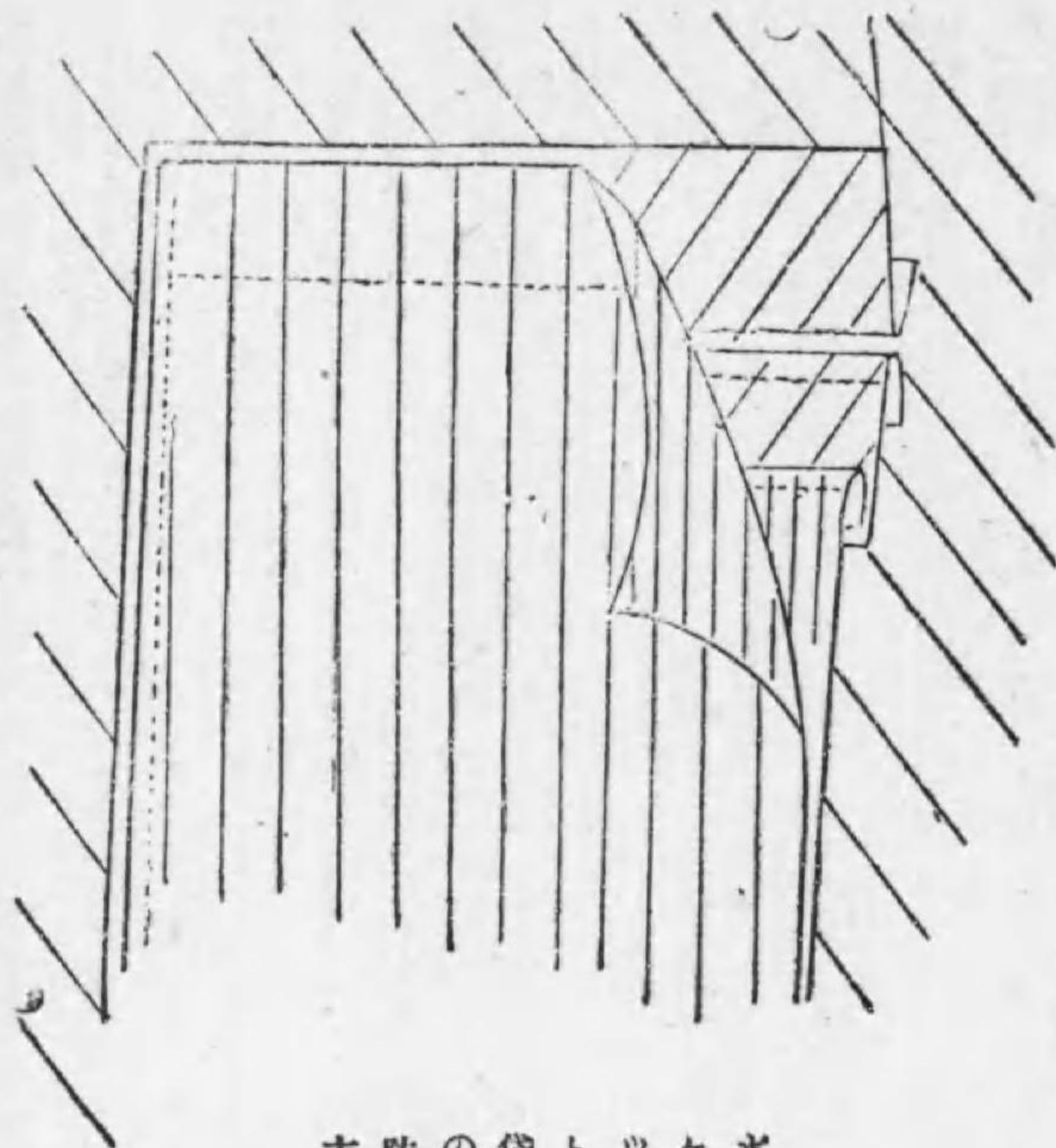
ポケット口の留

(へ) 裏から下の袋布を下のふち布に縫ひつけその上に上の袋布をのせそして表から口の上方の縫ひ目に落としミシンをかけるか又は返へし針で縫つて裏に折り込んだ口布と袋の布と共に縫ひつけます。それから袋の圍りを縫ふとポケットが仕上ります。

(2) ベルト通し 出来上り巾一センチ位の紐を作りこれをしるしの所に縫ひつけます。

(3) 肩合せ 厚地のものは縫ひ目を割りそして布の裁ち目はバイヤスで巻くか糸でまつつておくかします。

(4) 衿 表と裏と合せて裏の圍りを表より少しひかへて裁ち切り裁ち目を揃へて圍りを縫つて引き返へし表から飾りミシンをかけます。



方防の袋トツケ

(5) 衿づけ 衿の中心を身頃の後の中心にあて衿の両端を前の中心にあてて少し衿を釣り加減に約八ミリ(二分)の縫ひ代を手で假縫ひをします。それにバイヤスをあて共に本縫ひをして縫ひ代をバイヤスで巻き、身頃にまつりつけます。

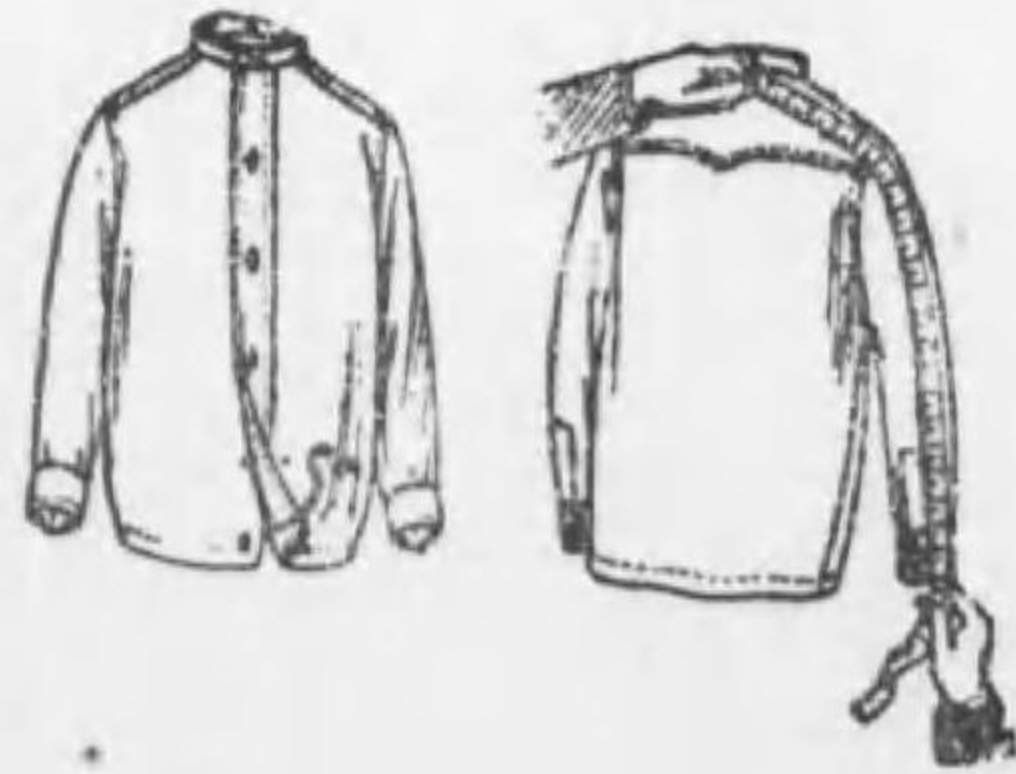
(6) 脇縫ひ 厚地の場合は縫ひ目を割つて両側の裁ち目をバイヤスで巻くか糸でまつるかします。

(7) 裾のへム 裾は折つてまつりつけます。

(8) 前の見返へし 端を少し裏に

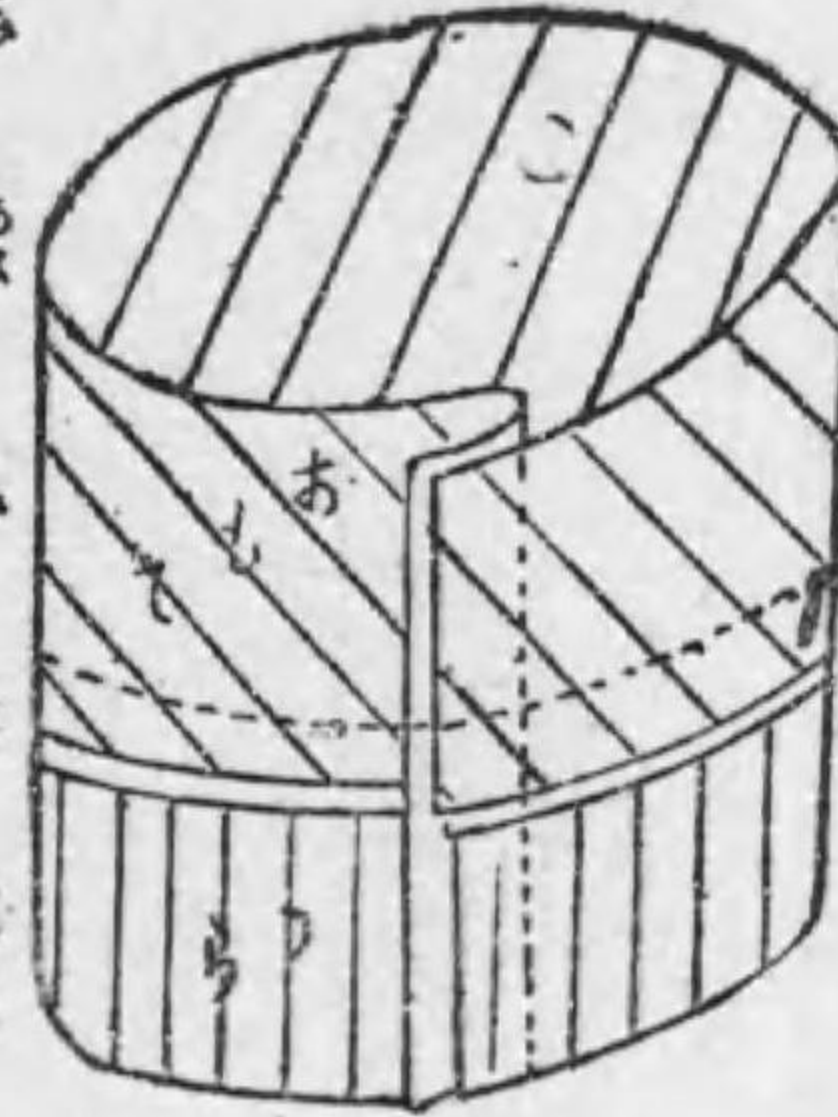
スウラブツヤシ 篇三廿第

號九十第 紙型新



折り更にしるし通りに見返へしの中を定めて折り上端は衿の縫ひ代にならつて折り込み
み圍り全體に飾りミシンをかけます。

(9) 袖 袖下を縫ひます。厚地の場合は矢張り縫ひ目を割つて裁ち目は巻きます。
(10) カフス 表と裏と口を縫ひ合せ更に兩端と合せて輪にします。



口は表裏毛抜き合せて折つてカフスにします。
(11) 袖つけ 此の袖は袖下の縫ひ目と脇縫ひ目と一致します。

(12) ベルト 表と裏と合せて圍りを縫ひ引き返へして圍りに飾りミシンをかけます。但し長さは縫ふ前に一

應身に合せて見る事が大切です。

(13) ボタンつけ 及びボタン孔

一、型紙の修正

行は身に合せなくてはなりません。行のはかり方は後の衿つけの中央から肩を越えて手頸までの長さをはかります。そして型紙の後身頃と袖とカフスとを縫ひ代だけ重ねてつぎ合せ、實測の行と比べて長過ぎる時は袖の長さの中央を折りたゝんで行に合せ短過ぎる時は袖口の方で行を出します。

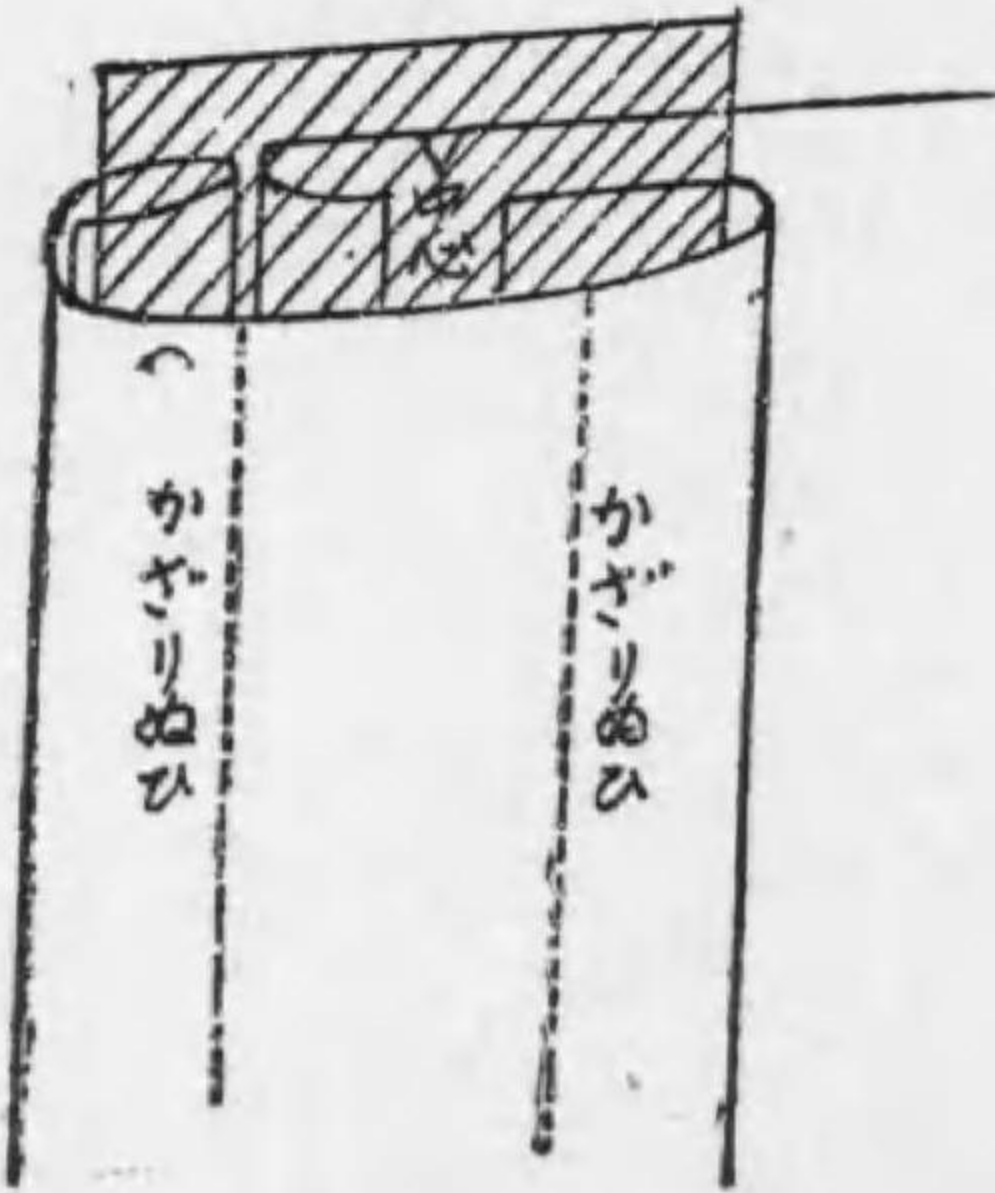
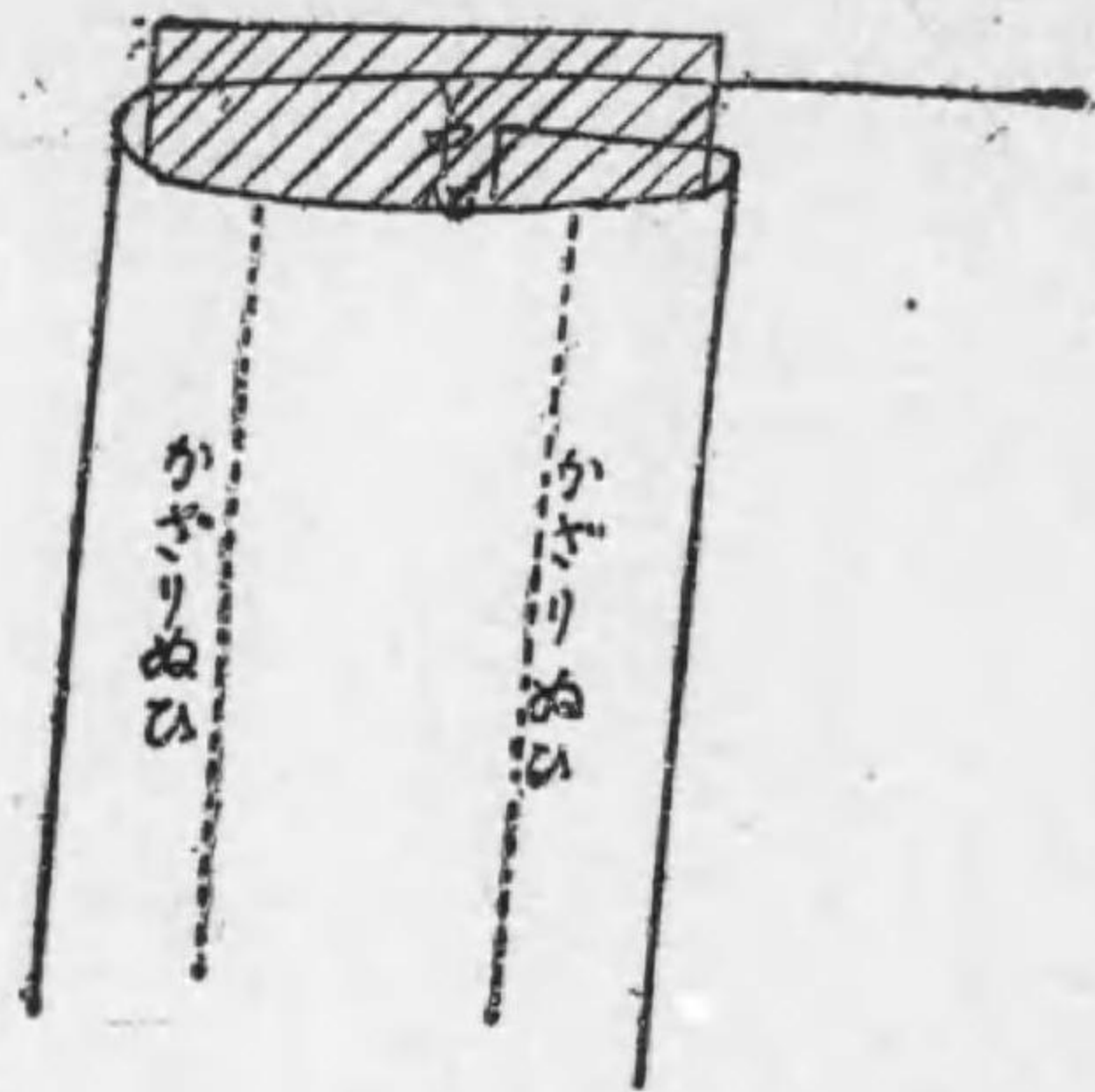
二、裁ち方

型紙の中には衿の型が種々納めてありますが、カラを別につけるなら身頃にはたゞネックバンド（型紙第十九號の型の型）だけつけカラは別に衿（同7の型）とカラバンド（同6の型）で作ります。又ただ一枚の布で作るカラ（同4の型）もあります。カラを取り外す様にしないで身頃に縫ひつけてもよいのでその時はネックバンドはいりま

せん。前の見返へし、ネックバンド、カラ、カラバンド等には芯がいります。芯は糊入りのよい目の荒い木綿が適當です。ネックバンドは表も木綿がよいのでフランネルや絹のシャツにも白木綿のネックバンドを使ひます。前身頃には見返へしの分が廣く入れてありますが見返へしは布の都合によつて別布で作つてもよいのです。その場合は前の中心から一センチ半(四分)廣く取つて裁ち別の見返へしは上前五センチ七ミリ(二寸五分)下前四センチ半(七分)の巾にとります。

三、縫ひ方

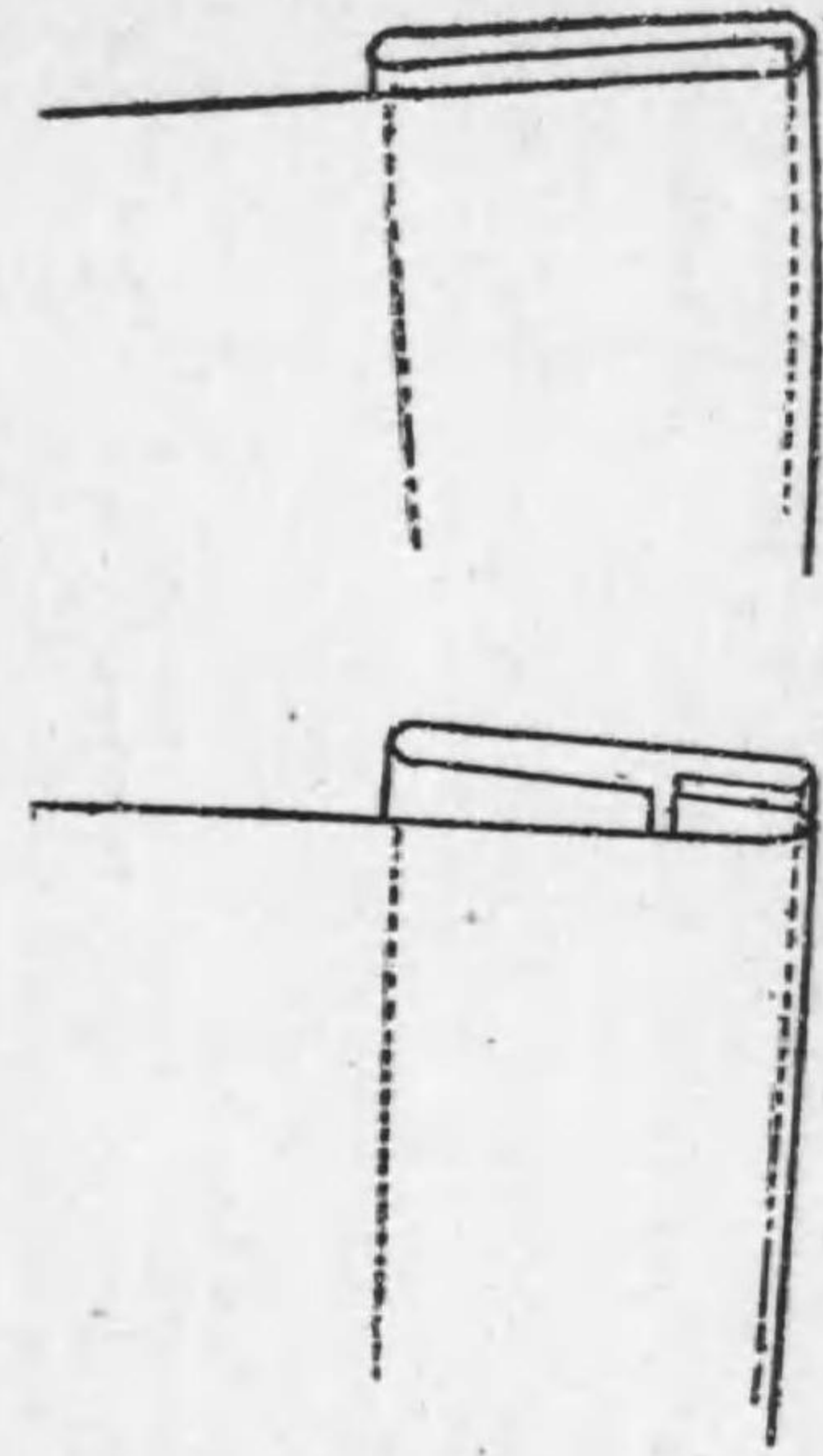
- (1) 前の見返へし
- (イ) 上前(左) 見返へしが續きに廣くとつてある場合はその端を一センチあまり(三分)表に折りその折山から更に三センチ程(八分)表に折つて兩端に八ミリ(二分)の縫ひ代で飾り縫ひをします。



に飾り縫ひをします。芯の巾は出来上りの見返へし巾より少し狭く、三センチたらず(七分)にしてこれを圖の様に見返へしの折り込みの中に入れます。

(ロ) 下前、(右) 見返へしが續きに廣くとつてある場合は先づ二センチ三ミリ(六

見返へしを別に取る場合は裏から見返へしを當て八ミリ(二分)の縫ひ代で縫ひ、縫ひ目を割つてその縫ひ代を芯にして表に返へしその端を一センチ餘り(三分)中に折つて兩側



分)裏に折りこれを芯にして更に同じ程裏に折つて両側に飾り縫ひをします。見返へしを別に取る場合は八ミリ(二分)の縫ひ代で縫つて裏に折りその端を一センチ半(四分)中に折り込んで両側に飾り縫ひをします。

(2) ポケツト 上端を裏に折り込んで

飾り縫ひをなし圍りを裏に折つて右身頃の胸にあてて圍りを縫ひつけます。

(3) 肩合せ 前身頃と後身頃の肩を合せて待針を打ち衿圍りの内側を縫ひ代にそふ

て長さをはかつて見ます。もしネツクバンドの長さに合はないなら肩の縫ひ代を加減して直します。それから後身頃の方にヨークフエーシング(肩當)の肩をあて三枚共に縫ひます。ヨークの下端は折つて後身頃の上のせて縫ひつけます。

(4) ネツクバンド 後の中央と両端にはボタン孔をあけますからその様に説明しま

す。

(イ) 型紙は心の型でありますから表布と裏布は圍りをぶつと廣く裁つておきます。

先づ表布の上に芯をのせて表布の下端を芯の裁ち切りにそふて芯の上に折ります。そして八ミリ(二分)位の縫ひ代で飾り縫ひをします。

(ロ) これと裏布と芯を外にして合せ三方を芯に四ミリ(一分)かけて縫ひます。そして圍りの縫ひ代を少し残して兩端と上部を切りすて引き返へして烙鋺で仕上げます。

(ハ) 後 中央の表にカラボタンの横孔をあけてかざります。

(ニ) バンドの裏を身頃衿圍りの裏につけ同時に表から背の中央に長さ六センチ(一寸六分)巾四センチ(一寸)位の小布をあてて共に縫ひます。

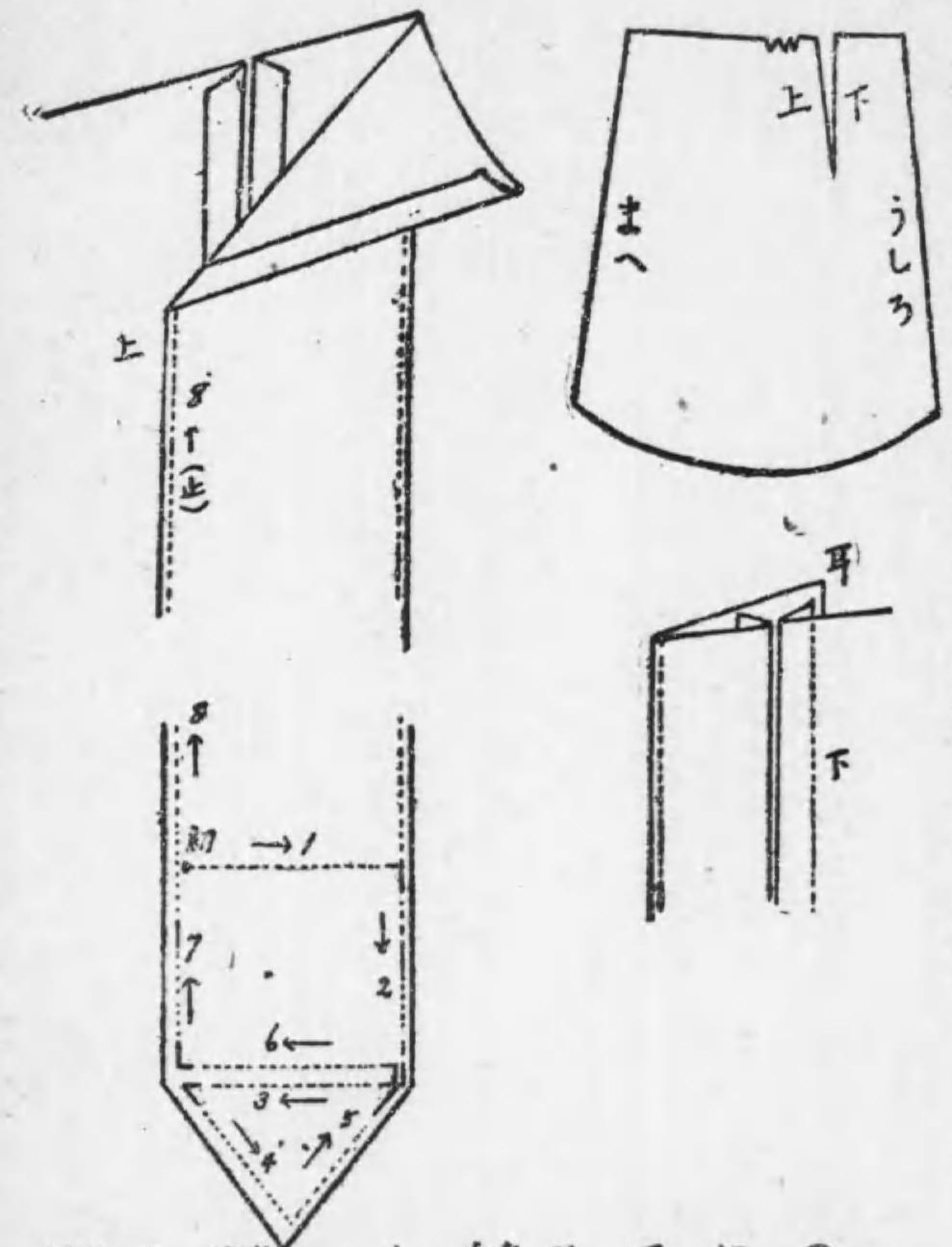
(ホ) 此の小布をバンドの中に折り込みバンドの山の縫ひ代にとちつけます。

(ヘ) バンドの表を衿圍りにしついで假縫ひし表から飾り縫ひをします。但し中央の

カラボタンの所は四センチ(一寸一分)程あけておくので飾り縫ひは此の間をさけます
(5) 袖口あき あきの終には横に半センチの切り込みを入れます。そして下に持ち出しを付け上に見返へしをつけて重ね合せるのです。

(イ) 持ち出し 片側は織耳の巾三センチ長さは袖口あきより少し長い小布を使ひます。そしてこれを表からあてて裁ち目を揃へて半センチの縫ひ代で縫ひ目を割つて一センチの巾を残して裏に折り両側を飾り縫ひします。即ち巾一センチ半の出来上りで

(ロ) 見返へし 巾四センチ半長さは袖口あきより四センチ位長い小布を使ひます。これを裏からあてて裁ち目を揃へ半センチの縫ひ代で縫ひ縫目を割ります。そして一センチ半残して表に折りその端は約半センチ中に折りこんで烙鏝で押へ見返へしの末端に適宜のポイント(三角形)を作りその圍りも折り込みます。先づ見返へしの外側に飾り縫ひをして次に袖を平に開いて持ち出しと見返へしとを布の自然のまゝに重ね合



せ次に示す運針の番號及び方向に従つて飾り縫ひをします。

(1) は袖口あきのため
の少し上で縫ひ目は一筋
にとゞまらず三筋位縫ふ
てそれからポイントに向
ひポイントがすんで上に
向つて袖口の裁ち目と
まります。

鯨尺による説明——持
出し巾八分の小布、で縫
ひ代は一分出来上りは四
分、見返へし巾一寸二分

の小布で、縫ひ代は一分裏は四分の巾に表は六分の巾、に出来上らせませます。

(6) 袖つけ 袖の附の方を表に三ミリ 約一分折り身頃の袖つけ圍りの裁ち目と突き合せて中表に合せ三ミリの縫ひ代で縫ひ袖附の折つた山を身頃にまつりつけます。

(7) 袖下脇縫ひ 袖下と脇は續きに縫つて後に片返しにするか又は後の縫ひ代を半分切り落して折り伏せ縫ひにします。

(8) 裾 腹圍りに合ふ長さのゴムテープを入れて三つ折り縫ひにする事もありますし、ゴムテープの代りに木綿テープを入れて引きしめる様にする事もあります。

(9) カフス 型紙はダブルカフスの心です。

(イ) 木綿の心を作り表と裏はそれより巾を二センチ(五分) 廣く裁ちます。

(ロ) 先づ表布の上に心をのせて兩端と先と裁ち目を合せ附の方は表布を心の上に折り返へして烙鏝をかけます。

(ハ) それから裏布と是と合せて圍りを縫ひ引き返へして圍りを烙鏝で仕上げます。

(ニ) カフスを表を中にして出来上りの通りに折り、裏布の端を表と裏の中に折り込み附の方は一センチ半(四分)内を圍りは半センチの縫ひ代で飾り縫ひをします。

(ホ) 袖口あきの持ち出しを裏に折り袖口の丈をカフスの丈に合せて袖山と袖口あきとの間で縫ひ締め

(ヘ) 袖口をカフスの裏表の間にはさみ込んで表から飾り縫ひで縫ひつけます。

ブレインカフ (二つに折らないカフ)、表も裏も心も同じく六センチ(一寸六分)位の巾でよく、長さはダブルカフと同じです。

(イ) 表と裏と心と三枚合せて圍り三方を縫つて引き返します。

(ロ) 袖口を縫ひ締めカフの裏を袖口の裏につけます。

(ハ) カフの表と心を一所に折つて裏の縫ひ糸をかくす様にのせ飾り縫ひをします。

ボタン孔及ボタンつけ

(イ) (10) ネットバンドの下前は小さく、上前は少し大きく横孔をあけます。孔の外の端

が見返へしの中心にあたる位置が適當です。

(ロ) 左前見返へしの中央に縦孔を三、四個あけます。

(ハ) カフス ダブルに折つた儘重ねて四個一所に横孔をあけます。

(11) ローカラ カラとカラバンドとある方がローカラ(低い衿)です。先づカラを表と裏と合せて圍りを縫ひ引き返へして圍りに飾縫ひをします。そして表裏のカラバンドではさみ、バンドの圍りを縫ひ引き返へしてバンドの下端を中に折り込みバンドの圍り全體に飾縫ひをします。但しカラにバンドをつけてから此のバンドをネツクバンドの様に直接身頃につけてもよろしいです。

(12) ハイカラ 一枚のカラで出来てゐるのがハイカラ(高い衿)です。これは表と裏と合せて圍りを縫ひ引き返へして下端を折り込み圍り全體に飾り縫ひをします。但し此の衿も亦直接身頃につけてもよいのです。

第二十四篇 パンツ

新型紙 第十七、十八號 スタイルは第二十五篇に同じ

一 型紙の修正

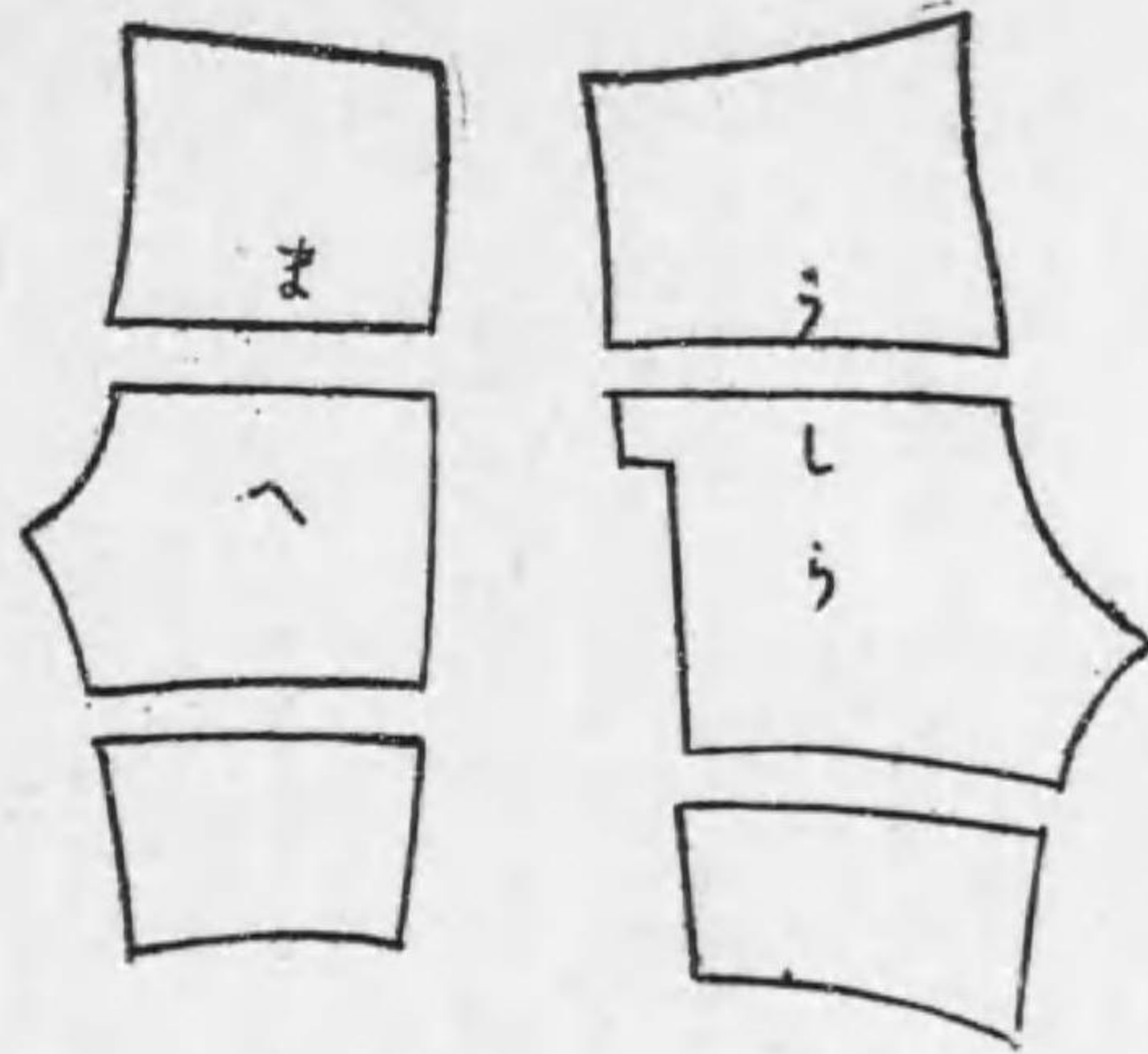
其一、寸法のはかり方

(1) 脇丈 パンツの股上の深さを随意に定めてそこに細い紐をしめその紐から膝のあたりまで随意の長さを定めてはかります。

(2) 股上 板の上に腰をかけさせパンツの深さを定めた紐から板までの長さを股上の長さとしします。

(3) 股下 脇丈から股上を引いたものを股下の長さとしします。
其二修正

(1) 丈 ヅロースの修正の様に前後とも三つの部分に切り離しこれを離したり重ねたりして股上、股下とも長さを伸縮します。



(2) 圍り 腹圍りの太い子供には前の見返へし持ち出しをつける側を張り入し、それとともに上の方

にも同じ程伸ばします。又後のつまみを加減しても腹圍りに合えます。但し子供物は広い方が適當です。から此の型紙より詰める必要は殆どないでせう。

(3) 注意 此のパンツは大人用と全く同じでありますからお手許にある男子パンツを取つて此の説明に引照して下さるやうに願ひします。單に此の説

明をお読みになつただけでは到底充分お判りにならないでせう。

二、裁ち方

前 二枚。

後 二枚。特に布目に注意する事。

持ち出し 表一枚、裏一枚。裏は巾を少し廣く。

見返へし 表一枚、裏二枚。

ポケット袋布 二枚。

腰圍りの裏につける布 一枚。巾は十センチ(二寸七分)

パンツをウエストに釣る爲にボタン孔をあけた帯を腹圍りの内側に付けたときは、

ウエストバンド 表一枚、裏一枚。

三、縫ひ方

(1) 前の持ち出し 右脚につけます。持ち出し布を表と裏と合せて外圍り（丸みの方と上端）を縫って引き返へし表を前の裁ち目に合せて切り込みから上を縫ひ、その縫ひ目を割ります。裏の裁ち目を少し折つて表の縫ひの上のせ表から割つた縫ひ目の間に落ミシンをかけて裏を縫ひつけます。

(2) 前の見返へし 左脚につけます。見返へしの裏布を前の裁ち目に合せて、切り込みから上を縫ひ裏に見返へしします。

(3) ボタンかけ もう一組の裏表の見返へしはボタンかけになりますから表と裏と合せて外圍り（稍々真直ぐな方と上端）を縫ひ引き返へしてボタン孔をあけてかがります。ボタンかけの見返へしを裏にあてしつけでとめ表から飾り縫ひによつて圍りを縫ひつけます。

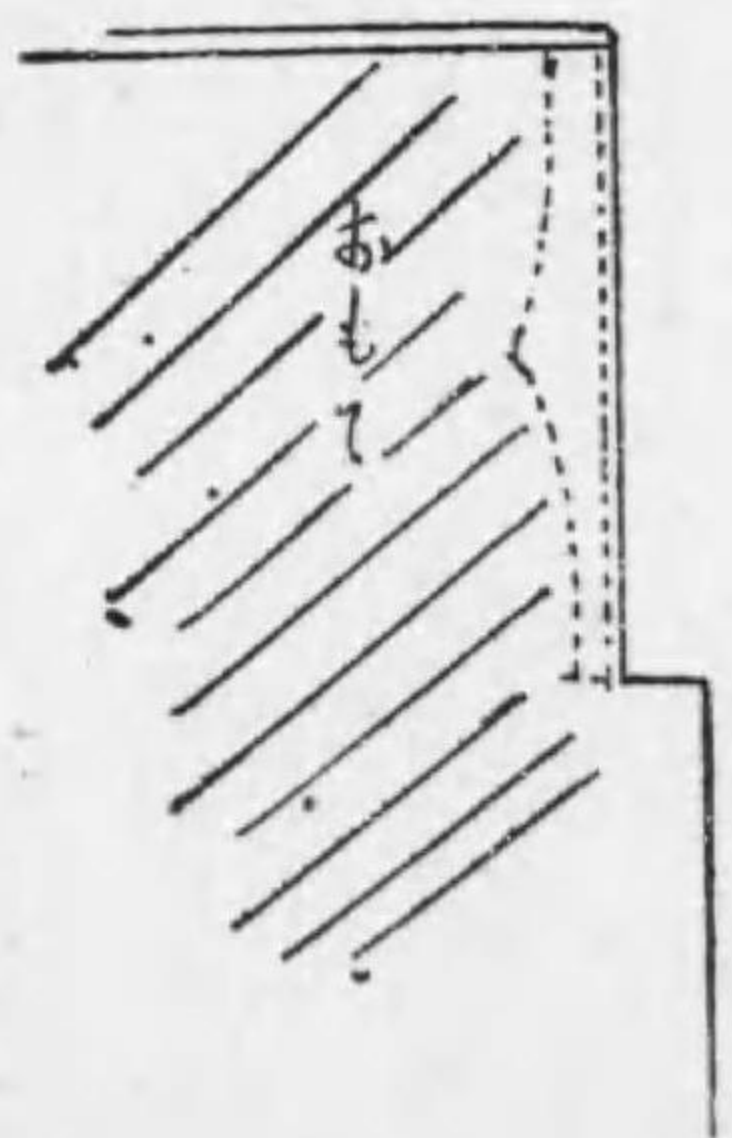
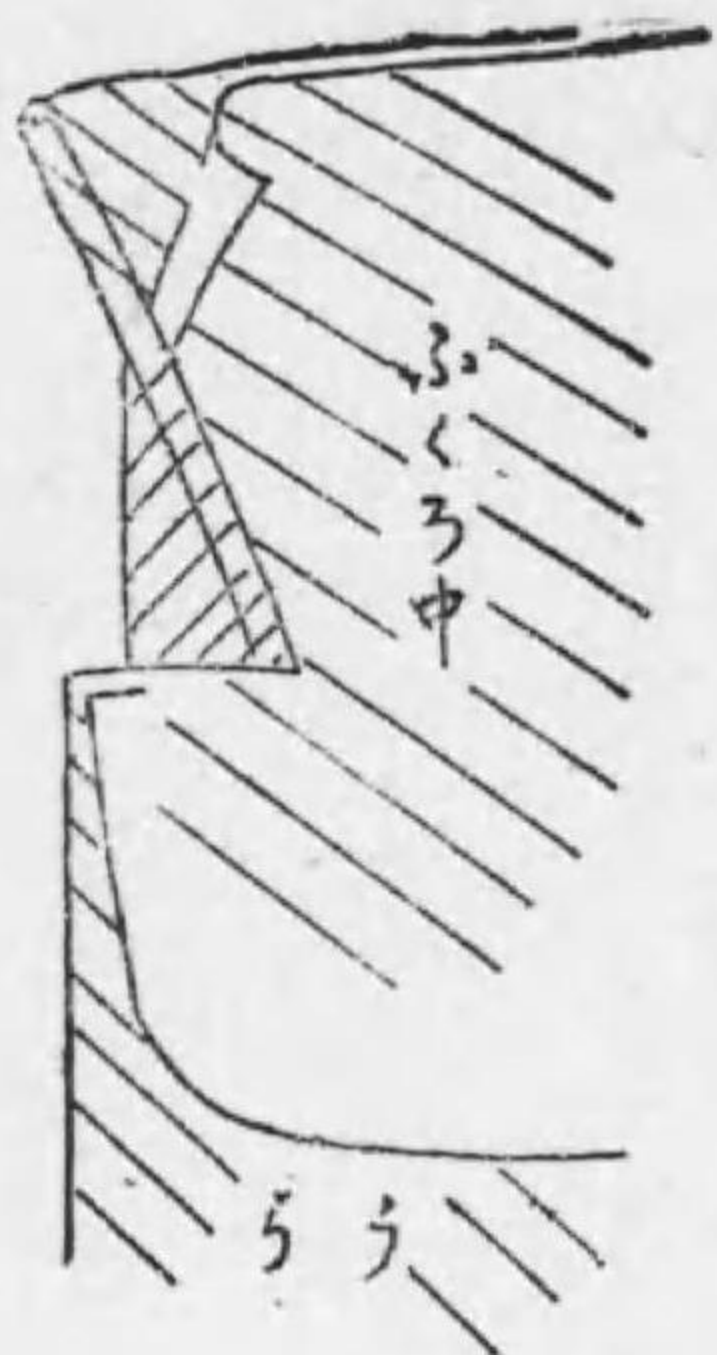
(4) 後のつまみ 縫ひ目は割ります。

(5) 後ポケット つまみの下にポケットをつける事があります。ここは切ポケット

にしますがその仕方は次篇に書いてありますから御照し合せ下さい。

(6) 脇ポケット

(イ) 前 持ち出しがあるならその裏に袋布を當てて先づ持ち出しの圍りを縫ひつけ脇を裏に折ります。持ち出しがないなら袋布の口に巾四センチ（一寸位）の表布を縫ひつけそれと前の脇と裁ち目を合せて縫ひ裏に返へします。そしてどちらも表から飾り縫ひをします。



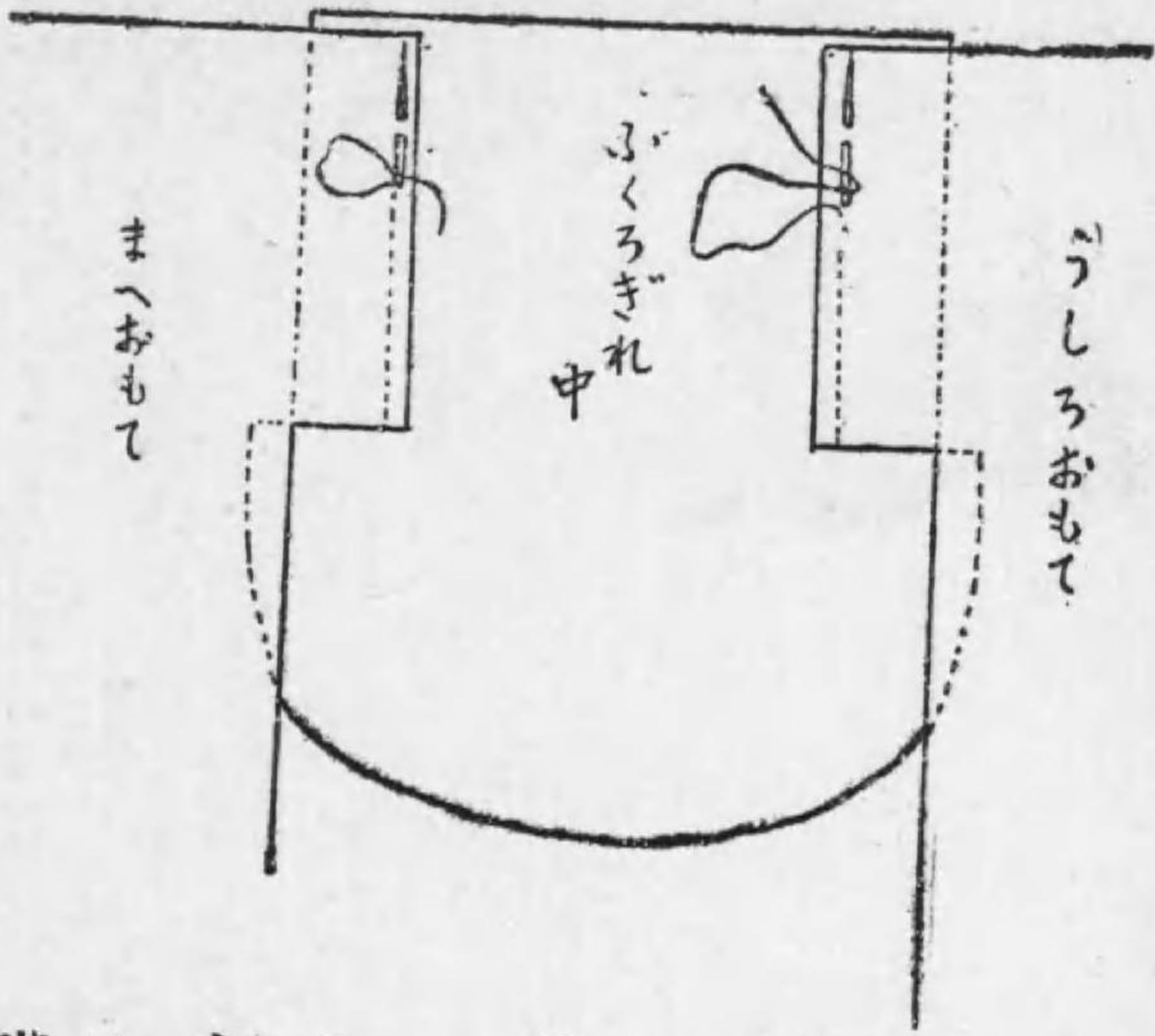
底を縫ひます。

(ロ) 後 前脇と同じ様に袋布に持ち出しの圍りを縫ひつけます。

(ハ) 底 袋布の

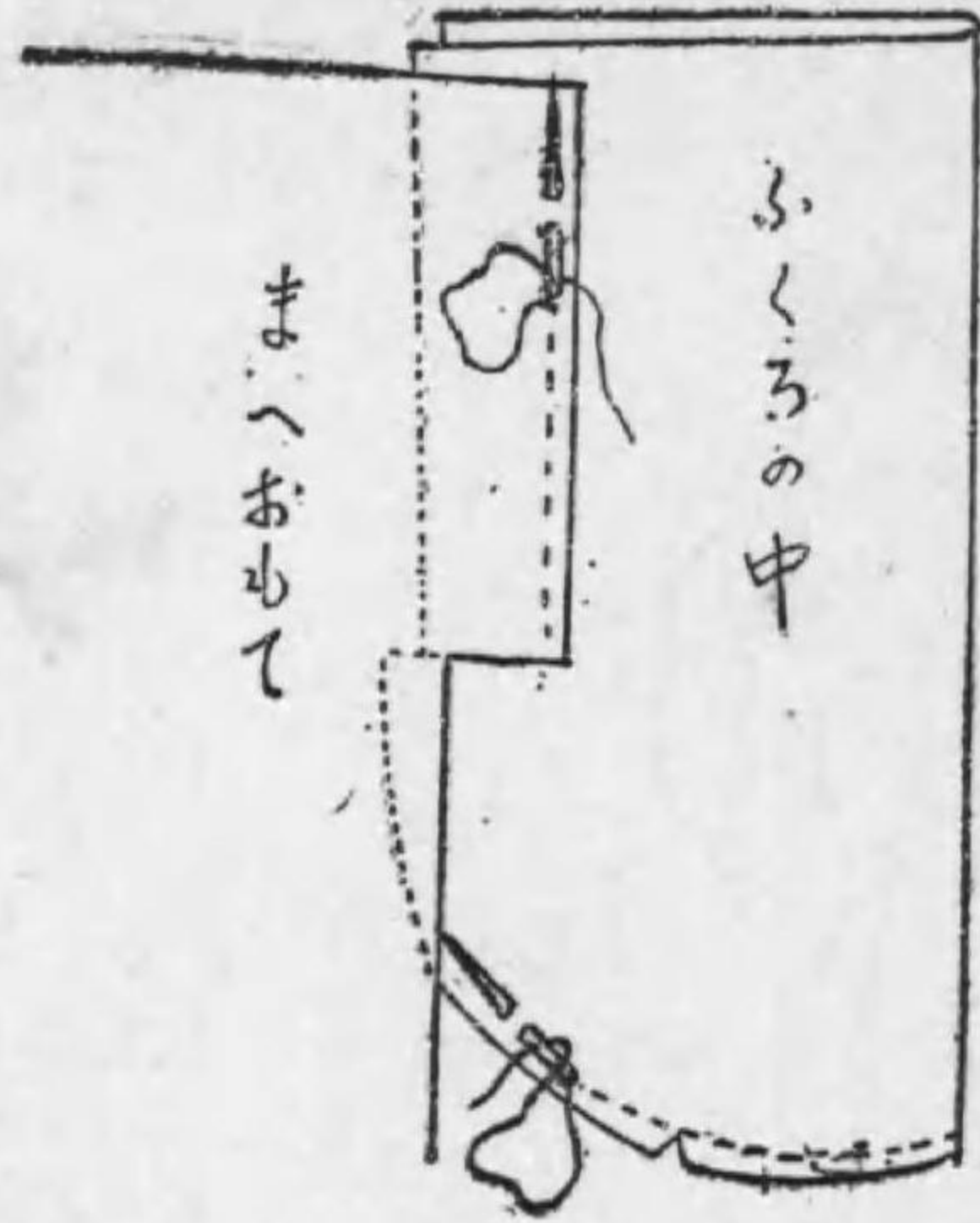
(7) 脇縫ひ

前後の脇を合せてポケット口の下から裾まで縫ひ、縫ひ代を前に折つて表から飾り縫ひをします。但しこれを割る事もありますが子供物は矢張り片返へしの方が丈夫でよいです。ポケットの袋は脇縫ひ目にまつりつけ後持ち出しの裏にあたる袋布の端も折つてまつりつけます。ポケット口の上も三センチ(八分)程脇縫ひをします。



て表から飾り縫ひをします。但しこれを割る事もありますが子供物は矢張り片返へしの方が丈夫でよいです。ポケットの袋は脇縫ひ目にまつりつけ後持ち出しの裏にあたる袋布の端も折つてまつりつけます。ポケット口の上も三センチ(八分)程脇縫ひをします。

(8) 後の股上 縫ひ目を割つてテープをのせテープの両側を表に縫ひつけておくと大そう丈夫です。又居敷當をつけるもよいです。居敷當は後の型に合せて二枚裁ち後を縫つて縫ひ目を割りそれを後身頃にのせて圍りをまつりつけます。



バンドを腰圍りの裏にあてて表から飾り縫ひをします。

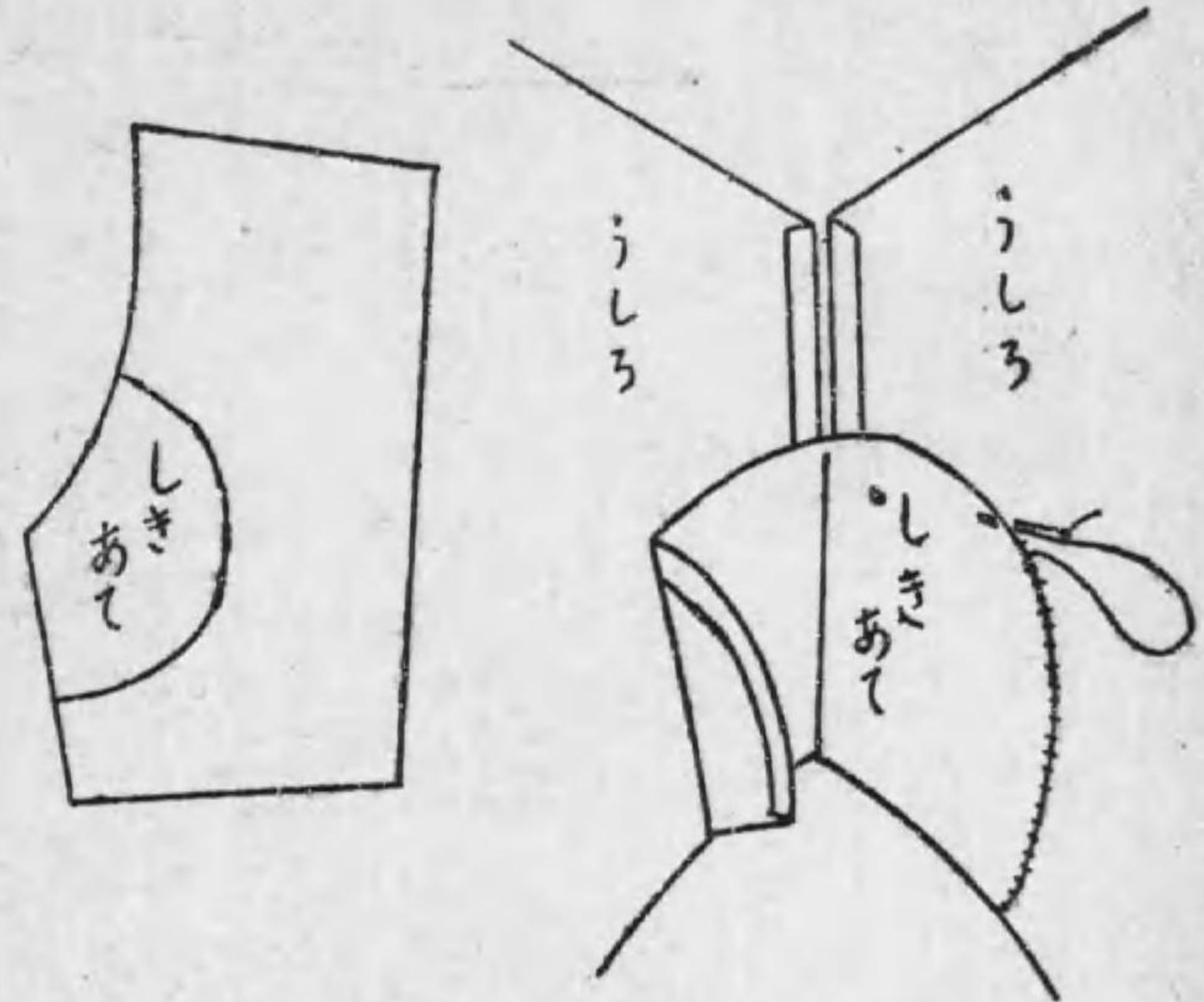
(11) 前の股上 見返へし持ち出しの下を縫ひます。そして見返へしと持出しを重ね合せて、其の下端につき出て居る部分は糸でかがりつけ尙前あきの止めには表から門どめをし縫ひ代は左に折つて表から飾り縫ひをします。

(9) 腰圍りの裏 長い裏布の一方は三つ折り縫ひにします。他の一方を表から縫ひつけて裏に見返へしその上端に飾り縫ひをします。下端は身頃と離し兩端はまつりつけます。

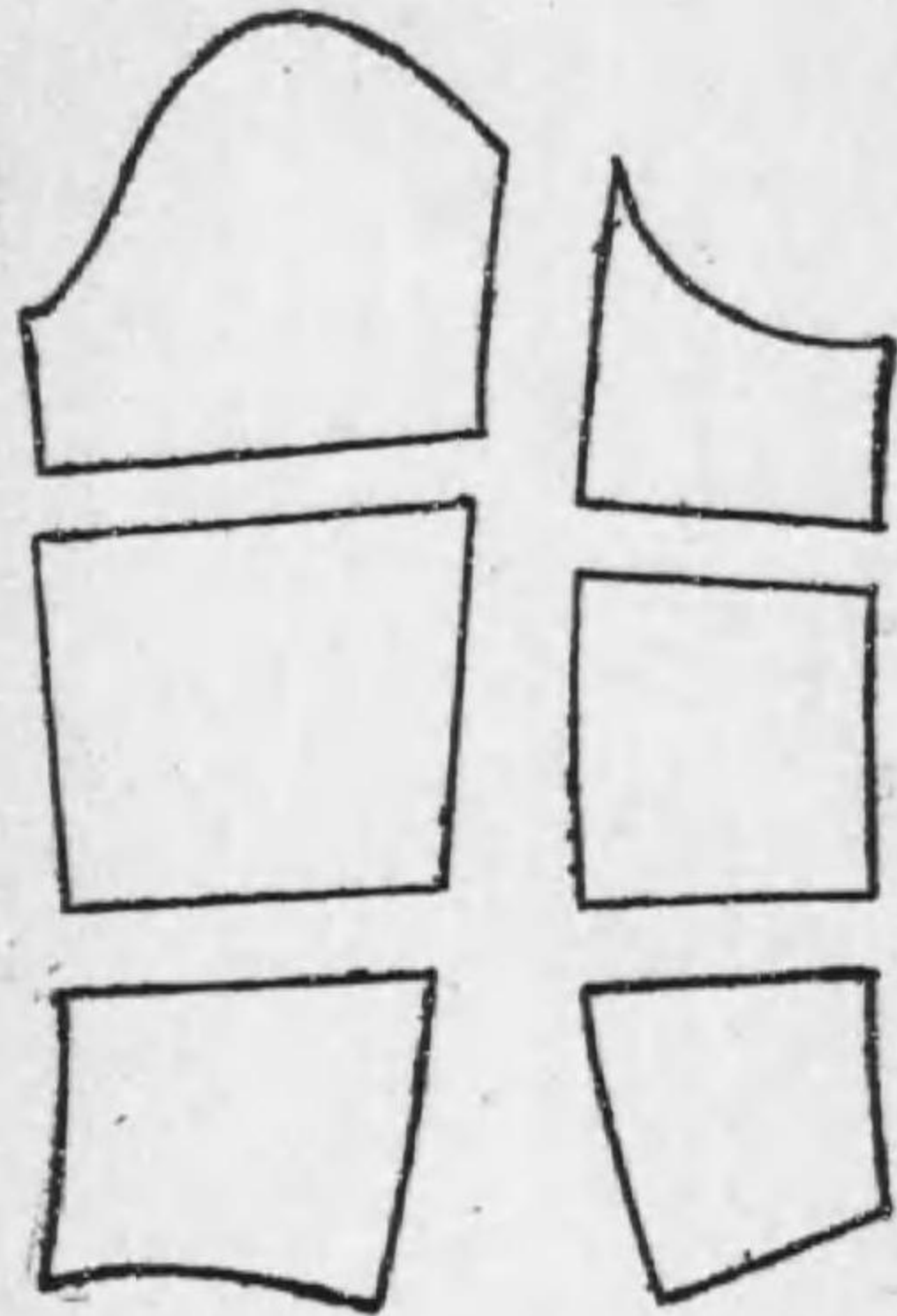
(10) ウエストバンド 腹圍りにボタン掛けのバンドをつけるなら先づバンドに裏をつけて圍りを縫ひボタン孔をあけてかがり、出来上つた

服 袴 詰 篇五廿第

號八十第 紙型新



- (12) 股下 一方の裾から他方の裾まで續きに縫ひ、縫ひ目は割ります。毛織物の場合は此の裁ち目はまとい縫ひをしておきます。
- (13) 裾 折り返へしてまつりつけ又は千鳥かけをします。
- (14) ボタン 前の持ち出しにつけます。



一、型紙修正

胸圍りを基にして適當なサイズを選んで使ふならたいして修正すべき所はありません。

行 僅の伸縮は袖口の折り込みを加減してしますが全體のスタイルをくづさないで伸縮するには上袖、下袖とも肱の前後で三つの部分に切り離し、これを重ねたり放したりしてします。

- (1) 大さ 裾の折り返して加減します。
- (2) 衿圍り 衿の巾と同じに切つた厚紙を頸に巻いて衿圍りのサイズを定めます。カラのサイズは肘で呼ぶのが普通ですから衿心の型紙の中に各年齢のサイズで肘を書いておきました。さて僅の

伸縮は肩の縫ひ代を加減するので、正確にするには肩の縫ひ目に待針を打つて後の中心から前の切り込みまでの長さを計り其長さが衿のサイズに合ふ様に肩の待針を打ち直すのです。但し袖附の方の肩の縫ひ代は型紙に點線で示した通りでこれをかへてはいけません。

(3) 衿心 もとより衿圍りのサイズに合ふ様に長さを定めます。

二、裁ち方 (單衣仕立)

男兒服の仕立ては特に寸法の正確を要し左右の寸法が違ふ様なことを許しませんから裁ち方と同時に縫ひ代其他の標附をします。和服裁縫には篋を用ひるのですが篋は毛織物に適しないので洋服裁縫には切しつけを用ひます。型紙に付いて縫ひ代を定めその縫ひ代の線の所をつまんで缺で切り孔をあけておきます。其他ポケットの位置脇のつまみ、ボタン孔の位置等も同様に孔をあけて置きます。そして型紙を布の上に置



いて裁つと同時にチャコで此の孔の標を布に移します。しつけ糸を針に通して二本糸で右の標をすくひ表に長く出て居る糸を切り離し次に二枚の布の合せ目を除に開き其間からしつけ糸を切ると糸は上下二枚の布に短い端を残して標となります。表に長く残つて居る糸の端は短く刈つておきます。

後には肩當がいります。後身頃の型に合せて長さは袖つけの少し下までにとどめます。前の見返へしの内にそれと同じ形の心を入れます。ポケットのふたには裏が在るし、ふたの大きさに應じたポケットの袋布がいります。これ等みな裏布を使ひます。衿は心よりも少し廣い布を二枚身頃の布と裏の布とから取り取ります。

三、縫ひ方

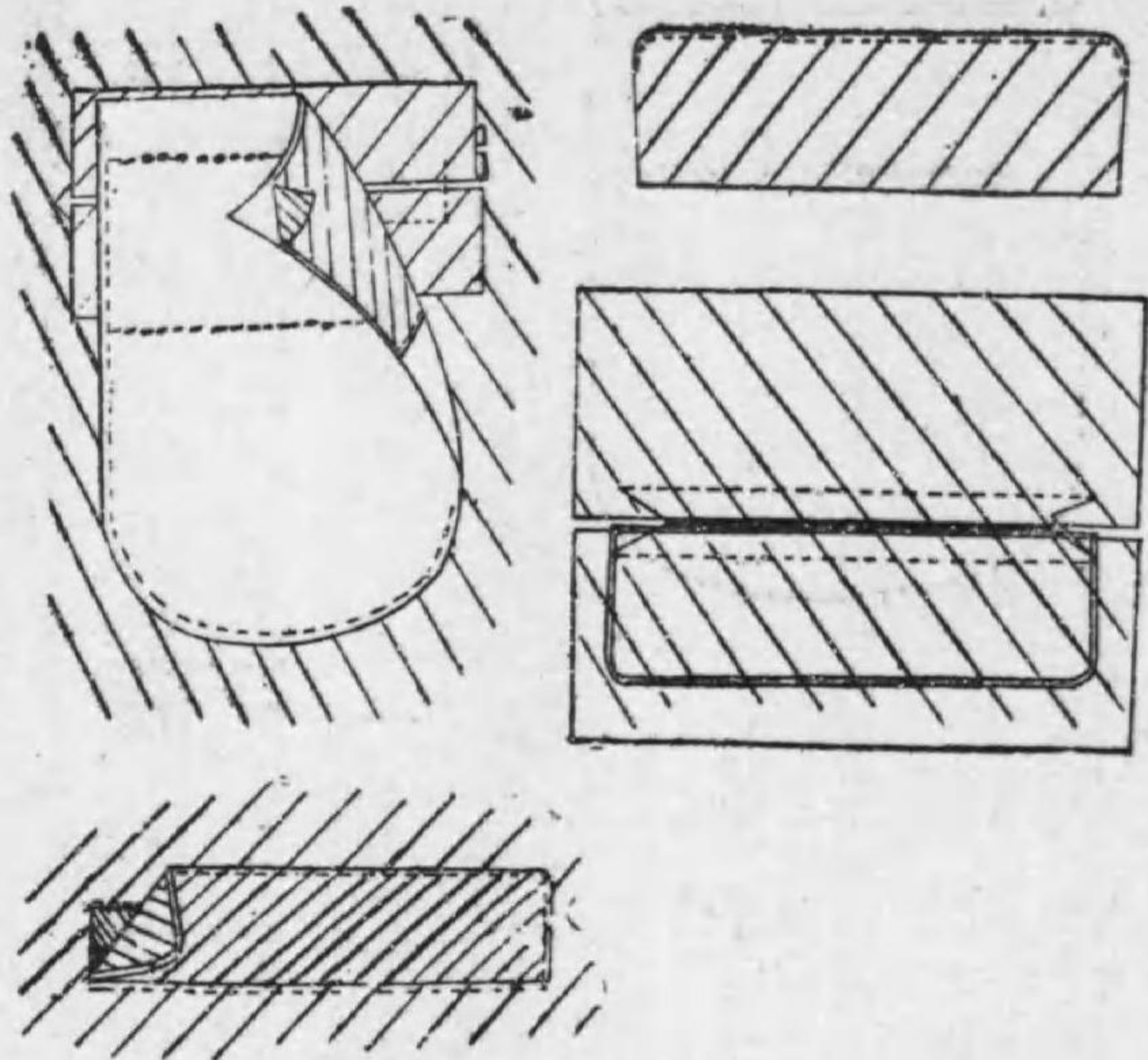
(木綿小倉地)
單衣仕立

(1) 脇のつまみ 前身頃袖ぐりの下に斜にポケットまで届いて居るつまみ縫ひの標があります。これをつまんで縫ひ、縫ひ代を後に折ります。併し特にスタイルを作る必要がないなら此のつまみ縫ひはしなくてもよろし、です。

(2) 上のポケット 切ポケットに口の下方から広い縁を出したのです。先づ長さは型紙の標通り巾は凡そ二センチ(五分)位の出来上りに裏つきの縁を作ります。そしてこれをポケット口の標の下方にあてて其上に裏布から取つた小布をあてます。口の標の上方には巾四センチ(一寸)長さは口より少し長い小布をあてます。

(イ) 標の上下とも約半センチ(一分餘)の縫ひ代で縫ひ各兩端はかへしとめをします
(ロ) 標通りに切り開き兩端は糸とめの際まで斜に切り込んで三角形を作ります。

(ハ) 上下の小布を裏に引き出し上方は縫ひ目を割つて、小布を殆ど孔の巾ほど持ち出し更に上方に折つて烙鋺で押へます。下方は小布をすつと下に引き縁切の根元に表から飾り縫ひをして表と裏の小布とを充分に押へておきます。



(3) 下のポケット

下のポケットには蓋をつけます。

(ニ) 孔の兩端の三角の小布は内側に折り其根元を小布の縫ひ代の上に縫ひつけます。

(ホ) ポケット袋切の口にあたる所には表布と同じ小布を縫ひつけます。

(ヘ) 此の袋布を裏から當てて先づ表からポケット口の上方にある小布の縫ひ目の上に飾り縫ひをして袋布の上端を縫ひつけます。それから袋布の圍りを折り込んで其折山を飾り縫ひで表身頃につけます。

(ト) 縁布の兩端は飾り縫ひ又はまつりつけによつてしつかり身頃につけておきます。

(イ) 先づ蓋を作ります。即ち表と裏と合せて圍りを縫ひ引き返へして表から圍りに飾り縫ひをします。

(ロ) それから後の仕方は全く上のポケットと同じであります。ただ違ふのはいふまでもなく蓋は口の上方につけること蓋の兩端は身頃に縫ひつけないことの二點です。

(4) 前の見返へし ボタンをかける所の見返へしです。見返へしと同じ形で巾の少し狭い心を入れると一層丈夫で出来下りがよくなります。

(イ) 心を前の裏にしつけでつけます。

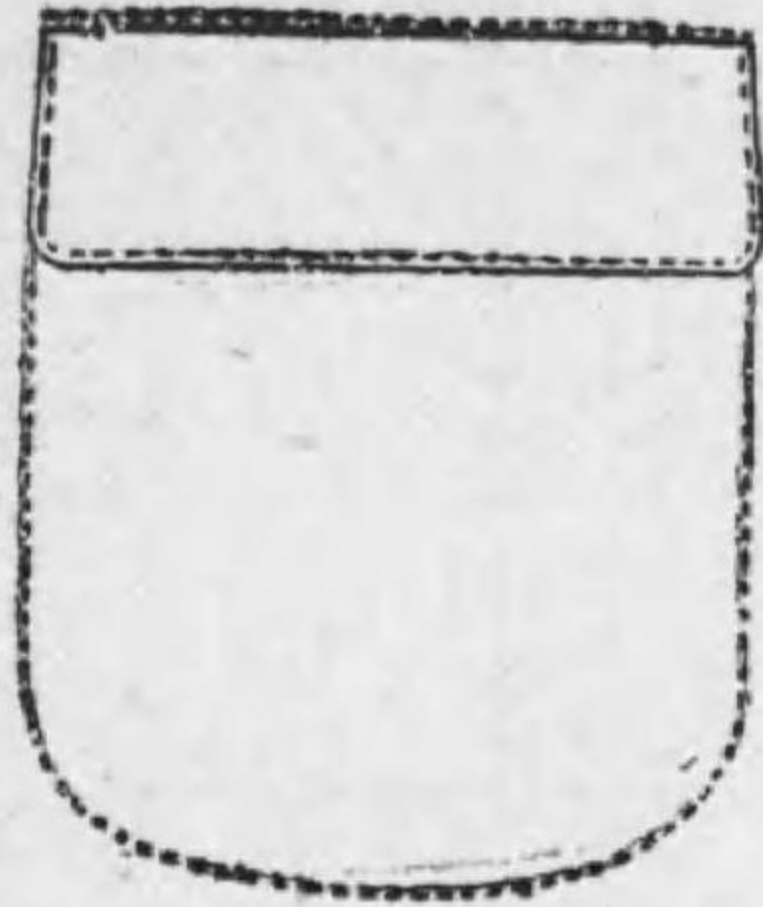
(ロ) 見返へしの布を表からあてて裁ち目を揃へてしつけを

します。

(ハ) 心の方を上にして上端衿づけとめの切り込みから裾は

見返へしの巾一ばいの間に綿テープをつけます。

これは裁ち目が伸びて形がくづれる事がない爲で此のテープの耳を縫ふのですから



テープを丁度縫ひ代だけ内側に平にすえつけ上と下のまるみの所はやはりまるくテープをまはしておき丁寧にしつけでとめます。

(ニ) テープの耳を浅くかけてテープの心と表と見返へしと四枚を通して縫ひます。

(ホ) すべてのしつけを取り去り心の縫ひ代はテープのきはから切り取ります。もし

表が特に地厚の場合は表身頃の縫ひ代も半分だけ切り取ります。

(ヘ) 見返へしを引き返へし毛抜き合せに折り目をつけて烙鏝でおさへ飾り縫ひをします。

(ト) 見返へしの奥は表に縫ひつけてもよし又は裁ち目をバイヤスで巻いておいてもよいです。

(5) 脇縫ひ 縫ひ代は後に折つて表から飾り縫ひをします。

(6) 裾 裾を折り返へしてまつりつけます。

(7) 肩合せ 縫ひ代は後に折つて表から飾り縫ひをします。

詰衿

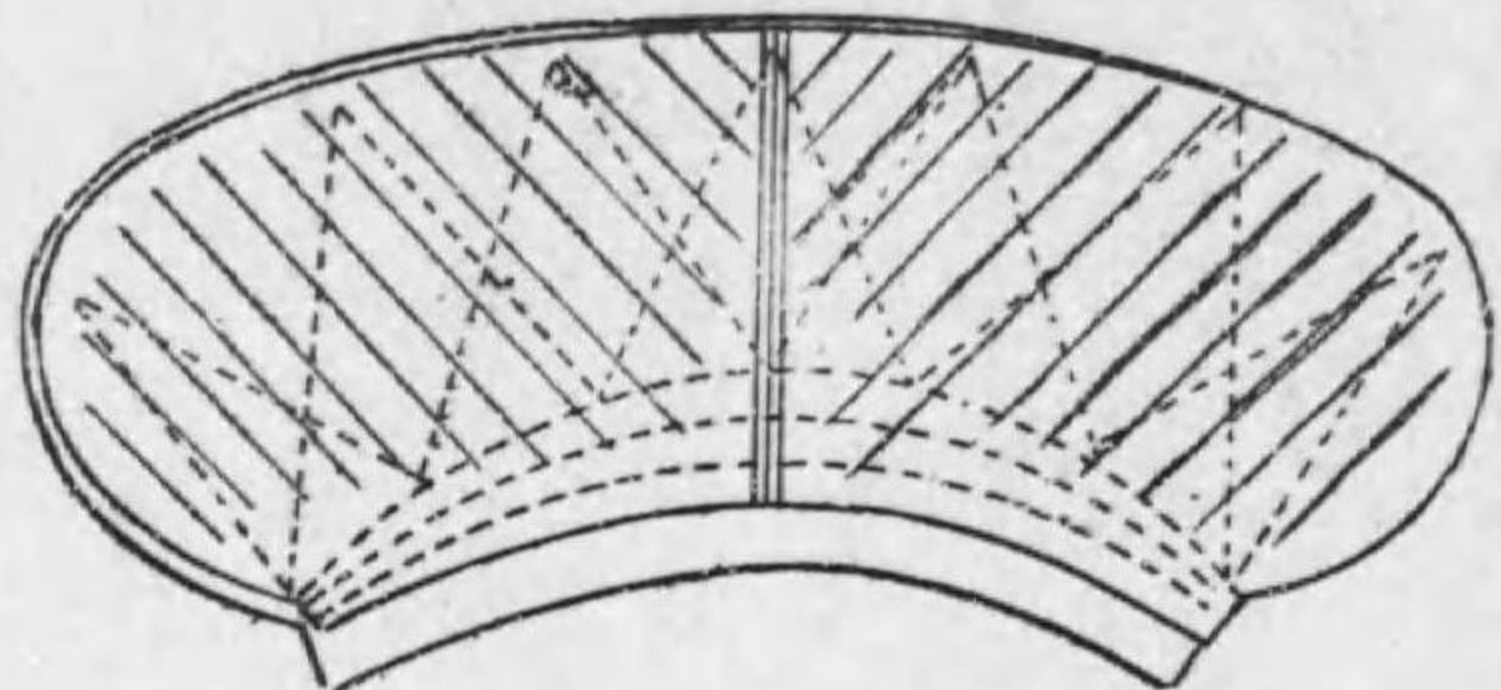
(8) 表衿と裏衿を中表に合せ表衿の方に心をのせ心には浅く針をかけて三枚一所に三方を縫ひます。

(ロ) 引き返へして圍りを毛抜き合せに折、烙鏝をかけます。

(ハ) 左の端にはホツク(鉤)を二個つけ右の端にはアイ(輪)を二個つけます。即ち兩端の縫ひ目を解いてホツク及アイを挿し入れかたく心にとちつけそれから表と裏をまつりつけておきます。

(ニ) カラをかけるために突き出たボタンをつけることがあります。即ち後の中央と左右の中央と前の兩端につけるのですがこれは必ずカラの孔に合せて下さい。ボタンはかたく心にとちつけ衿裏には小さい孔をあけてボタンを出しその根元を糸でかがつておきます。

(9) ステンカラ



(10) 衿つけ

衿つけの要領は詰衿もステンカラも殆ど變りありません。衿の表を身頃の裏に縫ひつけて衿の裏を身頃の表にまつりつけます。

(イ) 衿心は、はす布を使ひ山はぎにします。衿心と裏衿と合せて先づ衿の折山の標に横に一筋、其下の立つ所に三筋四筋横にミシン縫ひをします。次に衿の垂れる所は圍りをよく伸ばしてから圖の様に斜縦横にミシン縫ひを入れて心と裏とをすつかりつけてしまひます。

(ロ) この衿と表衿と中表に合せ三方を縫ひ引き返へして圍りを烙鏝で押へ表から飾り縫ひをします。

(ハ) 左の端にはホツクを一個右の端にはアイを一個つけます。即ち兩端衿の立つ部分の縫ひ目を解いてホツク及アイを挿し入れかたく心にとちつけてそれから表と裏をまつりつけます。

服 廣 背 篇 六 廿 第

號 七 十 第 紙 型 新



- (11) 袖 上袖と下袖を合せて外側即ち腋の方を縫ひ代を上の方に折つて表から飾り縫ひをします。内側は縫ひ目を割ります。
- (12) 袖つけ 上袖の方は幾分ゆるみがありますから先づしつけ糸で半センチばかりの縫ひ代でこまかく縫つて縮め標を合せて假縫ひをなし袖が後にはねたり前に出すぎたりせぬ程度を見はからつて本縫ひをします。縫ひ代はバイヤスでまきます。
- (13) 袖口 行を合せて折り込みまつりつけます。
- (14) ボタン孔、ボタンつけ

一、型紙の修正

前篇一、をみて下さい。説明の同じ所はこちらには省きます。

行

丈

衿圍^{せりまはり} かいふ衿^{せり}は特に修正^{しゆせい}する必要^{ひつやう}はありません。
衿^{せり}しん

二、裁ち方（衿仕立）

前篇二、をみて下さい。説明の同じ部分はこちらには省きます。
切^{きり}しつけ

型紙^{かたがみ}に示^{しめ}してある總^{すべ}ての標^{しるし}は丁寧^{ていねい}に切^{きり}しつけで左右^{さゆう}に移^{うつ}し、尙^なほ裏^{うら}にも同様^{どうやう}に標^{しるし}を

つけて下さい。

表

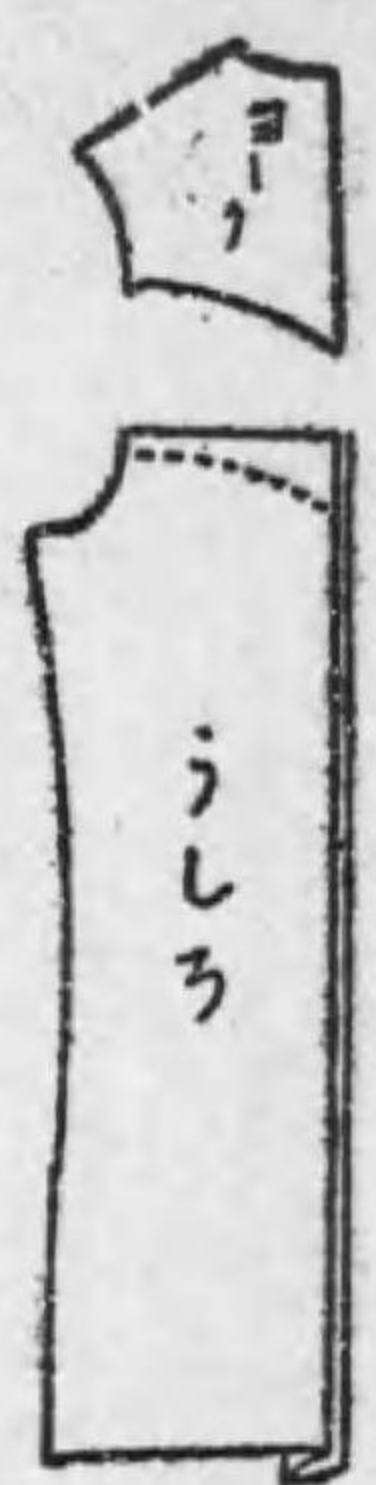
前身頃 二枚

前の見返へし 二枚

後見頃

背はわなで一枚取ります。背の中央は標通りつまんでタツクを作るのです。ヨークフエーシングの下があまり厚くなりすぎますから後身頃はヨークだけ全部なくしてもがまひません。それには型紙にヨークの出来上り線を書き入れ、身頃の方に縫代を加へたゞけ残して型紙を折り込み、それによつて後身頃を裁つのです。但しヨークフエーシングの下方は曲線になつてゐますが、身頃の上端は一直線に裁つておく方が便利です。

ヨークフエーシング 背はわなで一枚とります。これには後のタツクはありません。



衿

型紙は心の型で山はぎの縫代が入れてありますから、表衿を裁つには其の縫代を折つてそこを布のわなにあて、衿づけの布目が斜布になるやうに取ります。但しまはり型より廣く取つておいて、あとでいらぬ部分を裁ち捨てる事にした方が安全です。

ベルト 型紙の通りです。

裏

前身頃

前身頃の型紙に見かへしの型紙を載せて、その残りに見かへしの縫代を加へたものが前身頃の裏になります。便利な方法は裏を凡その大きさに裁つてこれに見かへしを縫ひつけそれから表に揃へてまはりを裁つ事です。

ポケットのふた 上が二枚、下が二枚いります

袖 型紙に布目を示す線がありますからその

通りに裁つて下さい。

後身頃 型紙を後の中心から折り、これをわなとして型通りに一枚取ります。表にヨークがあつても裏にはヨークをつけず、表にタックがあつても裏にはタックをしないのです。

袖 表と同じに取ります。但し袖口の方は表の折りかへりだけ短くてよいのです。ポケットのふた 表と同じに取ります。

ポケットの袋 全く他の布でもかまひませんが裏布が残るならそれかっ取ります。

衿 衿の裏は特に織つた裏として適當な柔イラシを使ふ事も、又表地が薄い場合は表地を使ふ事も、或は又裏地を使ふ事もあります。いづれにしても表と同様にあらましの大きさにとつておきます。衿裏にははぎがあつてもかまひません。

ベルト 表と同じです。

前身頃の心 心には麻又は半麻の心地を柔かにもんで使ひます。綿ネルでも間に合



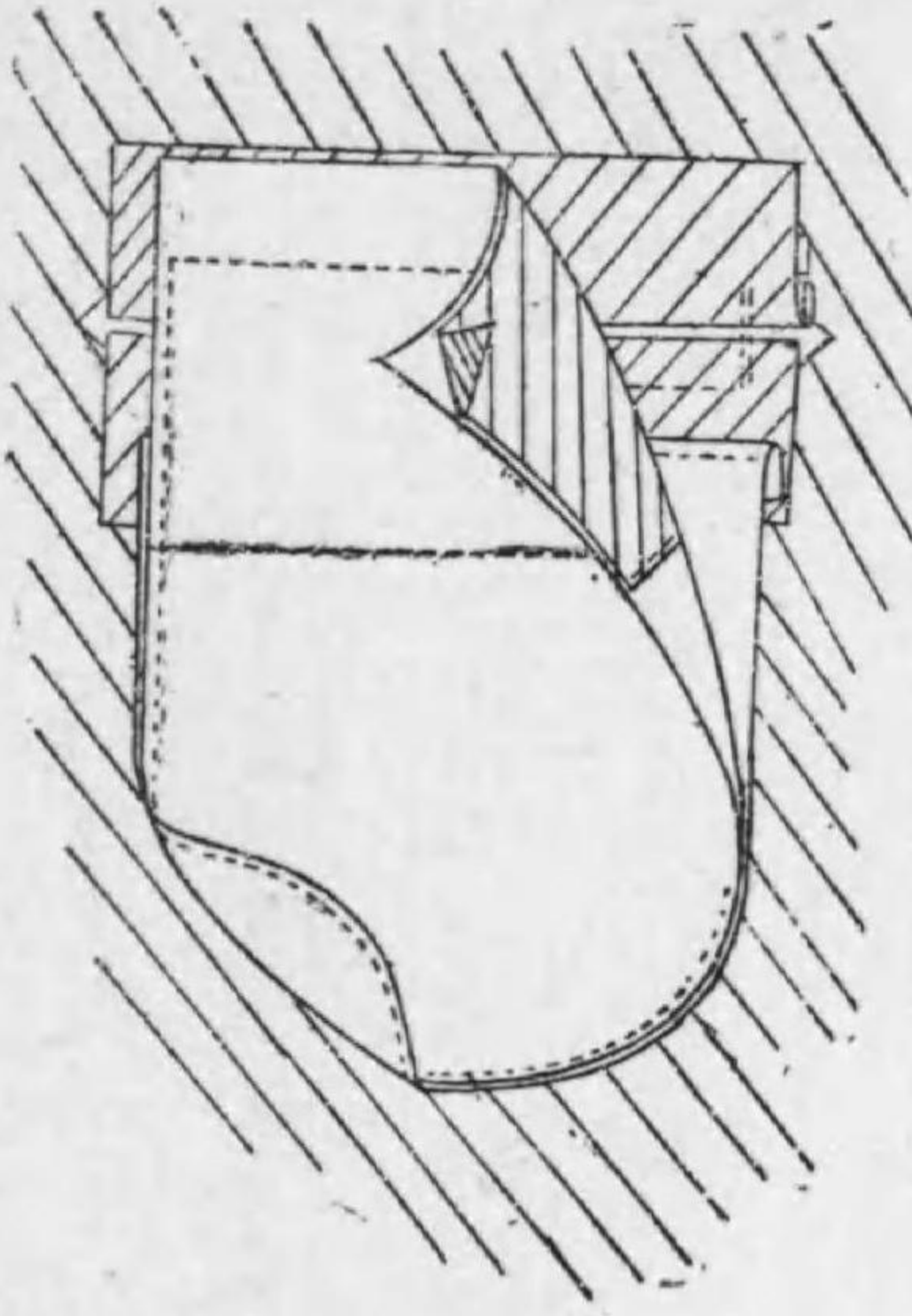
ひます。表身頃の脇のつまみをしてから其の大體の形に合せて圖に點線で示した形に取ります。

三、縫ひ方 (袷羅紗立地)

表は單衣の様に縫ひ裏は只肩と脇を縫ひ合せ、これを合せたものが裏つきのコートです。特に違ふ點は多くありませんから前篇三、を見て下さい。説明の重複する點はこちらには省きます。

- (1) 脇のつまみ 標通り縫つて縫目は割ります。
- (2) 上のポケット 袋のまはりの縫目を表見頃に出しませんから袋切は三枚いりま

す。これは挿圖を御覽下されば分ります。大體の方法は前篇の説明の通りです。



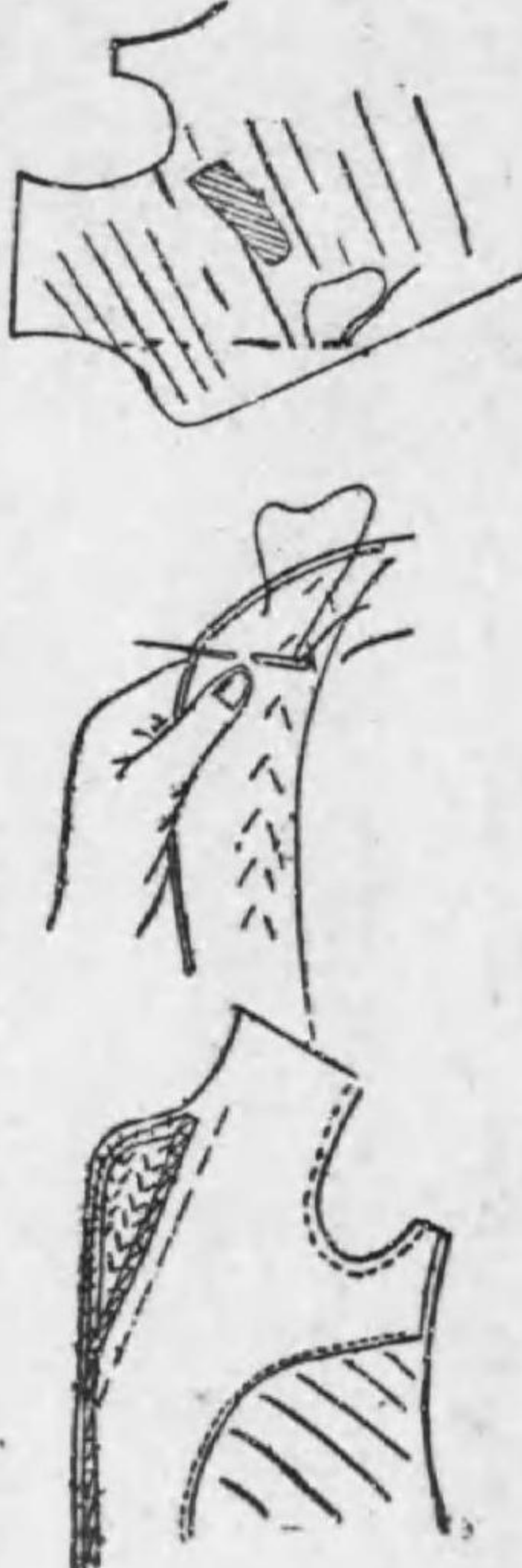
(3) 下のポケット やはり袋のまはりの縫代を表に出しません。別の袋を作ります。

(4) 前の心 心を前身頃の裏に載せ、脇は布を伸ばして表地によく添はせ、内まはりは表地を縫ふ糸で心を表地にとちつけます。前の衿に添ふて折れる山と、それから下の外まはり及び袖つけのまはりはしつけでとちつけておきます。

(5) 前の心さし 前の折りかへる部分によくその形を保つ爲に心をさします。

(イ) 先づ表を上にして衿の折りかへりの標に添ふて表から心をとちつけます。即ち返し針で表に小針を出してとちつけるのです。

(ロ) 心を上にし、折りかへりの間に斜に幾筋かの線を引き其の線に添ふて圖の様に表布を浅くすくひつゝとちて行きます。此の時、布が幾分か釣つて自然に折りかへる



手心が大切です。尙ほ心地は見かへしをつけてから縫代を切り取りますから、このとち糸は縫代にかゝらぬ様に内側でとめます。

(ハ) 裾からかけて前の端及び折り山にテープをつけます。これは詰衿の場合と同じで裁目の伸びぬ爲です。裾と前の端は平均に、折りかへる部々にはテープを少し釣り加減に、折山は平均にしつけでとちます。それから圖の様にテープを表地まで針をかけてとちつけます。

(6) 前の見かへし 見かへしを表からあて、衿つけの切込から裾までテープの耳に浅く糸をかけて縫ひます。そして心地の縫代は切り捨て、表地の縫代も半分切り捨て

成る可くかさを低くして引きかへします。そしてまはりに浅く飾縫ひをします。

(7) 前の裏 見かへしにつく方は端を裏に折つてこれを見かへしの上に乗せ、飾縫ひつけます。そして表の様に脇のつまみ縫ひをなし肩、袖つけ、脇等を表身頃にそろへて裁ちます。

(8) 折るかへり を標通りに折り、それから見かへしの奥、即ち見かへしと裏との縫代を表身頃にとちつけます。

(9) 後見頃

(イ) 表には背の中央にタツクがあります。先づタツクの山を標通りに折つて、其の突き合せの両側に少し深く飾縫ひをします。

(ロ) ヨーク又はヨークフエーシングの下端を縫代だけ裏に折り込み、これを後身頃の上に乗せて飾縫ひで縫ひつけます。

(ハ) 裏身頃は、裁切りの儘です。

(イ) (10) 肩合せ
表身頃は肩を縫ひ合せて割ります。前の心の縫代は縫目のきはから切り捨てます。

(ロ) 裏身頃も肩を縫ひ合せて縫目は割ります。

(イ) (11) 脇縫ひ
表身頃は縫目を割ります。心の脇縫代は切り捨てます。

(ロ) 表身頃も縫目を割ります。

(イ) (12) 裾
表身頃の裾は標通り折るかへして、其の端を返針で表にとちつけます。

(ロ) 裏身頃の裾は裏身頃よりひかへて折り、折山より少し奥を表の裾の折るかへしにまつりつけます。

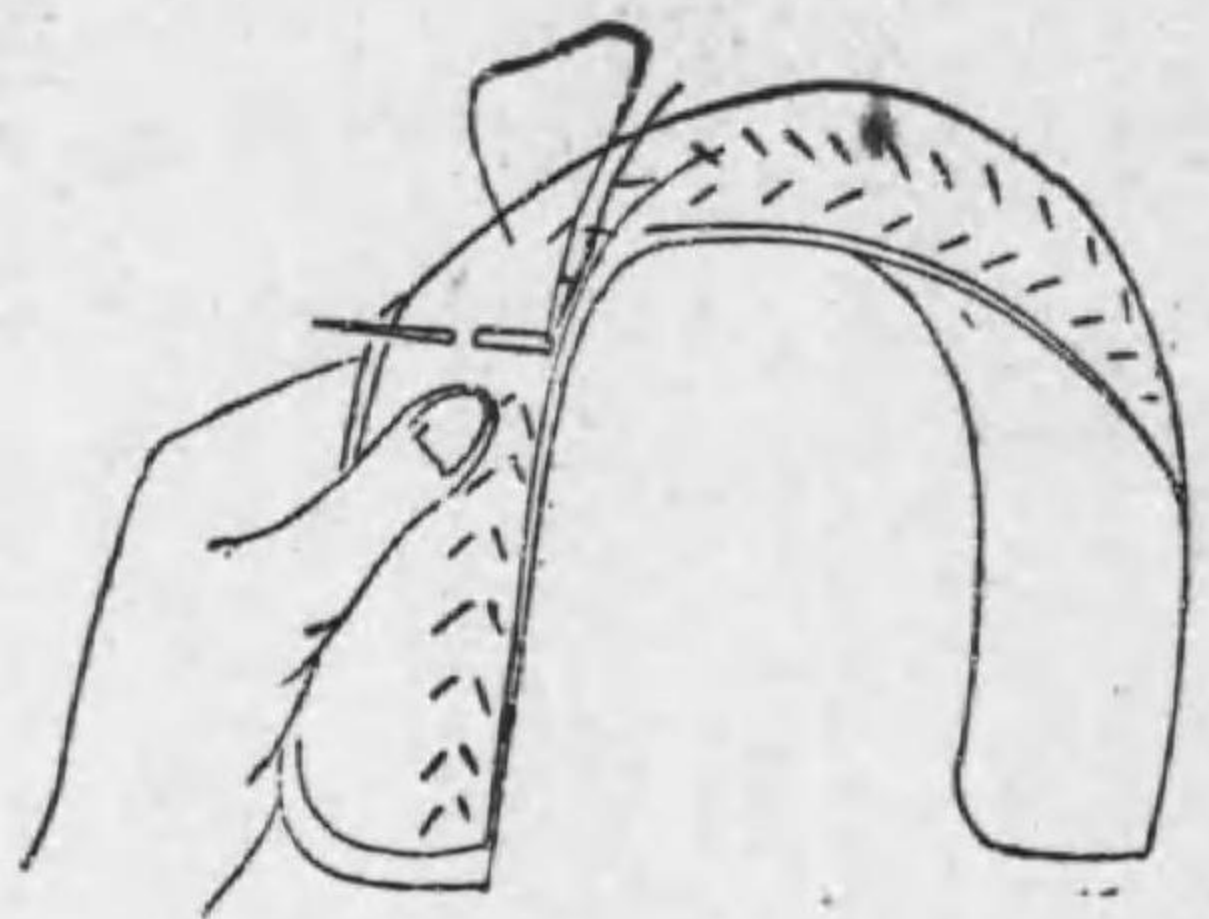
以上で身頃の大體の形が整ひましたからこれをホーム(人體ともいひます)に着せて

見て、それから衿の恰好をきめます。

(13) 衿心 山をはいで縫目を割り、假に身頃の衿圍りにつけて見ます。即ち衿圍りにチャコで縫代の標を書き、これに衿心の裁目を突き合せ衿心の方を少し伸ばして、しつけ糸ですくひつけるのです。そして衿を折つて見て、衿がよく落付くやうに衿圍りを伸ばします。すると衿にも自然に折山がつかますからそれにチャコで標をしておきます。

(14) 衿心さし 裏衿と心と合せ、裏衿のまはりをよく伸ばして心に添はせます。そして先づ衿の折山を返し針でさし、次ぎにそれから下をさし、次ぎに衿の折りかへる部分をさします。すべてさし方は「前の心さし」と同じです。但し折山及びその下はミシンで縫つてもかまひません。

(15) 表衿 表衿もまはりをよく伸ばして裏衿によく添ふ様にし、中表に裏衿と合せ



てまはりを縫ひます。そしてまはりは裏と同じに裁ち切り、衿つけの方は縫代を残して裁ち切ります。

(6) 衿つけ

(イ) 表衿を身頃の裏に縫ひつけ、衿の折りかへつて外に出る部分と、その續き少しの間は縫目を割り、その奥の部分は縫代を衿の方にかへします。

(ロ) それから表身頃の衿圍りを衿の縫代にとちつけます。裏衿は身頃の表に載せて裁目の儘こまかくまつりつけ

(17) 衿の外まはり から前身頃の端及び裾の見かへしのある限りにかけて、續きに

(18) 袖 飾縫をします。

- (イ) 表袖の脇の側と内の側を縫ひ、いづれも縫目を割ります。
- (ロ) 裏袖も同様に縫ひます。
- (ハ) 表袖の口を折り込み、その端を表にまつりつけます。
- (ニ) 裏袖を表袖の中に挿し込み、袖つけの方で裏袖を半センチ程出して、裁目から三センチ(八分)ばかり内をしついで表と裏とをとちつけておきます。
- (ホ) 袖口の方は裏を表よりひかへて折り、その折山をまつりつけます。
- (19) 袖つけ
- (イ) 表袖を表身頃につけて縫目を割ります。袖まはりには身頃の腕まはりよりも広い管でありすが、其餘裕は全體に入れ袖山の前後に幾分多く入れます。
- (ロ) 裏身頃の腕まはりの縫代を表袖つけの縫代にとちつけます。
- (ハ) 裏袖の縫代を折つて裏身頃の上に乗せてまつりつけます。
- (20) ベルト 表と裏とを合せてまはりに飾縫をします。

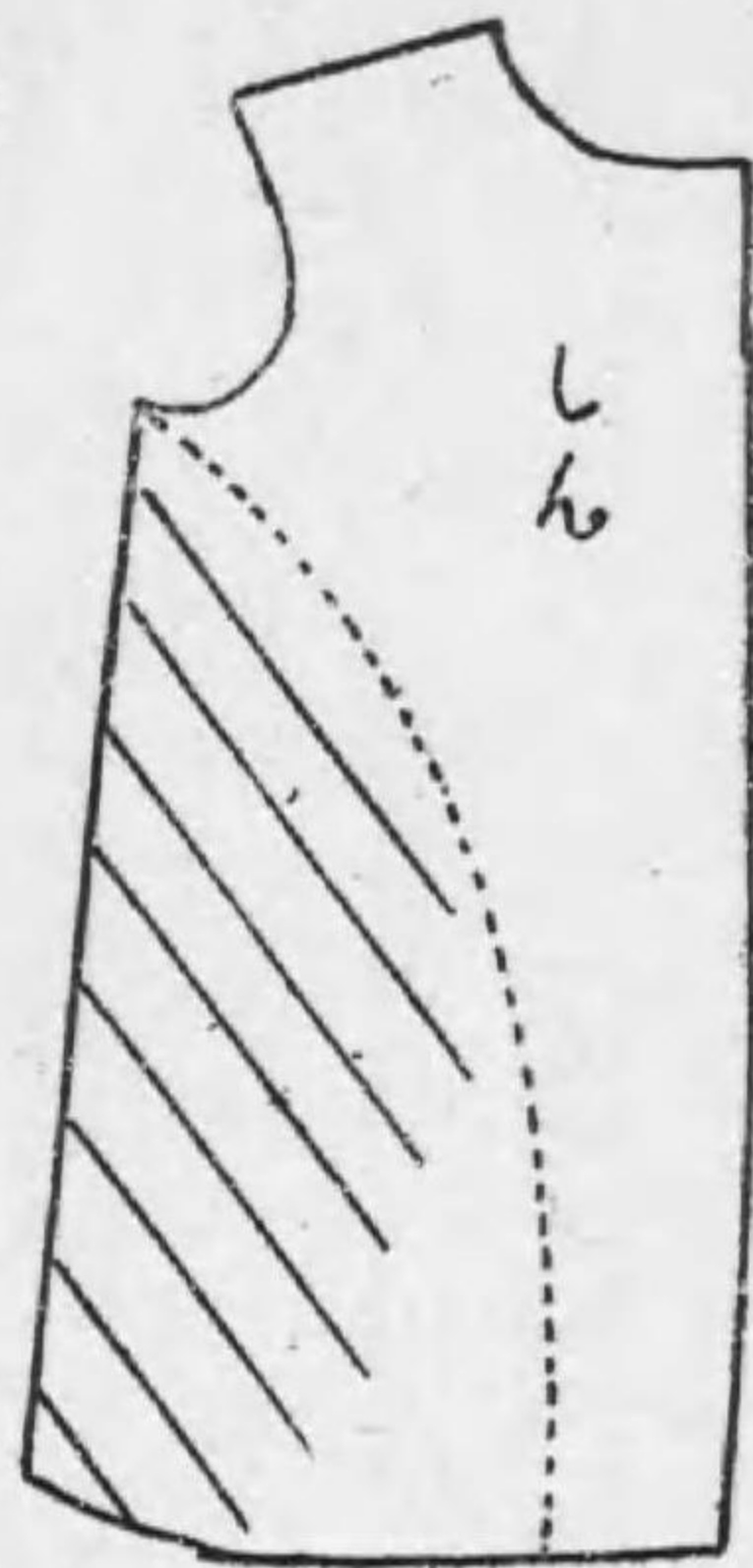
- (21) ボタン孔 ラシヤ類にボタン孔を作るには、先づ孔の標のまはりをミシンで縫ひその中間を切りあけてその裁目をまつり、それから孔かざりをします。
- (イ) 上前の中心に二個、上端のボタン孔はたゞ飾りにつけたもので、孔はあけないでかざつておくのが普通です。
- (ロ) ポケットのふたに計四個、
- (ハ) ベルトの後身頃の兩脇にあたる所に二個、上前の端に二個、計四個、
- (22) ボタン ボタン孔に對するそれ／＼の個所にボタンをつけるはもとより、外袖の縫目の上にも左右一個又は二個づつつけます。

トーカーオ見幼 篇七廿第

號十二第 紙型新



な事はしません。



一、裁ち方

行丈の伸縮は前に数回説明した通りです。表地はすべて型紙の通りに裁ちます。但しベルトは二種の内どちらか一種採ればよいのです。裏地はすべて表地と同じですが前身頃だけは見かへしの巾だけ小さく裁てばよい譯です。心地は柔い麻又は半麻の心地又は薄い綿ネルの様な物を使ひます。衿心とカフスの心は表と同じに、前身頃の心は圖に點線で示した様な形にとります。

二、縫方

此のスタイルは幼児用で男女どちらにも向きます。ごく柔に仕立ちますから心をさす様